

2014年度（平成26年度）
日野市環境基本条例第18条に基づく年次報告書

日野市環境白書



「浅川なにがいのかな」体験学習会開催

日 野 市

「浅川なにがいのかな」体験学習会開催

「浅川なにがいのかな」体験学習会は子どもたちのための環境学習活動で 2014 年度から始まりました。7 月 20 日（日）に浅川ふれあい橋付近で行われた学習会では、子どもたちは水質調査と水生生物調査（ガサガサ：写真）に参加しました。詳しくは本書の「取組のトピックス」をご覧ください。

はじめに

私たちが暮らす日野市は、市の北側を多摩川、中央部を浅川が流れ、116 キロにも及ぶ用水路が広がり、多摩丘陵や日野台地の崖線などには自然度の高い緑と湧水が存在し、水田・畑など農地も市内に点在するなど、日野市は水と緑に恵まれた「水の郷」と呼ぶにふさわしい環境にあります。



この恵まれた環境を次世代へつなごうと平成 11 年（1999 年）に多くの市民の皆様と協働して、環境基本計画が策定されました。

その後、平成 23 年（2011 年）に策定しました第 2 次環境基本計画では、望ましい環境像を「私たちの継承した自然環境を保全し、次の世代に引き継ごう」とし、先人から引き継いだ身近な自然を守り育て、次の世代に引き継げるよう、一人ひとりが自覚をもって行動することを目指しております。

日野に暮らす皆様が、身近な水辺と緑、そしてそこに暮らす多くの生きものたちと人の営みが共生できるまちづくりを目指し、自ら考え行動することが必要であります。

平成 26 年度の環境白書では、みどり分野、水分野、ごみ分野、地球温暖化分野、生活環境分野について点検、評価し、身近な環境の変化等について記載しております。

是非、皆様の目線で再点検していただき、身近な環境の変化に着目していただきたいと思います。

環境白書を通じて、私たち一人ひとりができることを考え行動し、環境負荷の低減に取り組まれることを切にお願いいたします。

日 野 市 長

大 坪 冬 彦

日野市環境基本条例と 2013 年度日野市環境白書作成の経緯

日野市環境基本条例（抜粋）

〈前文〉

私たちは、豊かな自然の恵みを受けて、生命の糧を与えられてきた。現代社会において、私たちは、大量生産・大量消費の社会システムの中で、物質的に豊かで便利な暮らしを享受する一方、自然環境の消失や資源とエネルギーの限りのない消費と多量の廃棄を生みだしてきた。このような生産と生活の在り方は、地球規模での環境破壊をもたらしている。

日野市民は、野生生物が棲み、水を育む森林、暮らしに潤いをもたらす川、農地や崖線の緑などの自然や、それらによって培われた歴史的・文化的環境を祖先から受け継いできた。このような環境を私たちの世代限りで終わらせることなく、次の世代に引き継いでいかなければならない。

私たちは、これまでの生産と生活を見直し、自然を育み、環境保全型のまちを創り出すとともに、持続可能な社会への展望を見いだすべきときにきている。

このような認識の下に、私たちは、日野市、日野市民及び事業者の責務と役割を明らかにし、良好で快適な環境を確保するとともに、環境への負荷の少ない日野市を創りあげていくために、この条例を制定する。

〈第 18 条〉

市長は、毎年、議会に、環境の保全等のために市が実施した事業の概要に、日野市環境審議会の意見を付けて、報告書を提出しなければならない。

1995 年に市民の直接請求により、上掲の前文に掲げる目的で日野市環境基本条例が制定されました。その条例の第 9 条に基づいて、1999 年に日野市環境基本計画が策定されました。この計画に定められた施策の進行状況は前記条例第 18 条に基づいて、日野市環境白書として環境審議会での審議、議会の承認を経て 1999 年度以降毎年公表してきました。2005 年には環境情報の発信拠点として日野市環境情報センター（かわせみ館）が設立され、これを契機にそれ以降の環境白書は同センターが作成しています。

この環境白書の特色は、環境基本計画で設定された分野ごとに計画の進捗を計るための数値目標を掲げ、それらの達成度から環境問題への対応を評価し、翌年度の事業に反映させたところです。

第 1 次となる環境基本計画の策定から 5 年後の 2004 年に環境基本計画の見直しが行われ、重点的に実施すべき項目とその進捗を計る数値目標を新たに追加しました。そして第 1 次計画の計画年度が満了となる 2011 年には、公募市民・事業者・市職員からなるワーキングチームにより、第 1 次計画の理念を踏襲した第 2 次環境基本計画を策定しました。その際着実にそして計画的に進められるよう、計画に掲げた施策には優先順位を設けて中長期の具体的な目標を盛り込みました。また計画の推進についても市民・事業者と各主管課が協働して実施できるような体制づくりに努めています。

今回の環境白書は第 2 次計画に掲げた施策を基本に、これまで取り組んできた内容や結果をまとめたもので、計画の策定にあたった市民と主管課が、1 年間活動した結果のコメントも掲載しています。このほか、市民団体・各学校・事業者等の環境への取組状況等も掲載しています。

望ましい環境像

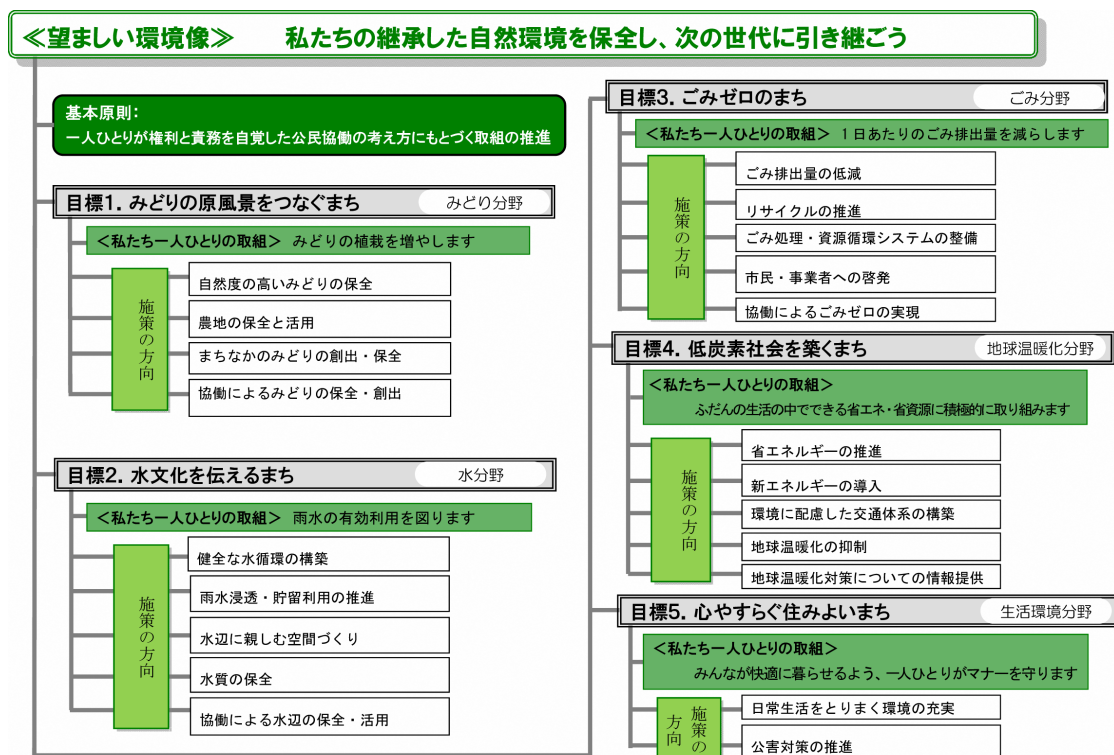
日野市環境基本計画とは

「市民が健康で安全かつ快適な生活を営む上で、必要とする良好な環境を確保するための方向性を示すもの」で、望ましい環境像は「私たちの継承した自然環境を保全し、次の世代に引き継ごう」とし、先人から受け継いだ豊かな自然を守り育て、少しでも質の高い形にして次の世代に引き継げるよう、一人ひとりが自覚をもって行動することを目指します。

【第2次環境基本計画の特徴】

- ① 潤いや安らぎを与えてきた水やみどり等の自然環境を市の財産として守り生かしながら、少しでも良くして次の世代に引き継ぐ。
- ② 計画的な施策の実施に向けた優先順位の設定や、市民一人ひとりの行動や意識をステップアップさせ、自覚と責任ある行動の浸透を目指し、確実に次の一步を進める。
- ③ 市民一人ひとりが日常生活において環境配慮を実践し、市全体の環境についても広い視点で考え行動するよう働きかけるなど、「公民協働」の考えを基本として計画を推進する。

計画の施策体系の柱は、日野市の特徴である水やみどりの分野に、ごみ、地球温暖化及び生活環境を加えた5分野です。推進主体である市民・事業者・市の役割を明確にし、お互いに連携して計画を推進していきます。



「第2次日野市環境基本計画」(2011年3月)より

2014 年度（平成 26 年度）日野市環境白書

— 目 次 —

- ・ 日野市環境基本条例と 2014 年度日野市環境白書作成の経緯
- ・ 望ましい環境像

1. 2014 年度の日野市における環境への取組のトピックス	1
(1) 「浅川なにがいのかな」体験学習会開催	1
(2) 日野市環境マネジメントシステム「ひのエコ」	3
(3) 雑木林ボランティア講座 10 周年記念シンポジウム	4
2. 環境基本計画目標達成状況	5
(1) 環境指標による計画目標達成状況	5
①指標・目標値と達成状況	5
②各分野ごとの概況	6
(2) 施策の実施状況	7
①重点施策の実施状況	7
②分野別実施状況	8
(3) 分野別実施状況の考察	9
3. 環境の状況と取組状況の評価	10
みどり分野(環境の状況/市の取組状況/市民コメント)	11
水分野(環境の状況/市の取組状況/市民コメント)	19
ごみ分野(環境の状況/市の取組状況/市民コメント)	30
地球温暖化分野(環境の状況/市の取組状況/市民コメント)	39
生活環境分野(環境の状況/市の取組状況)	45
4. 環境への取組状況	53
(1) 市民および市民・行政の協働による環境への取組状況	53
(2) 行政による環境への取組状況	78
(3) 学校等による環境への取組状況	84
(4) 大学による環境への取組状況	92
(5) 事業者による環境への取組状況	93
5. 環境関連決算額	102

6. 市役所の環境配慮の状況	103
7. 環境基本計画の推進体制	105
(1) 環境基本計画の推進	105
(2) 日野市環境情報センターの活動状況	106
8. 環境審議会の意見等	109
9. 省エネ法に関する措置	111
付表 指標・参考データ出典一覧	112



1. 2014 年度の日野市における環境への取組のトピックス

2014 年度に実施された環境問題に対する取り組みの中から、つぎの 3 項目を注目すべきトピックスとして取り上げました。

(1) 「浅川なにがいのかな」体験学習会開催（2014 年 7 月 20 日）



① イベントの目的

市の従来の水質調査は、公害調査の一環として、水環境を調査するために化学的調査と生物学的調査を行っていました。

平成 26 年度から子どもたちの身近な環境への関心を高めるきっかけとして、これまでの委託による水質調査に加え、環境学習の場としても行いました。浅川に生息する昆虫や魚類の種類と水質を調査し、併せて簡易水質調査を実施し、水質の実態も把握するなどにより、子どもたちが水の郷日野に親しみを持ち、身近な生きものと暮らす大切さを認識してもらうことなどを目的に行いました。

② 内容

a. 講師による解説

魚類、水質、水生昆虫について、それぞれの専門家と一緒に生きもの調査を行い、解説をしていただき、子どもたちにとっても好評でした。

- ・多摩動物公園 池田さん（**魚類**の専門家）

魚類の分類、浅川に生息している魚類の生態や特徴について。

- ・環境情報センター 小倉センター長（**水質**の専門家）

水質調査（COD 化学的酸素要求量）と透明度についての内容と測定方法、浅川の水質について。

- ・市民環境活動家 鶴田さん（**水生昆虫**の専門家）

水生昆虫のいる場所や生態などについて。

b. 水質調査

浅川の観察と水質（COD）の測定及び透明度の測定を、環境情報センターの小倉センター長監修のもと子どもたちで実際に測定しました。

水質については COD（化学的酸素要求量）の測定をパックテストにて 3 回ずつ行い、その値の平均は 3mg/ℓでした。

透明度については、透視度計を使い測定を行い、測定結果は 50cm 以上でした。

また、クリンメジャーを用いた透明度が 2m 以上と良好だったため、見え方の違いを知るために、砂を混ぜて濁った水の見え方の変化も観察しました。



1. 2014 年度の日野市における環境への取組のトピックス

c. ガサガサ（川で川岸や川底を揺すり、魚や水生昆虫を採る）

魚の生息する草の根や水底の石を揺すり、下流に設置した網に追い込む方法で、魚や水生昆虫を採取しました。魚はオイカワ、アブラハヤ、シマドジョウなど、水生昆虫は、ヤゴ、カゲロウ、トビケラ、シマビルなどが採れました。



真剣に魚を採る子どもたち



大きな魚：ヨシノボリ 小さな魚：アブラハヤ

③ 成果（参加者の感想や当日のやり取りなどから）

◇参加した子どもたちに、自分の身近な自然環境である浅川に直接触れ合うことにより、水の大切さを理解してもらえました。

◇専門家のもとで、採集と分析調査などに興味を持って取り組む姿が見え、楽しくためになる環境学習となりました。

◇夏休みの自由研究の題材の一つとして、生きものどうしの命のつながり（連鎖）について理解を深める場となりました。

参加者の声

○また参加したい。

○企画した人がやさしく教えてくれた。

○最初は採れなかったが、だんだんコツをつかんで、上手く採れるようになった。

○すごく楽しかった。時間が短く感じた。

○今まで知らない生きものがいっぱい居て驚いた。

○後日、パックテストを用い、ほかの川（旅行先）で測定してみたところ、日野市の川はきれいだったと知った。

○たくさんの生きものがいることに驚いた。

などの声をいただきました。

④ 今後に向けて

環境保全課では、子どもたちに日野の身近な自然に触れ合うことで、命のつながりを知り、学び、考え、行動できる人になって欲しいと願っています。引き続き環境情報センターと協力し、より多くの市民の方々が体験型の環境学習に参加できる機会を増やしていきたいと考えています。



(2) 日野市の環境マネジメントシステムが独自の「ひのエコ」に変わりました

日野市では、平成 12 年 12 月に ISO14001 の認証を取得しました。適用範囲となる部署を順次拡大しながら、職員の努力により環境負荷低減に大きな成果をあげてきました。

例を挙げると、本庁舎の可燃ごみ排出量は、平成 11 年度と平成 24 年度を比較して 91.8%もの削減を達成しました。

平成 24 年 12 月には取り組みの定着、連携市（調布市・府中市・昭島市）との相互監査の確立を背景に、ISO14001 の認証を返上し、自己適合宣言へ移行しました。

その後、平成 25 年 2 月の環境管理委員会において、対象施設の拡大などを目的に、平成 26 年度 4 月に日野市独自の環境マネジメントシステム「ひのエコ」に移行することを決定しました。



○これまで培った精神の継承

基本的には従来のシステムの方式を用います。運用にあたって見直すべき部分は見直し、実効性のあるシステムを目指しますが、これまで培ってきた「職員が作り上げてきた日野市の ISO14001」の精神を形骸化させないものとします。

○さらなる省エネ・省資源にむけて

対象施設の拡大により、これまでのシステムで把握していなかった数値が見えてきます。まずは現状を把握することが、環境改善に向けた第一歩となります。

また、廃棄物排出量ゼロの取り組みを「廃棄物のゼロエミッション」と題して実施します。具体的には、紙の収集方式を変更し、これまでよりも多くの紙をリサイクルできるようにします。まずは本庁舎で実施しますが、順次他の施設でも実施できるよう検討します。

○やりがいをもって成果を出す（好循環の創造）

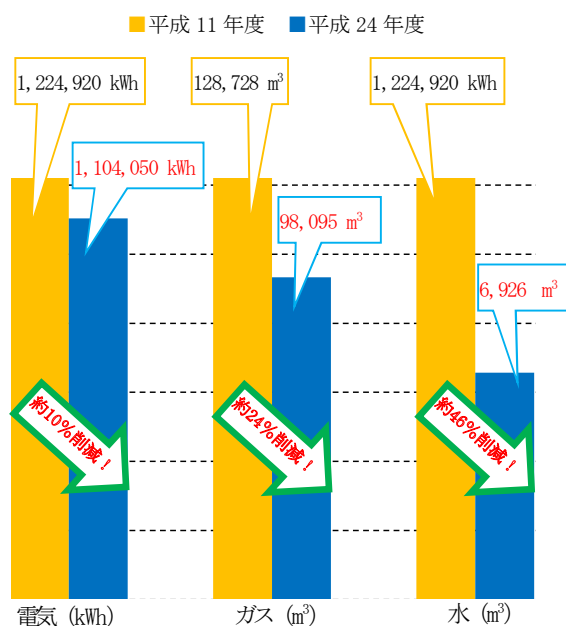
日野市の ISO14001 は環境負荷低減に多大な成果をあげてきました。前述の可燃ごみ排出量の削減のほか、エネルギーの面でも削減額は、概算で累計 1 億 1 千万円にもものぼります。

（平成 11 年度比 年間約 840 万円削減×13 年）

近年もエネルギー削減率は高い数値で推移しており、省エネ・省資源の意識は職員に深く浸透しているといえます。「ひのエコ」では、マニュアルを平易なものに改定することとあわせ、職員に根強くあったシステムへの苦手・面倒という意識を軽減し、より積極的にシステムの運用にあたるよう、取り組みやすく、かつ成果の出るシステムづくりを心がけます。

また、成果の見える化を推進し、職員のやりがいの向上と「取り組みやすい⇒成果が出る・見える⇒より熱心に取り組む」という好循環をつくることを目指します。

【本庁舎のエネルギーの削減量】





(3) 日野市雑木林ボランティア講座 10 周年記念シンポジウムを開催

主催 水と緑の日野・市民ネットワーク
共催 ひの緑のトラスト、日野市

日野市の雑木林を守るボランティアを育成するため、平成 17 年度から市民団体と日野市が協働で「日野市雑木林ボランティア講座」を開催し、これまで本講座の修了生を中心に南丘雑木林を愛する会、真堂が谷戸蛸の会、日野団塊世代広場などの雑木林ボランティア団体が設立され、また既存のボランティア団体にも本講座修了生を送り込むことができました。

平成 26 年度は本講座開設 10 周年となることを記念し、11 月 30 日に日野市生活・保健センターで日野市とボランティア団体の信頼関係を更に構築し日野市の緑を守るためのシンポジウムを開催したところ、100 名にも及ぶ市民が参加する盛大な催しとなりました。

○基調講演「雑木林と昆虫」講師：矢島稔 氏

萌芽更新で、腋芽の若い芽にクワナケクダアブラムシがつき、そこに来たクロオオアリがアブラムシから蜜をもらい共生関係を結び、更にクロシジミの幼虫も冬の寒い日を地中の温かい、このアリの巣の中で暮らして大きく成長します。

しかし雑木林の手入れがされなくなり、2010 年にはクロシジミは絶滅種に指定されてしまいました。このまま雑木林が放置されると昆虫界にも大きな影響を及ぼすことが懸念されます。

○大坪市長より感謝状の贈呈

日野市の雑木林で活動している 6 つのボランティア団体(南丘雑木林を愛する会、倉沢里山を愛する会、東豊田緑勇会、東光寺緑地ボランティアの会、真堂が谷戸蛸の会、日野団塊世代広場)と講座のボランティア講師(飯島利三氏、橋本幸久氏)に対し、長年の緑地管理の功績と今後に期待を込めた感謝状が、大坪市長から贈呈されました。受賞者を代表して橋本氏から、今後の活動に向けた力強い謝辞がありました。

○話題提供「新しいレクリエーションとしての雑木林」倉本宣 氏（明治大学教授）

単なる雑木林の管理ではなく、ボランティアの作業が自然をつくることや、雑木林から必要とされるという生きがいなど、新しい形のボランティア観の話は新鮮でした。

○パネルディスカッション コーディネーター 倉本宣 氏

日ごろの活動を各団体の代表などがパワーポイントで紹介しました。機械を使って萌芽更新作業などに取り組んでいる団体、手作業を中心に下草刈りなどで植物の保護や生物多様性に取り組んでいる団体などからそれぞれの特徴ある報告がありました。

最後にボランティア講師、環境共生部長を交えて 6 ボランティア団体と雑木林の今後の展望などが話し合われ閉会となりました。

雑木林のボランティア活動を「自分たちで自然を創る喜び」（倉本氏談）や「目的意識を持って楽しく汗をかく喜び」として位置づけ、明るい健全な雑木林を次世代に引き継ぐことを皆で考えたシンポジウムでした。

2. 環境基本計画目標達成状況

(1) 環境指標による計画目標達成状況

2011年3月に新たに策定された「第2次日野市環境基本計画」では、“将来の望ましい環境像”が掲げられています。この“将来の望ましい環境像”に対し、分野ごとに指標と目標値が設定されています。これらの指標の目標年次は、基本計画策定時から10年後の2020年度（平成32年度）としており、当白書で年度ごとに各数値を確認することにより、目標の実現に近づいているかどうかを把握することができます。

① 指標・目標値と達成状況

各分野の指標と目標値、現況値は以下の表の通りです。

なお、指標の中には、都や国土交通省などの提供によるデータを用いたものなど、毎年調査されないものも含まれています。各年度における数値が得られないこれらの数値については、調査年度を併記しています。

	指 標	基準(年度)	現状(平成26年度)	目標(平成32年度)
みどり分野	土地利用現況調査「森林」の割合	7.4%(平成19年度)	6.7%(平成24年度)	7.4%
	農地面積	197.0ha(平成21年度)	174.0ha(平成26年度)	160ha
	市民一人当たり都市公園面積	7.13㎡/人(平成21年度末)	7.15㎡/人(平成26年度)	9.00㎡/人
	緑被率※1	32.7%(平成19年度)	31.7%(平成24年度)	32.7%
	【参考】新しいみどりの面積※2	約200ha(平成20年度)		参考指標のため目標値は設定しません。
水分野	浅川の水位	【浅川橋】年平均0.8m※3	年平均0.61m(平成26年度)	年平均0.8m
	湧水確認地点数・湧水量	【地点数】179箇所 【湧水量】9888.3t/日 (平成21年度)	【地点数】127箇所 【湧水量】10,999t/日 (平成26年度)	【地点数】179箇所 【湧水量】10,000t/日
	用水の水質の状況	生活環境の保全に関する環境基準B類型に適合(平成21年度)	生活環境の保全に関する環境基準B類型に適合(平成26年度)	生活環境の保全に関する環境基準B類型に適合
	河川・用水・湧水の水生生物確認状況	底生生物:90種、魚類:15種、付着藻類:42種(平成21年度)	底生生物:105種(用水路) 魚類:19種(用水路) 付着藻類:18種(浅川) (平成26年度)	底生生物:90種、魚類:15種 付着藻類:42種
	水辺に親しみやうおを感じる市民の割合	意識調査で、「自然環境が良い(水とみどり、農のある風景など)」という回答率80.4%(平成21年度) (「日野市市民意識調査結果報告書」平成22年3月、企画調整課)	今後調査予定	85.0%
分分野	1人1日当たりのごみ排出量	721g(平成21年度)	654g(平成26年度)	600g
	資源化率	35.7%(平成21年度)	35.7%(平成26年度)	40.0%
地球温暖化分野	日野市二酸化炭素排出量(全体)※4	763(10 ³ t-CO ₂) (平成2年度)	753(10 ³ t-CO ₂) (平成24年度)	短期目標 10%(75.0kt-CO ₂) (平成27年度) 中期目標 18%(128.6kt-CO ₂) (平成32年度) 長期目標 60%(450.0kt-CO ₂) (平成62年度)
	日野市二酸化炭素排出量(部門別)※4	産業部門 277(10 ³ t-CO ₂)	産業部門 204(10 ³ t-CO ₂)	産業部門 232(10 ³ t-CO ₂)
		家庭部門 162(10 ³ t-CO ₂)	家庭部門 247(10 ³ t-CO ₂)	家庭部門 123(10 ³ t-CO ₂)
		業務部門 100(10 ³ t-CO ₂)	業務部門 120(10 ³ t-CO ₂)	業務部門 70(10 ³ t-CO ₂)
		運輸部門 209(10 ³ t-CO ₂)	運輸部門 162(10 ³ t-CO ₂)	運輸部門 91(10 ³ t-CO ₂)
		廃棄物部門 15(10 ³ t-CO ₂) (平成2年度(1990年);基準年)	廃棄物部門 20(10 ³ t-CO ₂) (平成24年度)	廃棄物部門 14(10 ³ t-CO ₂) (平成24年度(2012年度))
	エネルギー使用量※5			
	公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率	78.2%(平成21年度)	79.6%(平成26年度)	
	公共交通機関(ミニバス・バス)の利用人数	ミニバス:152万人(平成21年度) バス:1,164万人(平成20年度)	ミニバス:147.6万人※6(平成26年度) ワゴンタクシー:2.8万人(平成26年度)	80.0%
	CO ₂ 削減のための行動をしている市民・団体の数(「ふだん着でCO ₂ をへらそう宣言※」の宣言数)及びCO ₂ 削減量(宣言項目の実践により見込まれる値)	6,438世帯・141団体 3,165t-CO ₂ [年間] (平成20年度)※7	40,239世帯・2,548団体 15,975t-CO ₂ (平成26年度)	ミニバス:158万人※6 35,000世帯・2,500団体 16,160t-CO ₂ [年間] (平成24年度/事業完了時)※7
	生活環境	意識調査で、「きれいな水や空気、騒音や臭い害がないなど、良好な生活環境が確保されている」という回答率36.0%(平成21年度) (「日野市市民意識調査結果報告書」平成22年3月、企画調整課)	今後調査予定	50.0%

4 年目



6 年後



※1 土地利用現況調査の土地利用分類でのみどり率〔公園、運動場等、田、畑、樹園地、採草放牧地、水面・河川・水路、原野、森林の合計面積の市域面積に対する割合〕

※2 市が実施した人工衛星画像解析調査で得られたみどりの面積から東京都土地利用現況調査のみどりを差し引いた面積（企業、工場、学校等のみどり）

※3 国土交通省提供データ（平成21年度）

※4 二酸化炭素排出量（全体・部門別）は、平成23年度策定の「第3次日野市地球温暖化対策実行計画」による。現状値の記載されている年度が最新年度となる。

※5 エネルギー使用量については、「第2次日野市環境基本計画」では目標値を掲げていたが、「第3次日野市地球温暖化対策実行計画」には目標値が設定されていないため、現状値のみを掲載する。現状値の記載されている年度が最新年度となる。

※6 一般路線バスについては、目標値設定していない

※7 CO₂削減量は一般世帯分のみ換算

*ふだん着でCO₂をへらそうの宣言・・・家庭や事業所からのCO₂排出量を削減するために、ふだん着感覚でできる取り組みを市民・事業者で紹介し、取り組みに繋げるための事業。

② 各分野ごとの概況

○みどり分野：「みどりの原風景をつなぐまち」

「土地利用現況調査における森林の割合」と「緑被率」、「農地面積」、「市民一人当たり都市公園面積」に目標値が定められています。「森林の割合」と「緑被率」については現状維持を目標としていますが、根拠となる土地利用現況調査は5年毎の調査となっています。従って、各年度では「農地面積」と「市民一人当たり都市公園面積」の推移に注視する必要があります。

今年度得られた統計データでは、「農地面積」は微減していますが、「市民一人当たり都市公園面積」は微増しており、緑量は概ね維持されているものと推察できます。都市公園面積＝緑被面積＝森林面積ではない点に注意が必要です。

○水分野：「水文化を伝えるまち」

浅川や湧水、用水の水量、水質や水生生物の確認状況について、概ね現状を維持するための目標値が定められています。河川の水位は降水量などの不確定要素に左右される部分もありますが、年度ごとに均してみると比較的安定した傾向を保っています。湧水量については増加していますが、地点数については減少傾向が続いており、継続的な監視が必要です。水質については箇所ごとによっては増減がありますが、全体としては良好です。水生生物の生息状況については、計測地点ごとの増減はありますが、前回の調査（3月）と今回（8月）の結果を比較することは難しいため、今後の継続的なデータ収集による比較が必要です。

○ごみ分野：「ごみゼロのまち」

「1人1日当たりのごみ排出量」は計画策定時よりも目標に近づき、「資源化率」は計画策定時と同様です。経年的な変化などの詳細は次章にまとめられていますが、その他の個別施策の数値とも安定している傾向が認められます。

○地球温暖化分野：「低炭素社会を築くまち」

環境基本計画では、「二酸化炭素排出量」、「エネルギー使用量」について、2013年度（平成25年度）以降の目標値は「第3次日野市地球温暖化対策実行計画」（以下、第3次実行計画）で定めるものとしていました。従って、ここで掲げる目標値は第3次実行計画のものとなっています。また、基準値についても、基準年度は同じですが、環境基本計画と第3次実行計画で用いている統計手法が異なるため、第3次実行計画のものに改めています。

第3次実行計画では「二酸化炭素排出量」について、国の計画に合わせ、削減率（量）を目標値とするよう改められています。また、全体として二酸化炭素排出量の削減に目標が集約されており、「エネルギー使用量」は目標としては掲げられないものとなりました。

二酸化炭素の削減量において、2012年度の削減量は基準年比1.3%で2011年度（5.4%）より減少しています。

「ミニバスの利用人数」については、昨年度より72,000人増加し、目標値の158万人に徐々に近づいています。

2. 環境基本計画目標達成状況

○生活環境分野：「心やすらぐ住みよいまち」

目標に掲げる指標は毎年の調査を想定しておらず、数年おきに行われる「日野市市民意識調査」の結果により評価されます。

年度ごとの状況を測る指標として、当白書では次章の＜環境の状況＞に示す「苦情の受付件数」の推移をまとめています。2014年度も騒音等の苦情件数が大幅に減少しました。市民一人ひとりが快適に暮らすために引き続きマナー啓発を含めた取り組みを進める必要があります。

(2) 施策の実施状況

①重点施策の実施状況

環境基本計画における個別施策の中で、重点施策と位置づけられたもののうち、前項の環境指標と同様に目標値が掲げられているものについて、下記に示します。年度ごとの目標値も各主管課により設定されています。

重点施策実施状況一覧

分野	施策の方向	施 策 (主 管 課 名)	活動指標	年度目標値 (平成26年度)	実績値 (平成26年度)	達成 状況
み ど り	自然度の 高いみどり	市民緑地活動の積極的 支援 (環境保全課)	緑のトラストへの 寄付件数	800(件)	279(件)	×
		ボランティアによる 里山の管理と活用 (緑と清流課)	雑木林 ボランティア 講座修了者数	215(名)	216(名)	○
	農地の 保全と活用	市民農園等の拡充 (産業振興課)	市民農園等の 箇所数	市民農園の数 17(園) 農業体験農園の数 3(園)	14(園) 3(園)	○
		地元野菜にふれる 機会の充実 (産業振興課)	直売所、即売所の 箇所数 学校給食野菜等 納品農業者数	直売所 4(箇所) 定期即売会 3(箇所) 給食野菜納品農業者数 42(人)	5(箇所) 6(箇所) 44(人)	○
水	健全な 水循環の 構築	水循環に寄与する 方策の検討 (緑と清流課)	水収支の 実態把握	湧水確認地点数 一 湧水量 一 (年度目標値なし)	127(箇所) 10,999(t/日)	○
	協働による水 辺の保全・活 用	水辺に親しむ活動の推進 (緑と清流課)	水辺イベントの 開催数	水辺の楽校による水辺での 活動実施校 2(校) 水辺の環境教育・学習の 実施回数 60(回)	2(校) 61(回)	○
ご み	ごみ排出量の 低減	レジ袋無料配布中 止の拡大 (ごみゼロ推進課)	マイバッグ持参率	マイバッグ持参率 62(%)	64(%)	○
		容器包装お返し大作戦の 展開 (ごみゼロ推進課)	ペットボトル、 発泡トレイの 行政回収量	564(t)	451(t)	○
	リサイクルの 推進	生ごみの家庭内循環 (自家処理)の普及促進 (ごみゼロ推進課)	生ごみ処理器 補助の件数 生ごみリサイクルステッカー 掲示世帯数	生ごみ処理器補助の件数 累計3,850(件) 生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数 累計3,200(件)	4,368(件) 1,116(件)	△
	市民・事業者 への啓発	情報提供ツールの充実 (ごみゼロ推進課)	環境学習出前 講座の実施回数 ごみ相談窓口への 相談件数 クリーンセンター 見学者数	環境学習出前講座の実施回数 49(回) ごみ相談窓口への相談件数 5,050(件) クリーンセンター見学者数 2,040(人)	35(回) 5,651(件) 1,683(人)	○
	協働によるご みゼロの実現	新聞紙の民間回収への移行 (ごみゼロ推進課)	新聞紙の 行政回収量	1,268(t)	574(t)	○
地 球 温 暖 化	省エネルギー の推進	CO ₂ の見える化の推進 (環境保全課)	ワットチェッ カー・ 省エネナビの 貸出数 環境家計簿の 活用件数	ワットチェッカー貸出数 50(件) 省エネナビ貸出数 10(件) 環境家計簿活用状況 1,000(件)	53(件) 37(件) 11,086(件)	○
		省エネ診断の支援 (環境保全課)	省エネ診断の 参加事業者数	100(件)	2(件)	×
	新エネルギー の導入	太陽光発電等導入 補助の実施 (環境保全課)	太陽光発電等の 導入補助件数	50(件)	57(件)	○
		太陽光、太陽熱、 風力等の積極的な活用 (環境保全課)	公共施設の 新エネルギー 導入状況	累計 133(kw)	157(kw)	○
	環境に配慮し た交通体系の 構築	渋滞の解消 (道路課)	都市計画道路の 整備率	92.8(%)	92.8(%)*	○
生 活 環 境	日常生活を とりまく環境 の充実	P Rの実施 (環境保全課)	マナーアップの ための啓発 活動状況	広報、街頭キャンペーン等実施回数 14以上(回)	17(回)	○

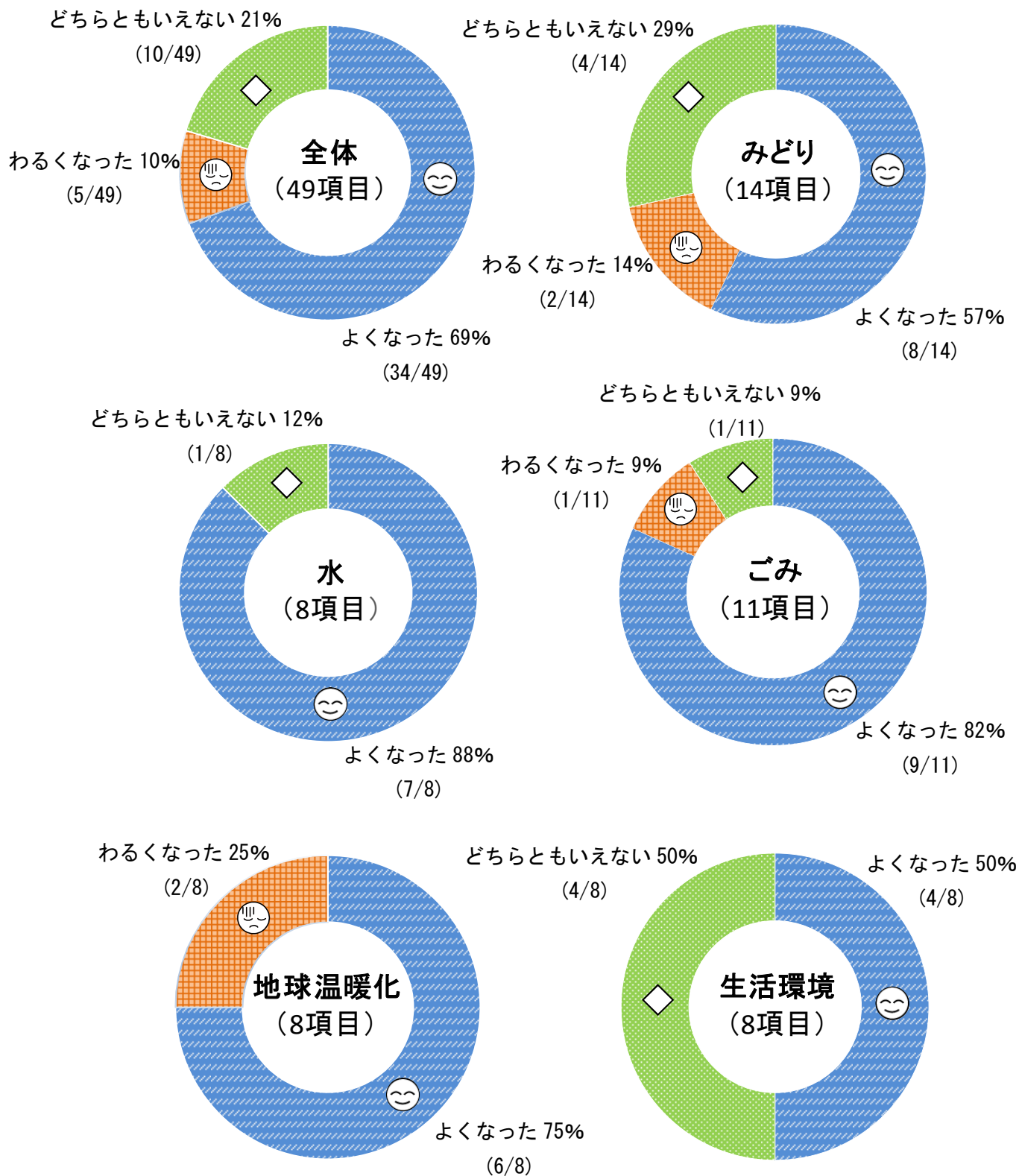
*今年度は都計道整備準備中の為、整備率は昨年度より向上していない。

○：達成・実施(70%以上) △：一部達成・一部実施 ×：未達成

②分野別実施状況

※以下のグラフは、「環境基本計画」に関連する、本白書記載の49指標について分野別取り組み状況を示したものです。

😊 よくなった 😞 わるくなった ◇ どちらともいえない



2. 環境基本計画目標達成状況

(3) 分野別実施状況の考察

○みどり分野

本白書掲載の指標数は14項目と、最も多い分野です。また、取り扱う施策が自然環境からまちなかの緑地および農業と幅広いことも特徴です。

達成状況は、「よくなった（目標70%以上含む）」が8項目、「わるくなった（未達成等）」が2項目、「どちらともいえない」が4項目となっております。

「わるくなった」の内訳の一つ目は緑地信託面積の減少ですが、これは公有化を図るべく、先行取得により解除を行ったことによるものです。二つ目は、緑のトラスト寄付件数についてです。年度目標には到達していませんが、着実に緑のトラスト活動を広めていくために、継続した広報活動に努める必要があります。

○水分野

本白書掲載の指標は8項目です。達成状況は「よくなった」が7項目、「どちらともいえない」が1項目です。

なお、今年度から参考の「水生生物による水質の生物学的判定」の調査が再開されました。この施策は、環境基本計画において目標値が設定されている事項の一つであり、水辺環境の変化を捉える上で重要なものです。その変化を把握するために、継続した調査を行うことが求められます。

○ごみ分野

本白書掲載の指標は11項目です。達成状況は「よくなった」が9項目、「わるくなった」が1項目、「どちらともいえない」が1項目です。

「わるくなった」の指標は、生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数です。その要因として同ステッカーとそのシステムの周知が十分でないことが考えられます。今後は、より一層の啓発や施策の拡大が必要となってきます。

○地球温暖化分野

本白書掲載の指標は8項目です。達成状況は「よくなった」が6項目、「わるくなった」が2項目です。

「わるくなった」の一つ目は二酸化炭素排出量です。2010年までは減少傾向でしたが、2011年以降増加傾向に転じています。要因としては多様な家電製品の普及や火力発電稼働増加等が考えられますが、今後はそれらのより一層の究明が求められます。二つ目は省エネ診断の参加事業者です。2013年からは市内業者を訪問し、省エネ診断の意義を周知することにより、参加事業者数の増大を図っています。今後とも工夫した啓発活動が重要となります。

○生活環境分野

本白書掲載の指標は8項目です。達成状況は「よくなった」が4項目、「どちらともいえない」が4項目です。

施策としては直接的な効果が得にくい分野ですが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、更なるよりよい環境に向けた取り組みが必要と思われます。

3. 環境の状況と取組状況の評価

分野別の環境の状況と日野市の取組状況

ここでは、「日野市環境基本計画」における望ましい環境像を実現する5つの分野である、みどり、水、ごみ、地球温暖化、生活環境について以下の流れで順に紹介します。

「環境の状況」

「日野市環境基本計画」では、分野ごとの指標となる目標値が設定されています。これらの指標に対する値をみることで、現在の環境の状況を把握するとともに、望ましい環境像に近づいているかどうかを確認することができます。前章では指標の達成状況や実施状況を示しましたが、ここでは、指標の現在までの推移などをみることができます。

各指標の冒頭には変化の方向を示すため、下記の凡例に従って記号を示しています。

😊	よくなった（目標 70%以上含む）
😞	わるくなった（未達成等）
◇	どちらとも言えない、判断できない（定量的な比較が困難なもの等）

「市の取組状況」

「市の取組状況」では、分野ごとに各施策と具体的な取り組み、実施状況を表にて整理しています。施策の実施状況については、業務内容が環境に関連の深い市役所の課を対象に実施状況の調査を行い、その結果を分野ごとに掲載しています。

また、施策の実施状況や、進捗状況、効果等を確認するために指標の推移をグラフや表でまとめています。

なお、全ての施策について掲載すると膨大な量となるため、重点施策や定数的な評価が可能な施策を抽出しています。

ここで述べる重点施策とは、基本計画で設定されたもので、2011 年度から 2020 年度まで取り組むべき施策のうち、特に環境保全の面で重要度が高く優先的に展開していくべきものや、“日野らしさ”の創出につながるものを取りあげられています。

「市民コメント」

2001 年度以降、白書には環境基本計画作成に携わった方々による分科会ごとのコメントを掲載してきました。引き続き今回も環境基本計画推進会議に参加する市民のコメントを掲載しました。

みどりの分野

< 目 標 >

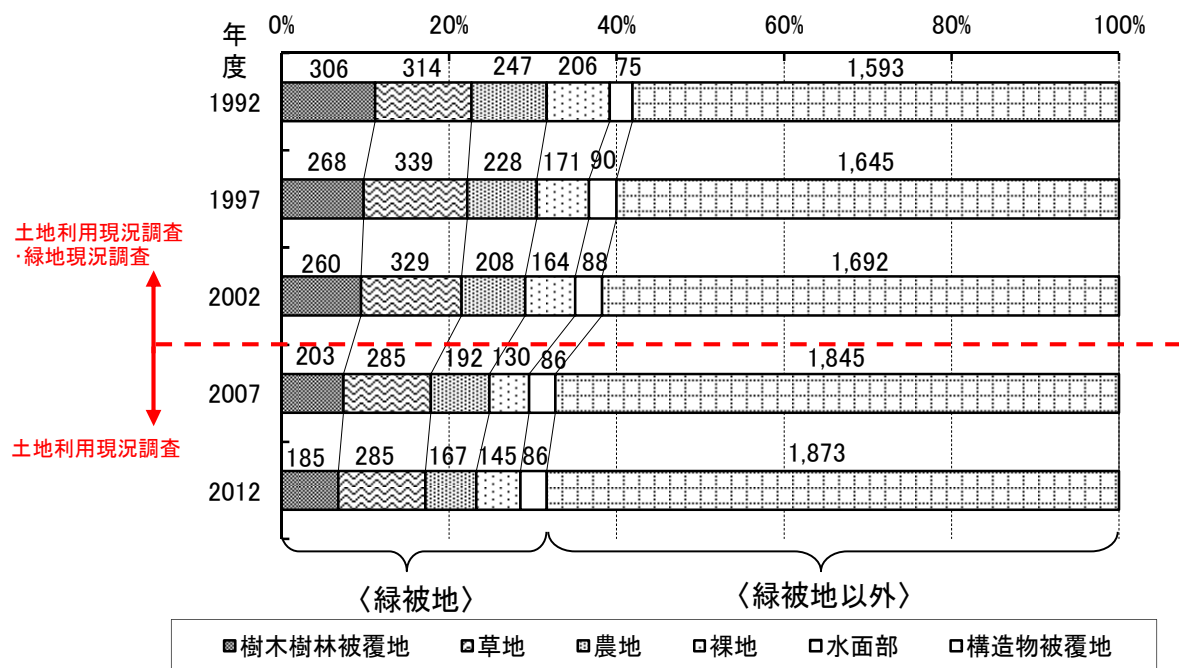
みどりの原風景をつなぐまち

1. <環境の状況>

1. -1 土地利用現況調査「森林」の割合と緑被率

森林の割合
目標値: 7.4%
緑被率
目標値: 32.7%
(平成 32 年度)

☺ 指標 1: 緑の構成比[5 年毎調査]



(※グラフ中の数字は面積 (ha))

※1992～2002 年度調査は土地利用現況調査と同時に行う緑地現況調査の成果報告値。
2007 年度以降の調査は東京都が行っており、緑地現況調査は実施されなかったため、土地利用現況調査のみどり率から抽出したもので、全く調査内容が異なる。

2002 年度までは日野市が行った緑地現況調査の結果です。また、2007 年度以降のデータは、東京都の土地利用現況調査の結果を 2002 年度までの調査項目に合わせたものです。2002 年度と 2007 年度以降を比較した場合、調査内容が異なることに注意が必要ですが、減少傾向であることは変わらないと思われます。2012 年度の「森林」の割合は 6.7%で、2007 年度に比べ 0.7 ポイント減少しました。また、緑被率も 31.7%と 1.0 ポイント減少しています。

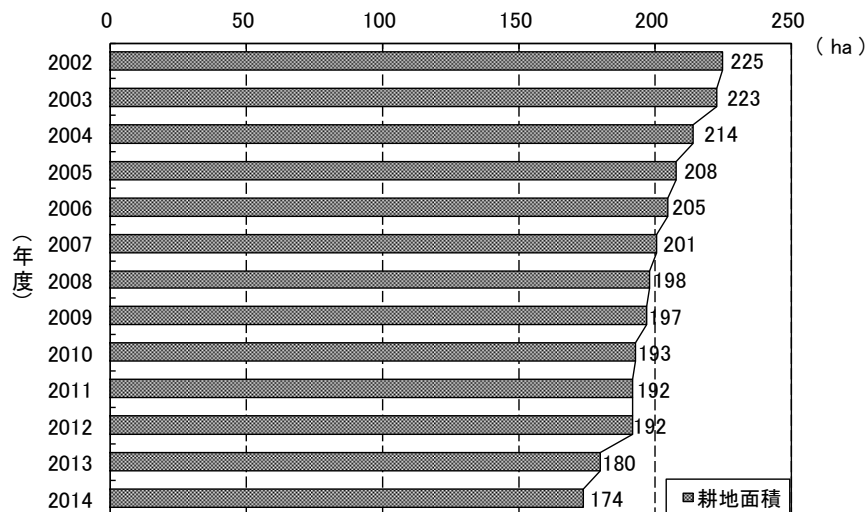
環境基本計画では、みどり全体の量の保全を目指しています。みどりの量を計る指標である緑被率と、そのなかでも自然度が高い「森林」(樹木樹林被覆地)の割合については、2007 年度数値の維持を目標として掲げています。

1. -2 農地面積

目標値: 160ha

(平成 32 年度)

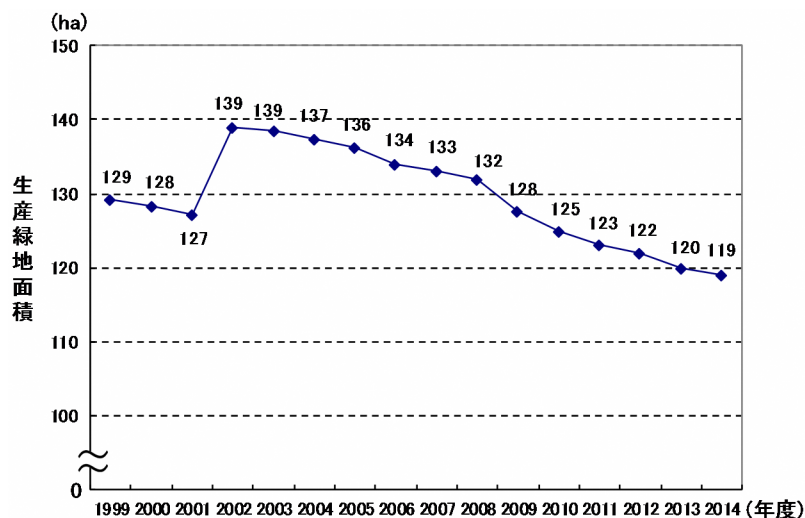
😊 指標 2 : 耕地面積



農林水産省発表の耕地面積の数値を使用しています。

年々減少傾向が続いていましたが、2011年度から2012年度にかけては2年連続で192ha となり減少に歯止めがかかりました。しかし、2013年度以降再び減少に転じ、2014年度は174ha となりました。

◇ 指標 3 : 生産緑地面積



生産緑地地区とは

市街化区域内にある農地等の農業生産活動に裏付けられた緑地機能に着目して、農業が営まれている等の一定の要件を満たす一団の農地について、「保全する農地」として計画的に保全し、税制上の優遇措置などにより良好な都市環境の形成を図る都市計画の制度。

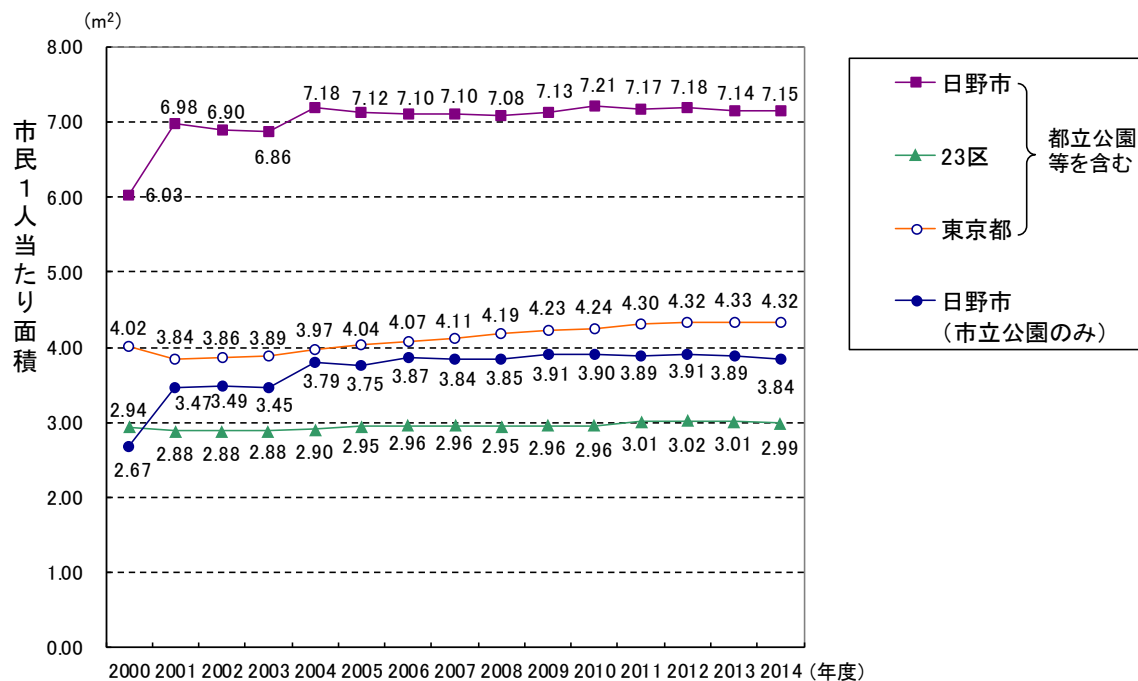
生産緑地は2002年度から他市に先がけて追加指定を行っていますが、相続や後継者難等の理由で年々減少の傾向が続いています。2014年度は2013年度に比べ、1ha 減少の119ha でした。

3. 環境の状況と取組状況の評価

1. -3 市民一人当たり都市公園面積

目標値: 9.00 m²/人
(平成 32 年度)

◇ 指標 4 : 一人当たり都市公園面積



都市公園とは

下記に該当する公園または緑地である。

- ・都市計画施設である公園又は緑地で、国又は地方公共団体の設置するもの。
- ・都市計画法による都市計画区域内において、地方公共団体が設置する公園又は緑地。

新規で新井水車公園 228m²が開園し、一人当たりの都市公園面積は 7.15m²に増加しました。

(参考) : 多摩地区の一人当たり都市公園面積

(2015 年 4 月 1 日現在)

10 m ² 以上	7 m ² 以上	4 m ² 以上	4 m ² 未満
瑞穂町 (36.14)	昭島市 (9.73)	府中市 (6.88)	あきる野市 (3.71)
武蔵村山市 (17.09)	町田市 (9.67)	福生市 (6.88)	日の出町 (3.23)
多摩市 (15.89)	立川市 (9.27)	小金井市 (6.43)	三鷹市 (3.08)
八王子市 (11.60)	東大和市 (8.11)	羽村市 (6.10)	小平市 (2.68)
稲城市 (11.11)	日野市 (7.06) ※	調布市 (5.43)	東久留米市 (2.08)
	※指標 4 とは用いる人口が異なるため、数値が異なります。	東村山市 (5.09)	国立市 (1.88)
		青梅市 (4.41)	国分寺市 (1.76)
		武蔵野市 (4.22)	狛江市 (1.30)
			西東京市 (1.22)
			清瀬市 (0.68)

2. <市の取組状況>

目標	施策の方向	施策	具体的な取組	重点	実施状況
みどりの原風景をつなぐまち	自然度の高いみどり	丘陵地・斜面緑地等の保全	民有緑地の公有地化等の推進	一定の予算確保を継続し、残すべき民有緑地の公有地化を計画的・選択的に推進する。環境緑化基金なども引き続き活用する。	・国費、都費を導入し、約7,000㎡の用地買収を行った。 (緑と清流課)
			緑地管理協定等による保全の推進	緑地信託制度など、緑地所有者との管理・利活用に関する協定による緑地の保全を図る。	・緑地信託については一部解除を行った。緑地協定は市内初の締結(1件)を行った。 (緑と清流課)
			市民緑地活動の積極的支援	ひの緑のトラストなど、市民の緑地保全活動の普及・啓発を積極的に支援するとともに、市民とともに有効的な方法について検討し、緑地の保全を図る。	★ ・かわせみ館ニュースや広報によりPRを行ったほか、市内の様々なイベントに参加し、取り組み内容等について広報活動を積極的に行った。 (環境保全課)
			「残したいみどり」の選定	市民のふるさとの風景として残したいみどりを選定し、優先的な保存を検討する。	★ ・「「残したいみどり」の選定」の成果を、報告書にまとめた。 (緑と清流課)
		里山文化の継承を兼ねた管理体制の構築	ボランティアによる里山の管理と活用	雑木林ボランティア講座を継続し、講座修了生等による雑木林維持管理への派遣制度を検討する。また、維持管理活動を活かして里山文化の継承や環境学習等を行うような、全市的な仕組みを構築する。	★ ・第10期の雑木林ボランティア講座を年間を通して実施した。 ・雑木林ボランティア講座10周年を記念してシンポジウムを開催し、関連する市民団体へ感謝状を贈呈した。 (緑と清流課)
	農地の保全と活用	農のある風景の保全	市民農園等の拡充	低利用の宅地化農地を市民農園として利用していくほか、生産緑地でも開設可能な農業体験農園として活用するなど民設の農園も増やすことで、市民の農業体験機会を創出するとともに、農地保全に努める。	★ 【状況】 ・市営市民農園は11農園(677区画) ・民営(NPO法人めぐみ)による市民農園3園 ※平成27年3月に1園閉園 ・農家経営による農業体験農園は3園(86区画)と前年度と変わらず。 (産業振興課)
			援農ボランティア制度の拡充	援農を希望する農業者に対して、JAのコーディネートのもと援農ボランティアを派遣しているが、野菜生産農業者だけでなく、果樹農業者や稲作農業者等へも派遣することにより、幅広く営農を支援していく。	★ ・平成17年1月に「農の学校」を開校し、現在まで、10期179名の市民援農ボランティアを輩出した。卒業生はNPO法人日野人・援農の会でボランティア活動を行っている。 【状況】 ・10期生を含む総勢91名が45農家に派遣。 ・現在11期生16名が本年12月まで受講中。 (産業振興課)
		地産地消による生産流通システムの確立	地元野菜にふれる機会の充実	農産物の流通過程におけるCO ₂ 排出量を削減するための「市(いち)」や直売所など既存の機会や施設を活かし、さらにスーパーや駅前など、あらゆる場所で地元野菜を購入できるようなネットワークを構築する。また、日産野菜を積極的に購入してもらうための制度など、ソフト的な取り組みも検討する。	★ 【状況】 ・学校給食供給農家は、現在44農家が参画している。 ・昨年より引続き市役所本庁舎1階ロビーにて、毎月第2、第4木曜日にファーマーズセンター「みのり処」の出張販売を行い来庁者への販売や、ファーマーズセンターにて市内農産物を使用したランチの提供を実施した。 ・昨年7月より引続き「ひのブランドカレーパン」への素材提供(ジャガイモなど)を行った。 (産業振興課)
	出みま・どち保りな全のか創の	民有地等の緑化	生け垣緑化の促進	ブロック崩撤去と生け垣設置補助に関する実態を把握し、より使いやすい補助制度を検討する。また、地域で生け垣緑化に取り組むモデル事業などを実施するとともに、地区計画で生け垣設置を推奨する。	・設置補助により、17mの生垣が設置された。 (緑と清流課)
	全協・働創によるみどりの保	みどりに関する普及啓発	市民・事業者への情報提供・PR	農地を含むみどりの保全・創出の大切さや、みどりの良さを市民と協働で整理し、市民・事業者へPRする。また、窓口での相談や、緑化に関する講習会等を実施する。	★ ・11回の自然観察会を実施し、自然環境についての啓発を行った。 (緑と清流課)
		協働によるみどりの実態把握	みどり・生き物マップの作成	市民参加のもと、市域の植生や街路樹・生け垣等の樹種、みどりの連続性、外来種の侵入状況などの現状を調査してマップを作成し、今後の取り組みの基礎資料として活用する。	★ ・残したいみどりをまとめた中で生きものの情報をどのように整理収集していくのかを検討した。 (緑と清流課)

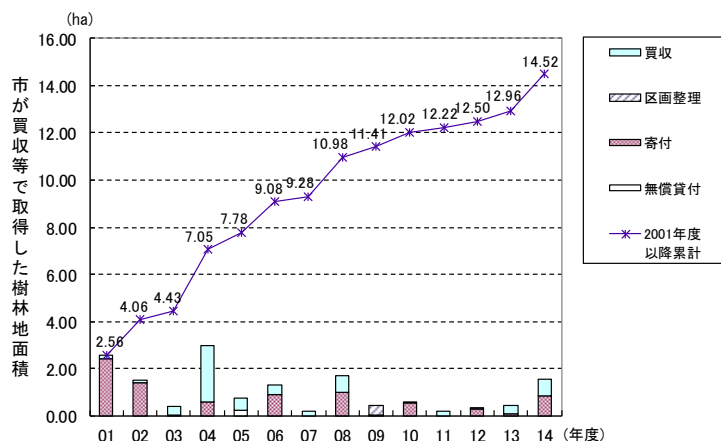
3. 環境の状況と取組状況の評価

2-1 自然度の高いみどり

(1) 丘陵地・斜面緑地等の保全

民有緑地の公有地化等の推進

😊 指標 5：市が寄付や買収等で取得した樹林地面積

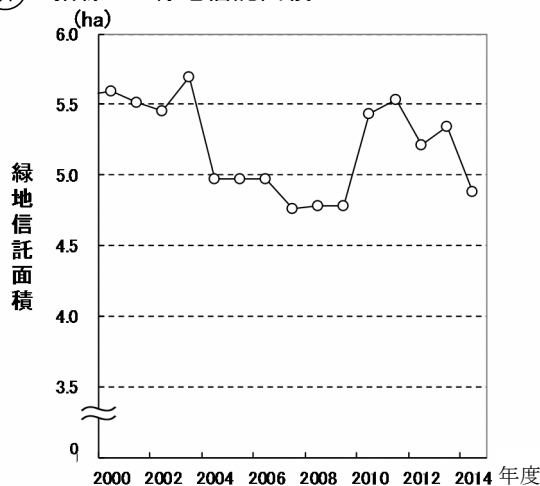


買収で取得した樹林地面積は、程久保緑地 4,187 m²と落川緑地 2,897 m²で合計 7,084 m²、加えて寄付により市が取得した百草地区 8,679 m²を合わせた 15,763 m²が増加しました。

緑地信託面積では、公有化を図るためべく先行取得により解除を行ったため前年度から約4,600 m²減少し、総面積48,847m²となりました。

緑地管理協定等による保全の推進

😊 指標 6：緑地信託面積



緑地信託制度とは

良好な緑地、里山等について、所有者と市が信託契約を結び、市が緑地を管理する制度のことです。市がサポートすることで、安定した緑地維持ができる措置を図っています。

★市民緑地活動の積極的支援 【重点施策】

😊 指標 7：緑のトラストへの寄付件数

年度	寄付件数(件)
2009	32
2010	85
2011	248
2012	592
2013	281
2014	279

年度目標値:800 件

ひの緑のトラストとは

貴重な里山の保全を市民自らの力で支援するために 2009 年 12 月に設立されました。市内の市民団体が主体となって、市の公有地化を進めるための取得費として募金活動を実施しています。

2014年度は279件と年度目標を達成することはできませんでしたが、着実に緑のトラストの活動への理解が進んでいます。今後も継続的な広報活動に努めていきます。なお、2011年度以降は街頭募金の件数も計上されています。

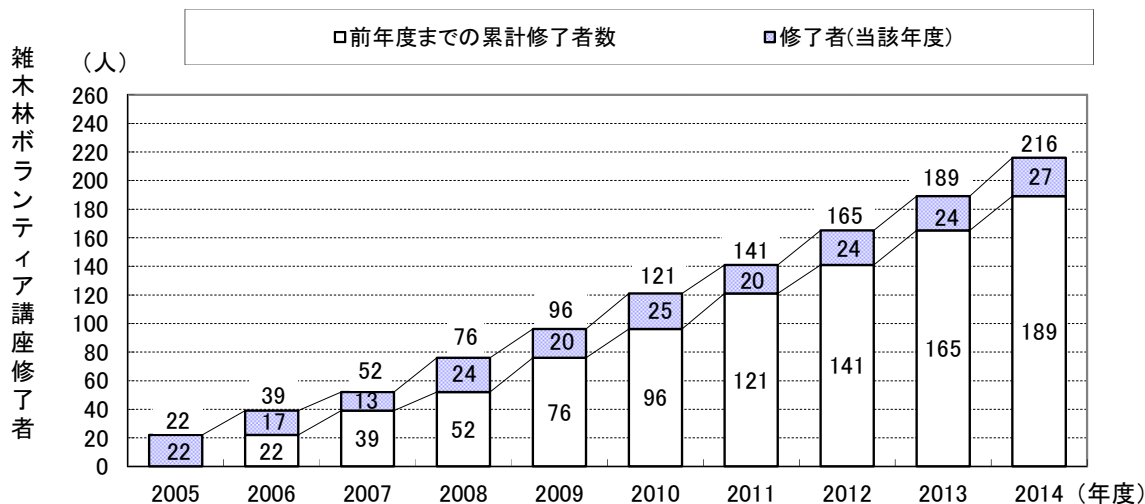
(2) 里山文化の継承を兼ねた管理体制の構築

★ボランティアによる里山の管理と活用【重点施策】



指標 8：雑木林ボランティア講座修了者数

年度目標値： 累計 215 名



雑木林ボランティア講座は、2005 年度に開始されました。2014 年度の修了者は昨年より 3 人多い 27 人となり、累計 216 人に達しました。年度目標値を達成することができたのと同時に、受講者数に対する修了者の割合は過去最高の 8 割に達し、修了者は順調に増加しています。

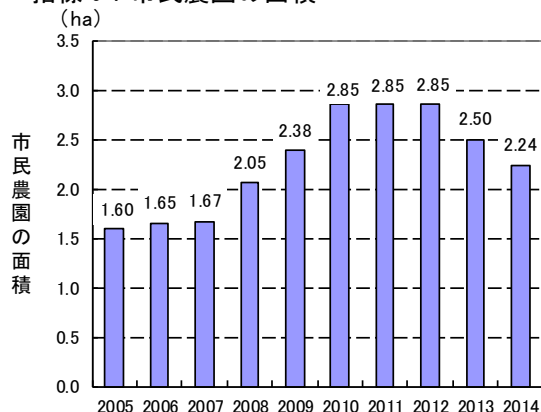
2-2 農地の保全と活用

(1) 農のある風景の保全

★市民農園等の拡充【重点施策】



指標 9：市民農園の面積



年度目標値：市民農園の数：17 農園
農業体験農園の数：3 農園

2014 年度 市民農園：14 農園

市民農園が農地保全になっている理由

日野市の市民農園では、宅地化農地(生産緑地ではない)を農家から借用しています。様々な理由で、自分で耕作することが困難な農地を市民農園として活用することで、農家の負担軽減・農地の保全・市民が土に親しむ場の提供を行っています。なお、市民農園に借用する農地は、固定資産税が免除されます。

市民農園の面積は、市が開設した市民農園の面積と農業体験農園(3 園)の合計です。面積の内訳は、市民農園 11 園 16,911 m²、農業体験農園 3 園 5,518 m²(岸野農園 1,080 m²、石坂ファームハウス 1,616 m²、コバサン農園 2,822 m²)です。前年と比べ市民農園が 2 園 2,601 m² 減少しましたが、市では民営による市民農園の支援を進めており、民営による市民農園は 3 園開設されていますので、市民農園の数は 14 農園となりました。

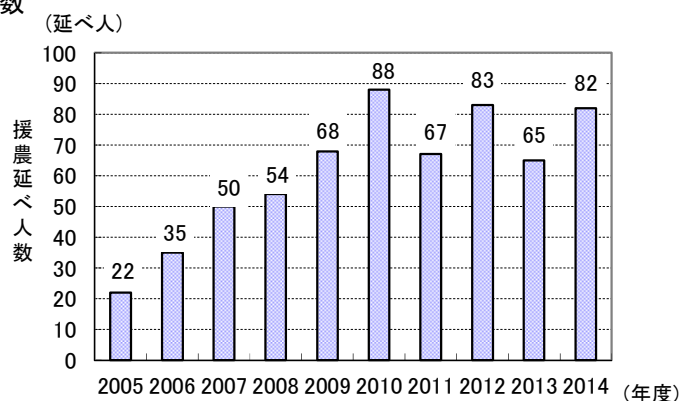
※市民農園の数は、日野市直営(11 農園)と民営(3 農園)をあわせて合計 14 農園となりました。

3. 環境の状況と取組状況の評価

援農ボランティア制度の拡充



指標 10：援農人数



(2) 地産地消による生産流通システムの確立

地元野菜に触れる機会の充実【重点施策】



指標 11：2014 年度に実施した「市」の開催日数

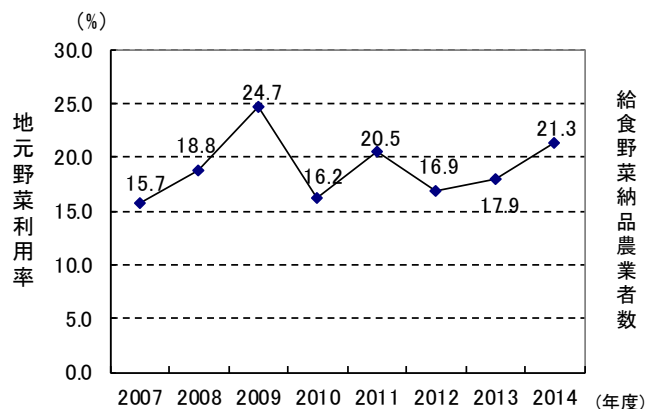
年度目標値:共同直売所:4 箇所
定期即売会:3 箇所
イベント会場での即売実施

「市」の開催場所(2014年度)	区分	開催時期	開催日数
日野農産物直売所	共同直売所	通年、月～土曜	304
マルシェひらやま(平山農産物直売所)	共同直売所	通年、月～土曜	304
JA七生地区農産物直売所	共同直売所	通年、月～土曜	304
日野市立七ツ塚ファーマーズセンター	共同直売所	通年、月～日曜	357
ひののやっちゃ場	共同直売所	通年、月～土曜	304
日野駅東側広場	定期即売会	通年、火・木・土曜	140
多摩平第七公園	定期即売会	通年、火・木・土曜	140
多摩平の森 ユリの木集会所	定期即売会	通年、月～土曜	140
日野市役所(NPO法人めぐみ)	定期即売会	月1回 第2木曜	12
春の野菜苗即売会(1カ所)	定期即売会	4月下旬	1
ひのよさこい祭	イベント即売	7月27日(日)	1
産業まつり	イベント即売	11月8日(土)・9日(日)	2
暮れの野菜即売会	定期即売会	12月下旬	5
都市農業シンポジウム	イベント即売	1月17日(土)	1
合計			2,015

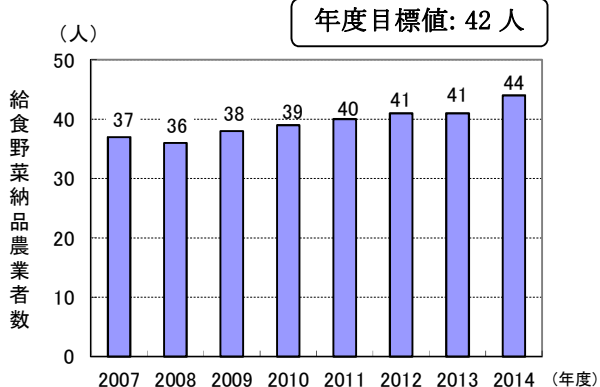
「市」の開催数は2013年度と同じ2015回で、2013年度以降比較的多い開催数を維持しています。



指標12：学校給食における地元野菜等利用率



指標13：給食野菜納品農業者数



学校給食における 2014 年度の地元野菜等利用率は、学校給食用圃場の拡充により、前年度の 17.9%と比較して 3.4 ポイント増加しました。

2014 年度の給食野菜納品農業者数は、前年度より 3 人多い 44 人であり、年度目標を達成しています。

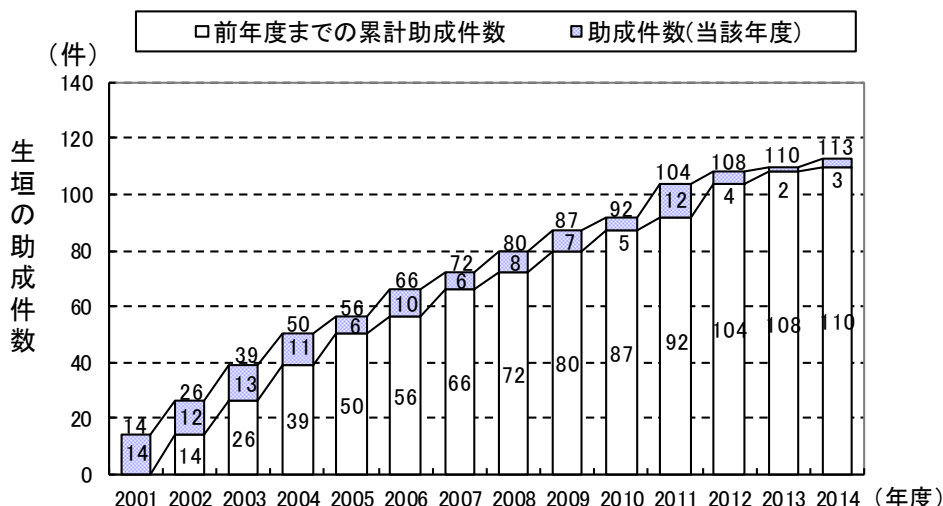
※学校給食における地元野菜等利用率は、学校給食に使用する野菜等のうちの金額ベースの、地元野菜等の使用比率。

2. -3 まちなかのみどりの創出・保全

(1) 民有地等の緑化

生け垣緑化の促進

◇ 指標 14：生垣の助成件数



日野市では、住宅地を安全、快適で緑豊かな生活環境にする目的で、生垣設置とブロック塀撤去に、それぞれ 1m あたり 5,000 円と 3,000 円の費用を補助しています。2012 年度から補助予算を大幅に削減したため助成件数は減っており、2014 年度は 3 件でした。

3. <市民コメント>

農地、森林、どの統計データをみても、減少の一途をたどっています。公園の面積は、区画整理の際や新しい住宅が建設される際に、一定の面積の公園をつくるのが義務化されているために、増えています。しかし、公園の緑は永年育まれてきた農地や雑木林などの緑地と比較すると、同じ樹木しかなく、外来種の雑草しか生えない、質的にはまだまだ貧弱な場所であると言わざるを得ません。公園の面積が増えても日野市の緑の質として向上しているとは言えません。

公園の一定面積の確保のように「仕組み」になってしまうと、一定の面積を維持することができます。農地や雑木林も同様に、残すための「仕組み」があれば、減少に歯止めがかかる可能性があります。

私たち市民は、もう何年もこの環境基本計画に関わる活動を続けていて、農地を残そう、緑を次の世代に、という立派なスローガンをいくら作っても、その心臓部である「仕組み」を作っていかなければ実効力の伴うものにならないということがわかってきました。そのような踏み込んだ施策がない限り、この減少の傾向には歯止めがかからないでしょう。みどりと水に恵まれているはずの日野市ですが、多様で豊かな緑の景観が、巨大なマンションや、どれも金太郎飴のように同じ顔をした住宅に変わっていつています。やがて日野市も、どこの中小都市でもみられるコンクリートに覆われた街となる日が来るのでしょうか。

水分野

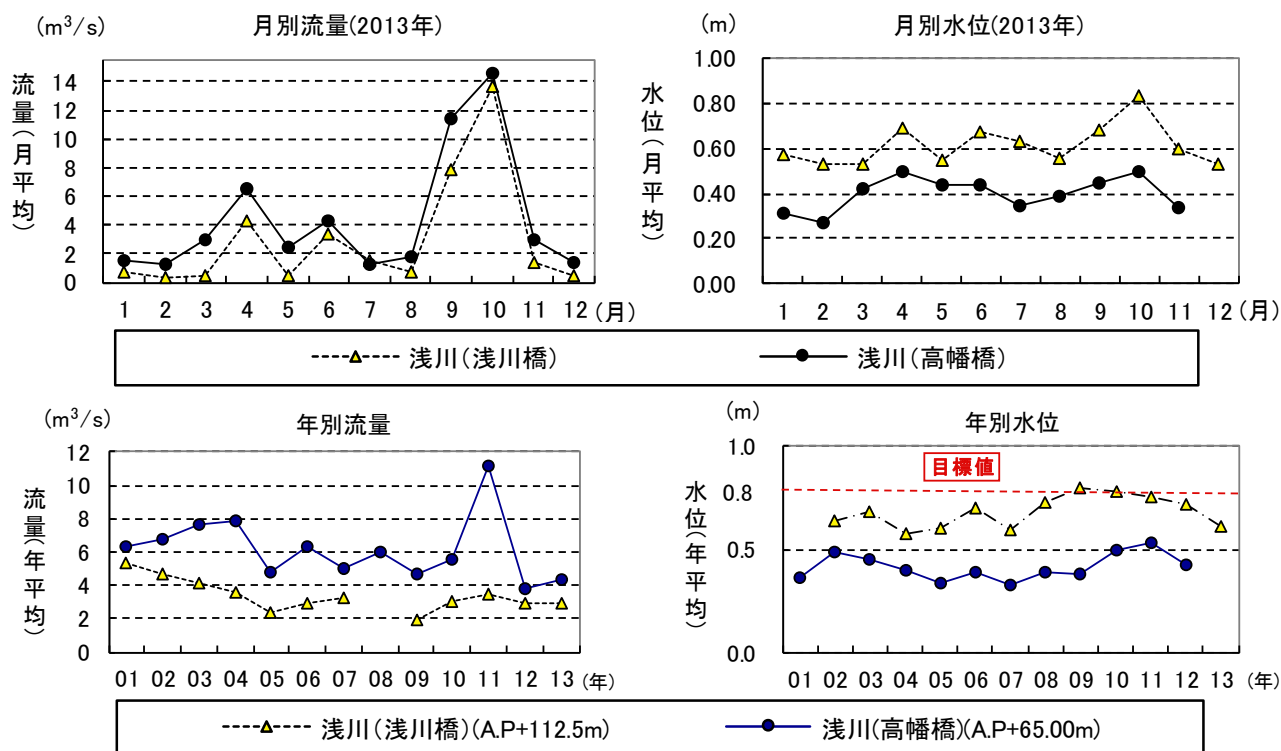
< 目 標 > 水文化を伝えるまち

1. <環境の状況>

1.1 浅川の水位

目標値: 年平均 0.8m
(平成 32 年度)

指標 15 : 浅川の平均河川水量・水位



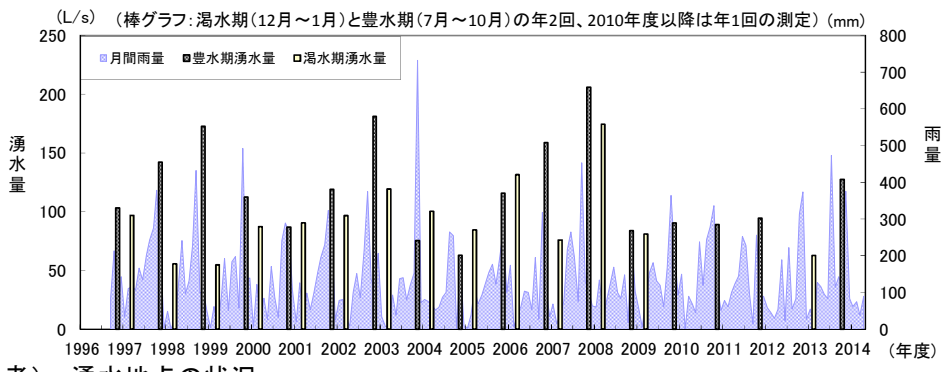
浅川橋の 2013 年平均流量は 10 月に最大値(13.7m³/s)、2 月に最小値(0.37m³/s)で年平均流量は 2.96m³/s となりました。9 月、10 月は台風の相次ぐ接近の影響で降水量が多く(9 月:313.5 mm、10 月:373.5 mm; 気象庁八王子観測地点)、そのため流量が大きくなったと考えられます。月平均水位は 0.53m から 0.83m(年平均:0.61m)で変動しました。

高幡橋の 2013 年平均流量は 10 月に最大値 (14.6m³/s)、7 月に最小値(1.33m³/s)が観測され、年平均流量は 4.40m³/s となりました。月平均水位は 0.27m から 0.50m で変動しました(12 月は欠測)。

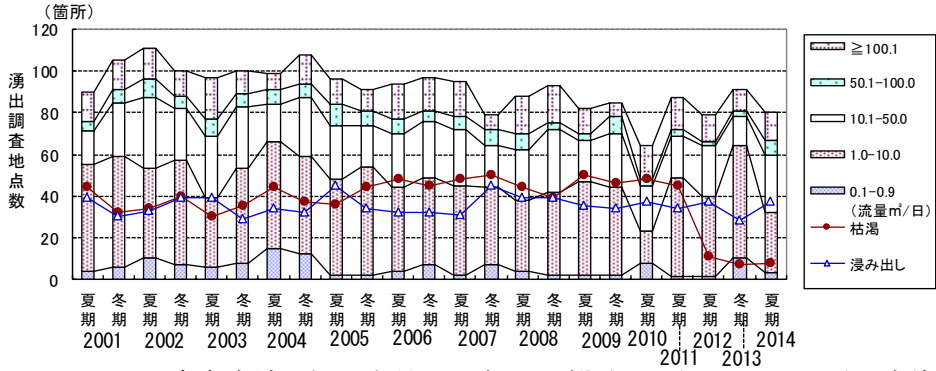
1.-2 湧水確認地点数・湧水量

目標値:【地点数】179 箇所
【湧水量】10,000t/日
(平成 32 年度)

指標 16 : 月別雨量と調査地点の総湧水量



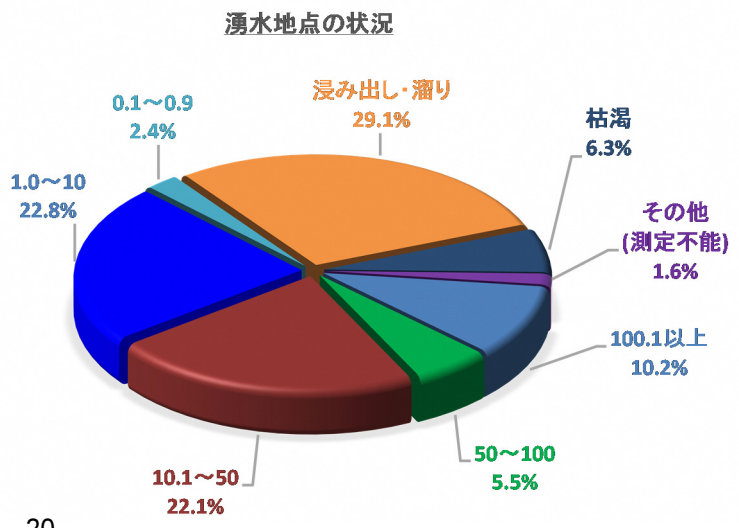
(参考) : 湧水地点の状況



2014 年度における日野市内全域の総湧水量の調査は、夏期(2014 年 9 月～11 月)に実施されました。湧水量を調査した地点数は 127 地点で、湧水総量は 10,999t/日(127.3L/秒)となりました。この値は湧水量調査報告書(平成 27 年 4 月)の中から七生中学校と第二小学校の自噴水や用水とみられる地点を除外したものです。2013 年度の湧水量調査は冬期(2013 年 12 月～2014 年 2 月)に実施され、総湧水量は 5,430t/日であり、今回の結果はおおよそ 2 倍の数値でした。一方で、湧水量として「浸み出し・溜り」や「枯渇」になっていた地点数は 45 地点で調査地点総数の 35%に達しました。しかし 2014 年度は夏期の調査であり 2013 年度の冬期の調査結果と直接比較することは困難です。夏期に調査が行われたのは 2012 年度(7～9 月)であり、その結果と比較すると湧水地点数に変化はありませんでしたが、湧水総量(2012 年度夏期:8,165t/日)は増加しました。

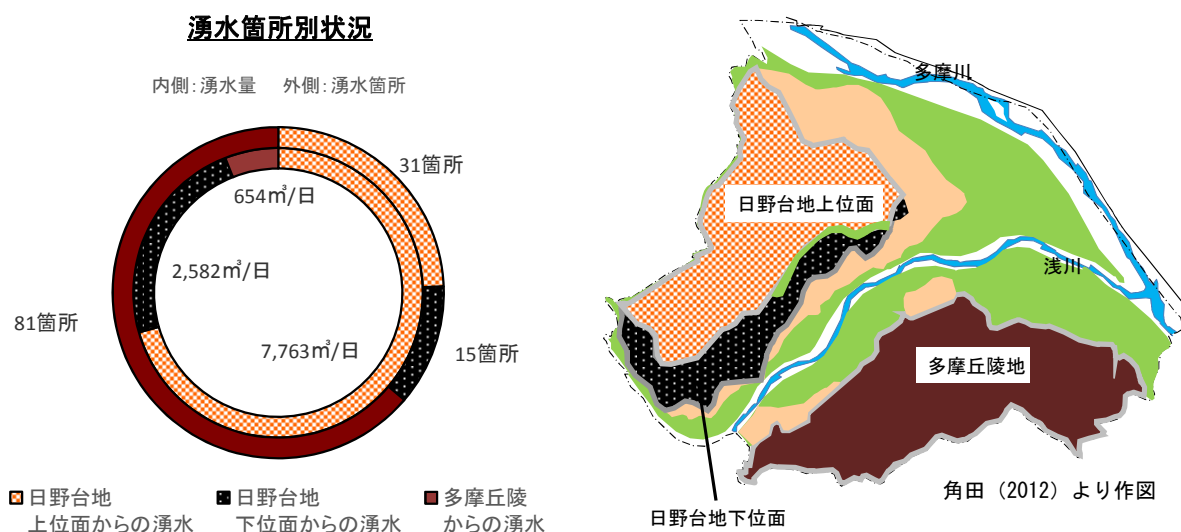
湧水量に影響する 2014 年度(2014 年 4 月～2015 年 3 月)の降水量(気象庁八王子観測地点)は 1,745 mmで、2013 年度(1,595 mm)より多くなっていました。2014 年度は 2012 年度に比較して、年間降水量は 401 mm多く、湧水総量は 2,834t/日増加しました。

総湧水量 (m³/日)	地点数	割合 (%)
100.1以上	13	10.2%
50.1～100	7	5.5%
10.1～50	28	22.1%
1.0～10	29	22.8%
0.1～0.9	3	2.4%
浸み出し・溜り	37	29.1%
枯渇	8	6.3%
その他 (測定不能)	2	1.6%
総計	127	100.0%



3. 環境の状況と取組状況の評価

湧水の状況を地域に分けて整理すると次のようになります。



黒川清流公園など日野台地上位面(100m 崖線)からの湧水地点数は31 地点で全体の24.4%ですが、湧水量は全体の70.6%を占めており、日野中央図書館下湧水など日野台地下位面(80m 崖線)からの湧水地点数は15 地点で全体の11.8%、湧水量は全体の23.5%になりました。一方、小沢緑地など多摩丘陵からの湧水地点数は81 地点と最も多く、全体の63.8%に達しましたが、湧水量は全体の5.9%に過ぎませんでした。

湧水量は、季節や降水量により変化しますが、かん養域の宅地化など土地利用の変化により減少し、枯渇することが考えられますので、さらに長期的に推移を見ながら湧水の保全を計る必要があります。

1.-3 用水の水質

☺ 指標 17：各用水路の水質分析結果

目標値:生活環境の保全に関する環境基準 B 類型に適合
(B 類型環境基準値 BOD 3mg/L 以下)
(平成 32 年度)

市内の河川・用水(調査対象)はすべて「B 類型」に分類され、生物化学的酸素要求量(BOD)の環境基準値は3mg/L です。2014 年度は、根川で 3.5mg/L(範囲:0.8~6.1mg/L)となりましたが、その他の 14 地点ですべて1mg/L 以下で、良好な水質となりました。

調査地点名	BOD(mg/L)
	2014年度
多摩川(多摩川総合グラウンド付近)	0.8
浅川(クリーンセンター付近)	<0.5
谷地川(多摩川合流点前)	0.8
日野用水下堰(東光寺市営住宅前)	0.7
日野用水上堰(よそう森堀)	0.7
豊田用水(取水口)	0.9
豊田用水(堀之内緑道)	0.8
黒川水路(黒川清流公園)	0.7
上田用水(延命寺・日枝神社付近)	0.8
新井用水(新井用水親水路)	0.8
根川(クリーンセンター付近)	3.5
平山用水(平山東公園・ふれあい水辺)	0.6
落川用水(落川公園)	0.6
落川用水(落川公園)	0.7
向島用水(向島用水親水路)	0.6

多摩川・浅川は年1回(2014年8月)の測定値
その他の用水路等は年4回(2014年5月、8月、11月、2015年2月)の平均値

1-4 河川・用水・湧水の水生生物

(参考) 水生生物による水質の生物学的判定

目標値:底生生物:90 種

魚類:15 種

付着藻類:42 種

(平成 32 年度)

水生生物調査の概要

調査期間

2014 年 8 月 4 日～6 日

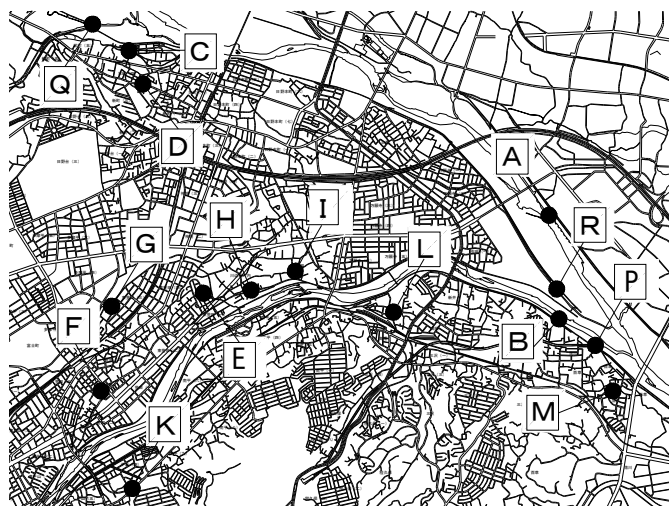
調査地点

河川(多摩川、浅川)、用水路等、流入河川を含む 15 地点(右図 A～R 参照)

調査内容

底生生物、魚類、付着藻類(河川のみ)、水草(用水路・流入河川のみ)

その他に BOD、DO、pH



分類	調査地点		2011年度		2014年度	
			底生生物	魚類	底生生物	魚類
河川	A	多摩川(日野市多摩川総合グラウンド付近)	A	A	A～B	A
	B	浅川(クリーンセンター付近)	A～B	A	A～B	A
用水路等	用水路					
	C	日野用水上堰(東光寺市営住宅前水路)	—	—	A～B	B
	D	日野用水上堰(よそう森堀)	A	C	A～B	B
	F	豊田用水(取付口)	A～B	B	B～C	A
	E	豊田用水(堀之内縁道)	—	—	B～C	B
	G	黒川水路(黒川清流公園)	A～B	A	A～B	A
	H	上田用水(延命寺・日枝神社付近)	A～B	B	A～B	—
	I	新井用水(新井用水水親水路)	A～B	B	A～B	A
	K	平山用水(平山東公園・ふれあい水辺)	B～C	—	A～B	A
	M	落川用水(落川公園)	C	C	C	A
	L	向島用水(向島用水親水路)	A～B	B	B	A
	流入河川					
	Q	谷地川(多摩川合流点前)	A～B	A	A～B	A
	R	根川(クリーンセンター付近)	B～C	B	B～C	—
	P	程久保川(程久保川ワンド)	A～B	A	B～C	A

水質階級:その生物がよく出現する水域 A=きれいな水域(O_s) B=わりあいきれいな水域(β_m)

C=汚れている水域(α_m) D=とても汚れている水域(P_s)

3. 環境の状況と取組状況の評価

(1) 確認された種数

2014年度の調査は8月に実施されたので、前回の調査(2011年3月)と直接比較することは難しいと考えられます。確認された底生生物の種数は河川で51種(多摩川:43種、浅川:39種)、用水路で105種、流入河川で47種となりました。2011年3月に比べ、種数はかなり少なくなりました。魚類の種数は河川で10種、用水路で19種、流入河川で15種となりました。確認された付着藻類の種数は多摩川で10種、浅川で18種となり、ケイ藻類が最も多く確認されました。確認された水草の種数は用水路で22種、流入河川で20種となりました。2011年3月に比べ種数は増加していますが、これは調査時期の違いによるためと考えられます。

魚類の重要種についてみると、「環境省レッドリスト 2007 年」で絶滅危惧ⅠBに指定されているムサシノジュズカケハゼが黒川清流公園で確認されました。その他に「東京都レッドリスト 2010 年」に記載されているアブラハヤ、カマツカ、シマドジョウなどが確認されました。重要種の合計は8種で、地点別では谷地川(多摩川合流点前)で5種が確認され、種別ではアブラハヤが9地点で確認されました。

水草の重要種として「東京都レッドリスト 2010 年」において、絶滅危惧Ⅱ類に指定されているセキショウモおよびマコモ、準絶滅危惧種のササバモが用水でそれぞれ確認されました。

外来種として、底生生物・魚類調査では特定外来生物に指定されているオオクチバスが新井用水で、コクチバスが多摩川でそれぞれ確認されました。とくにコクチバスの分布域が拡大しており今後注視する必要があります。要注意外来種であるアメリカザリガニは用水路の2地点で確認されました。水草では特定外来種であるオオカワジシャ、オオフサモ、ミズヒマワリが確認されました。これらの分布域は拡大することが懸念され、引き続き注視する必要があります。



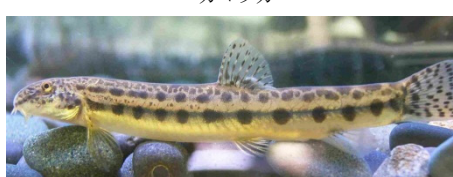
アブラハヤ



カマツカ



ジュズカケハゼ



シマドジョウ

(2) 水生生物による水質判定

水生生物による水質判定は長期間の水質変動の平均的な様相を把握することができますが、生物には環境に対する適応性があるため、指標とする生物と水質の関係は絶対的なものではありません。

・底生生物による水質判定

多くの地点で「きれいな水域」や「きれいな水域〜わりあいきれいな水域」と判定されましたが、豊田用水では「わりあいきれいな水域〜汚れている水域」、落川用水では「汚れている水域」と判定されました。

・魚類による水質判定

河川では多摩川・浅川ともに「きれいな水域」と判定されました。用水路ではほとんどの

地点で「きれいな水域」ですが、日野用水上堰・下堰や豊田用水は「わりあいきれいな水域」と判定されました。流入河川の根川や程久保川では「きれいな水域」と判定されました。

今回の水生生物調査では多くの地点で水質は良いと判定されました。

(3) 理化学的水質と生物学的水質判定結果の比較

調査地点のBOD値は1地点を除き、0.5～0.9mg/Lであり、全体的に「きれいな水域」と判定されました。1地点（根川）のBODは3.5mg/Lで「汚れた水域」と判定されました。BODによる理化学的水質判定結果と生物学的水質判定結果を比較すると、両者の結果は概ね一致しますが、落川用水では差が見られました。落川用水では水の流れが10cm/sと遅く、河床に泥が多く堆積していることから、きれいな水域の指標種である水生昆虫類の生息に適していないと考えられます。

2.<市の取組状況>

目標	施策の方向	施策	具体的な取組	重点	実施状況
水文化を伝えるまち	健全な水循環の構築	水循環に寄与する方策の検討	市内の水収支の実態や、重要箇所における降水量と湧水量の関係、湧水周辺の生態系などを調査する。調査結果をもとに、地下水かん養、水辺の環境保全から水利用、治水までを含めた水循環に寄与する方策を検討する。	★	・湧水量及び地下水位計測調査を継続実施した。河川及び水路の水質等調査は環境保全課と事業統合し、継続実施した。湧水量把握のためのモデル地区選定については谷仲山地区を選定した。 (緑と清流課)
		用水の保全・活用	(仮)用水路改修・補修計画の策定 用水カルテプロジェクトによる用水路実態調査等をもとに、用水路の役割や周辺の状況に合わせた保全・改修・補修・開渠化計画を作成する。	★	・用水カルテ策定に向け、定期的な会議を持って協議を行った。 (緑と清流課)
		湧水・地下水の保全	地下水揚水量の把握 法令に基づく揚水量の報告を徹底し、急激な揚水量の増加による地下水位の低下や湧水の枯渇、地盤沈下等が起こらないよう監視する。		・揚水量の報告を受け、急激な揚水量の増加がないことについて確認した。 (環境保全課)
	推貯留水利用促進の・	雨水浸透・貯留施設の設置促進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置を呼びかけるとともに、補助金の交付を推進する。また、公共施設でも積極的に雨水浸透・貯留利用を推進する。		・新築・増改築の雨水処理方法の相談時に丁寧に水循環や雨水かん養の大切さ、雨水浸透指導を行った。 (緑と清流課)
	水質の保全	水質の実態把握	水質調査・生物調査の実施 用水、河川、湧水、地下水の水質調査や、用水、河川の生物調査を実施し、水質や生態系の状態を継続的に把握する。		・河川及び水路の水質等調査は環境保全課と事業統合し、継続実施した。 (緑と清流課)
		水質汚濁の防止	生活排水及び汚水処理の施設整備 污水管の整備や下水道接続の促進（戸別指導、工事費用融資あっせん）、下流部の汚濁状況の情報提供などを実施する。		・供用開始後の公共下水道未切換え世帯を戸別訪問し、水洗化を要請した60世帯の切換えが行われた。融資あっせん者は前年度から継続であった。 (下水道課)
	協働による水辺の保全・活用	流域連携による活動の推進	流域連携による水源かん養の活動や、水辺づくりなどを通じた啓発活動を推進する。	★	・八王子市との連携による浅川流域連携事業を通して、写真コンクール、子どもの交流事業を実施した。 (緑と清流課)
		水辺に親しむ活動の推進	用水やビオトープをはじめとする水辺に親しめる場や機会を創出するとともに、水辺の楽しさや大切さなどを伝えることのできる指導者の確保に努める。	★	・市内2箇所の水辺の楽校において、年間計画に基づく活動を実施した。 (緑と清流課)
		水辺の保全・管理活動の推進	用水守制度を充実するとともに、地域や学校、用水守等が用水組合や農業者の用水管理活動を支援するための新たな活動を進める。また、清掃や草刈りなど、河川敷の美化・保全活動を行っている団体や個人への支援を行う。		・用水守により、無理のない範囲で事故なく、継続した清掃活動が実施された。 (緑と清流課)

3. 環境の状況と取組状況の評価

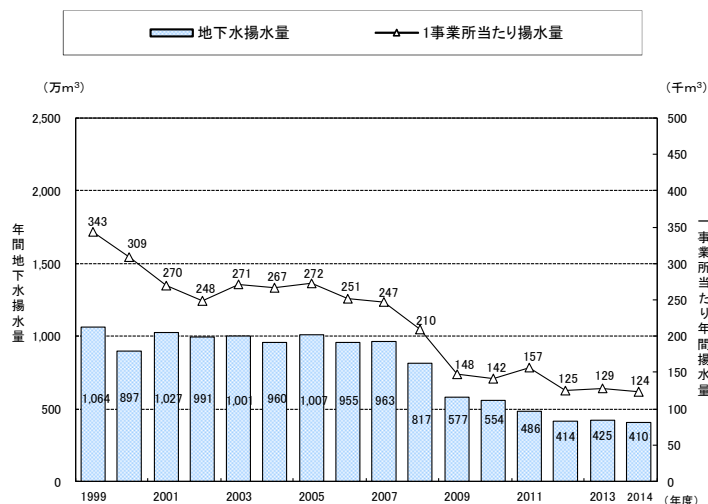
2-1 健全な水循環の構築

(1) 湧水・地下水の保全

地下水揚水量の把握



指標 18：地下水揚水量



揚水とは

ここでいう揚水量とは、出力が 300 ワットを超えるモーター等で汲み上げた地下水の量のことです。

過度に地下水を汲み上げることによる空洞化が、地盤沈下の原因の一つとされています。

地下水汲み上げによる地盤沈下は、戦前から観測されており、戦争により多くの工場などが休業したため、一時的に下げ止まりはみせたものの、戦後は更に被害が大きくなりました。

このため 1960 年代より工業用水法やビル用水法、温泉法、環境確保条例等により規制され現在に至っています。

地下水の揚水量計測は、過度の汲み上げによる地盤沈下が起きないよう、規制値を超えて汲み上げていないか監視することが目的であり、監視することで地盤沈下の進行を止めることにつながっています。

市内で撤退した事業所があるため、年間地下水揚水量 410 万 m³、一事業者当たり年間揚水量 12.4 万 m³ と昨年度より減少した数値となりました。

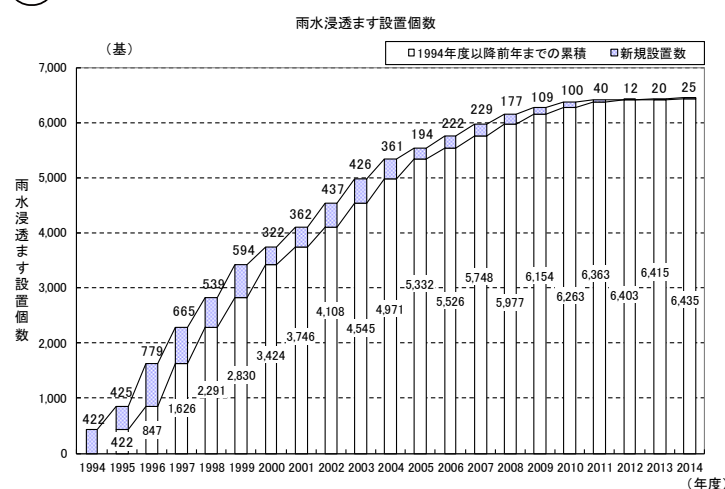
2-2 雨水浸透・貯留利用の推進

(1) 雨水浸透・貯留施設の設置促進

家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進



指標 19：雨水浸透ます設置個数

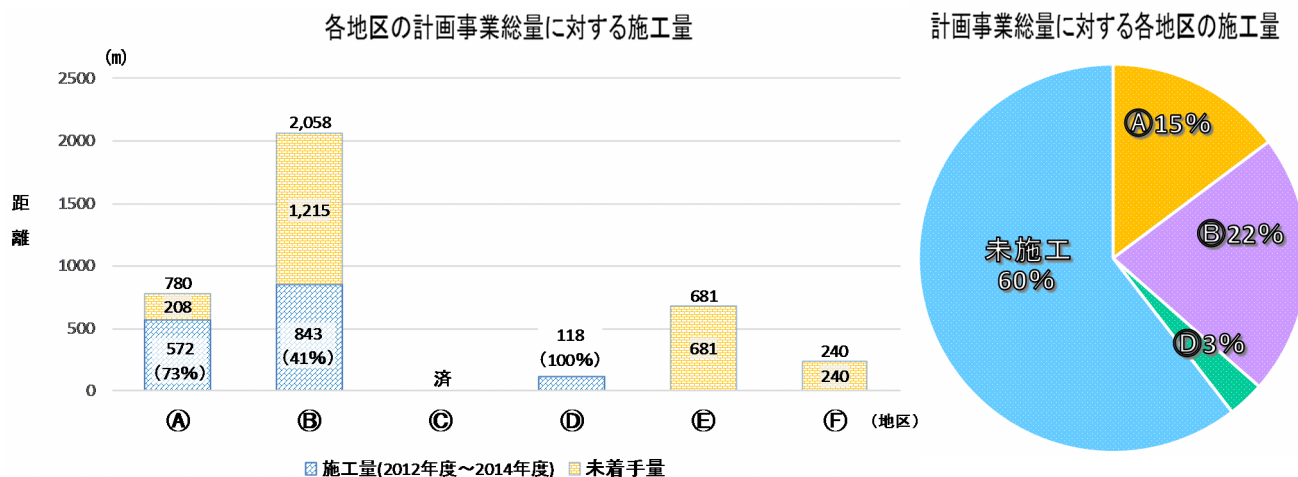


雨水浸透ますとは

雨水浸透ますは、屋根などに降った雨水を地下に浸透させるための施設です。雨水を地下に浸透させることで、雨水の分散化による河川の洪水防止等の治水対策への貢献、かん養域拡大による緑の保全と育成、湧水の回復による河川の清流復活、地下水の還元による地盤沈下防止などが期待できます。

2014年度は例年通り広報等で設置の募集を行った結果、新規設置数は前年度より5基増えて25基となりました。

(参考) 第二次日野市交通バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況



透水性舗装とは、舗装体を通して雨水を直接路床へ浸透させ、地中に還元する機能を持つ舗装です。
本項では、第二次日野市交通バリアフリー特定事業計画により設定された計画事業量と、実際の整備状況を示しています。

2015. 3. 31 時点

グラフ凡例:地区名 (施工量/地区計画事業総量)	路線内訳	計画事業量	施工量	期 間、または実施年度
A : 日野駅周辺 (572/780)	幹線市道Ⅰ－20号線	100m	0m	2012年度～2016年度
	幹線市道Ⅰ－13号線	100m	100m	2014年度
	幹線市道Ⅰ－14号線	—	施工済	整備済
	幹線市道Ⅰ－9号線	108m	0m	2013年度～2014年度
	幹線市道Ⅰ－10号線	—	0m	未定
	市道B33号線	—	0m	未定
	都道169号線	472m	472m	2013年度
	都道169号線	—	0m	未定
B : 豊田駅周辺 (843/1,215)	都道41号稲城日野線(川崎街道)	—	施工済	整備済
	幹線市道Ⅱ－44号線	173m	173m	2014年度
	市道E103号線	295m	295m	2014年度
	幹線市道Ⅰ－12号線	295m	295m	2014年度
	幹線市道Ⅰ－12号線	80m	80m	2014年度
	市管理道路	—	施工済	整備済
	駅前ロータリー (区画整理事業で整備予定)	130m	0m	2014年度～2017年度
	日野都市計画道路3・4・15号線	310m	0m	2016年度～2018年度
	日野都市計画道路3・4・15号線	185m	0m	2016年度～2018年度
	日野都市計画道路3・4・19号線	260m	0m	2014年度～2017年度
C : 高幡不動駅周辺 (0/0)	日野都市計画道路3・4・15号線	180m	0m	2018年度～2020年度
	日野都市計画道路3・4・19号線	150m	0m	2014年度～2017年度
D : 百草園駅周辺 (118/118)	幹線市道Ⅱ－8号線	—	施工済	整備済
	河川管理用通路(両側)	118m	118m	2012年度
	幹線市道Ⅱ－62号線	—	0m	未定
E : 南平駅周辺 (0/681)	幹線市道Ⅱ－5号線	—	施工済	整備済
	都道173号線(北野街道)	—	0m	未定～2020年度
	都道173号線(北野街道)	390m	0m	2012年度～2020年度
F : 平山城址公園駅周辺 (0/240)	都道174号線(北野街道)	291m	0m	事業中～2016年度
	都道155号線町田・平山・八王子線 (立体交差部～交差点接続部)	88m	0m	2013年度～2016年度
	都道155号線町田・平山・八王子線	152m	0m	2014年度～2016年度
総 量		3877m	1533m	

3. 環境の状況と取組状況の評価

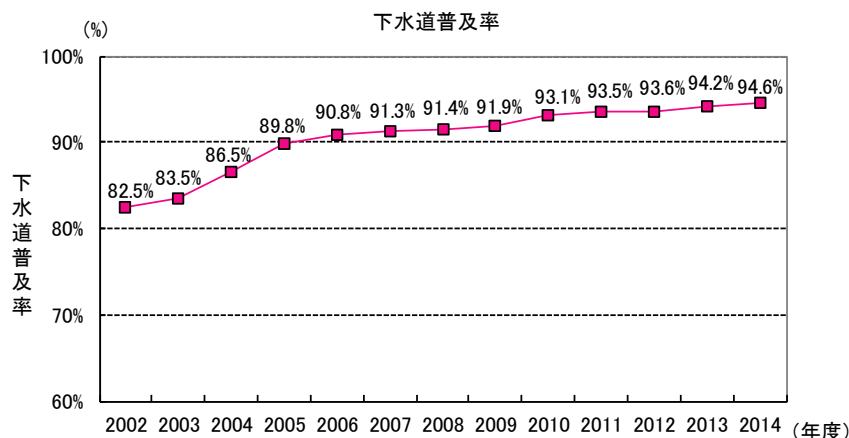
2-3 水質の保全

(1) 水質汚濁の防止

生活排水及び污水处理の施設整備



指標 20：下水道普及率



近年の傾向として、公共下水道の未普及地域は、土地区画整理事業の街路未整備地域と重なります。

今後の下水道普及率は、土地区画整理事業の展開と連動して、増加を示すものとなります。

下水道普及率とは

$$\text{下水道普及率} = \frac{\text{公共下水道使用可能人口}}{\text{行政人口}}$$

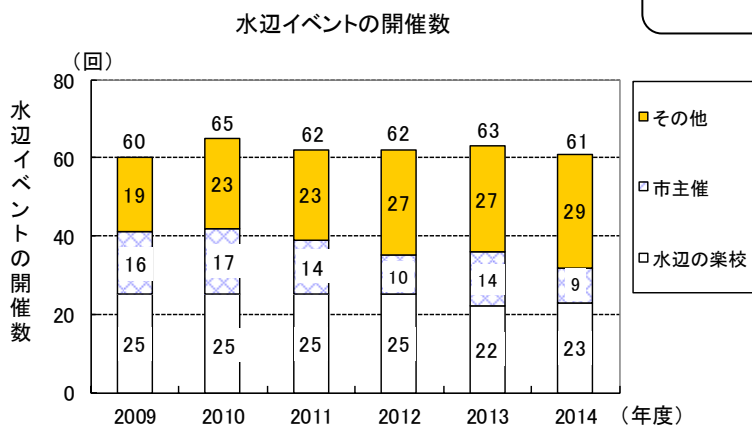
2-4 協働による水辺の保全・活用

(1) 水辺に親しむ活動の推進 【重点施策】



指標 21：水辺イベントの開催数

年度目標：・水辺の楽校による水辺での活動実施校 2校
・水辺の環境教育・学習の実施回数 60回



浅川潤徳と浅川滝合両水辺の楽校の活動をはじめ、水辺のイベントに関しては、例年通りの規模で行うことができました。

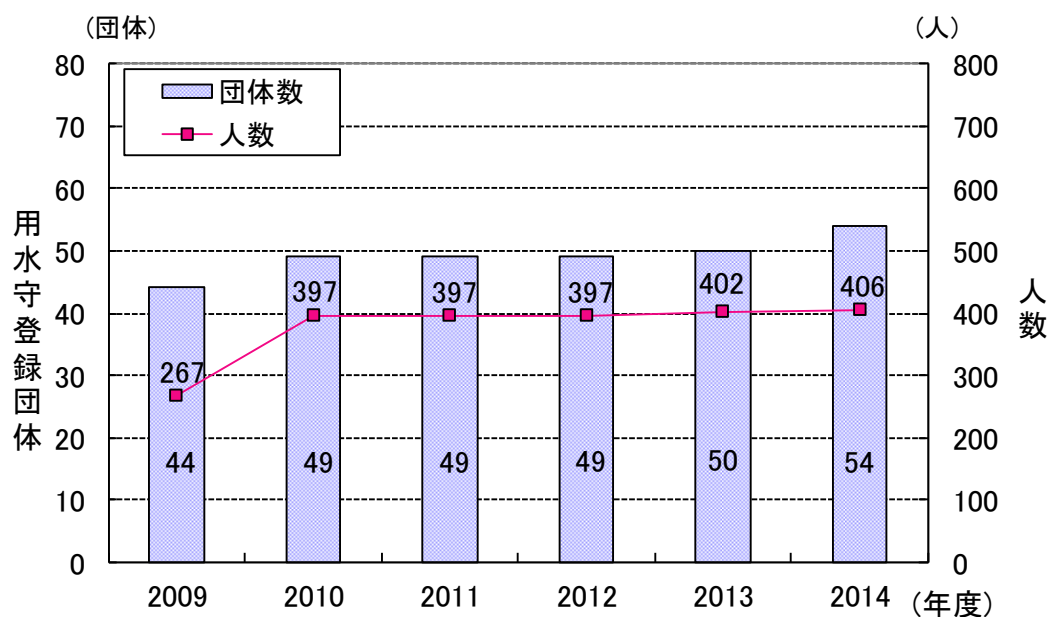
(参考) : 「ビオトープづくり」の取組件数

年度	累積件数	取組開始学校・団体
2001	2	七生中、日野三小
2002	2	
2003	4	仲田小、日野一小
2004	7	滝合ワンド、日野二小、南平小
2005	8	日野六小
2006	9	多摩平保育園
2007	10	平山小(新校舎に設置)
2008	11	日野四小
2009	11	
2010	11	
2011	11	多摩平保育園移転に伴いビオトープも整備
2012	11	
2013	11	
2014	11	

2012 年度以降、新規の取り組みはありませんでした。

(2) 水辺の保全・管理活動の推進

😊 指標 22 : 「用水守」の登録団体数



用水守(ようすいもり)とは

日野市では、恵まれた水環境を次世代に伝えるため、用水路・湧水地等での清掃、草刈、緑化等のボランティア活動をしていただける方を「用水守」として登録いただき、その活動を支援しています。

2009 年度より台帳等で活動実状等について精査を行った結果、記載の数値となりました。

2013 年度は、4 年ぶりに 1 団体が登録され、同年度から始めた「水辺 50 選事業」に伴い、4 団体が新たに登録され総数は 54 団体 406 人となりました。

3. 環境の状況と取組状況の評価

3.<市民コメント>

実施状況の多くがほとんど 2013 年度と同じであり、次のような問題、課題をあげる必要があります。

①水循環に寄与する方策の検討

湧水量等調査の測定回数、方法が 20 年間続けられた結果をフォロー出来るのか確認する。

②用水の保全・活用（用水路改修・補修計画の策定）

計画への行政方針を明確にする。

③雨水浸透・貯留施設の設置促進

貯留施設（特に日野台地）の設置。

④水質の実態把握

測定時期を決める。

⑤水辺に親しむ活動の推進

3 箇所目の水辺の楽校開設には至らなかった。

⑥水辺の保全・管理活動の推進

用水守制度のあり方とさらなる充実。

1. 環境白書は日野市での環境状況、環境活動の現況の報告であると同時に、環境基本計画の推進のための、推進状況・問題・課題の報告であると思われます。

環境基本計画推進主体である市は、取組状況を適切に報告する必要があると同時に、問題・課題に対し、正面から取り組んでいかなければなりません。環境基本計画の中間検証もあわせ、市による積極的な取り組みが期待されます。

2. 市・市民・民間団体・事業者が一体となって、様々な環境問題に対し「自分たちでできること」を考え行動することと、環境基本計画を推進することは一緒ではなく、行政計画である環境基本計画の推進は行政が責任を持って行う必要があります。
3. 環境情報センターが環境基本計画推進－PDCA サイクルでの「Check」、「Action」を確実に担ってもらい、環境基本計画推進会議との PDCA サイクル確立に協働してもらうことを望みます。

ごみ分野

< 目標 > ごみゼロのまち

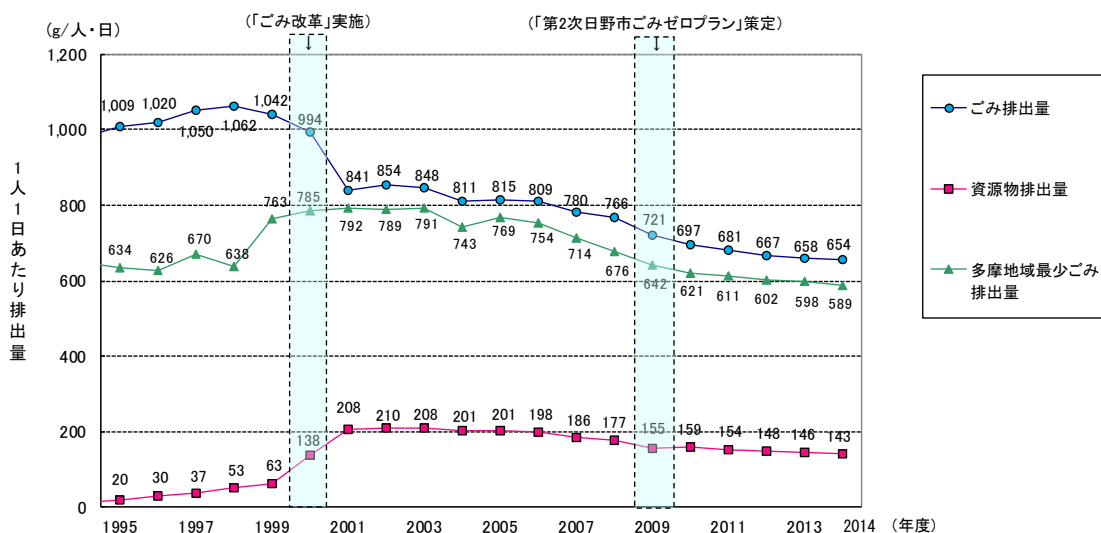
1. <環境の状況>

1.-1 1人1日当たりのごみ排出量

目標値: 600g
(平成 32 年度)



指標 23 : ごみ・資源排出原単位



1人1日当たりのごみ排出量は、
 $\text{総ごみ量} \div \text{各年10月1日現在人口} \div \text{年間日数}$ で算出。
 総ごみ量は国や市の統計に準じて、可燃・不燃・粗大・有害・資源物の収集と持込量の合計とした。
 また、資源物排出量は、上記の式の総ごみ量を資源物収集量(集団回収量は除く)に置き換えて算出した。
 また、多摩地域でのごみ排出最少自治体は次の通り。
 1993～1998年 檜原村、1999～2001年 東久留米市、2002～2005年 清瀬市、2006年～2014年 小金井市。

一人一日当りのごみ排出量は前年度より減少しましたが、ごみ排出量全体でみると可燃ごみが 463t 増加し、総ごみ量も 67t増加しました。

ごみ量の減量については限界が近づいていますが、生ごみ・プラスチックごみの資源化等をすすめ更なる減量を検討し、第3次ごみゼロプランの策定を行います。

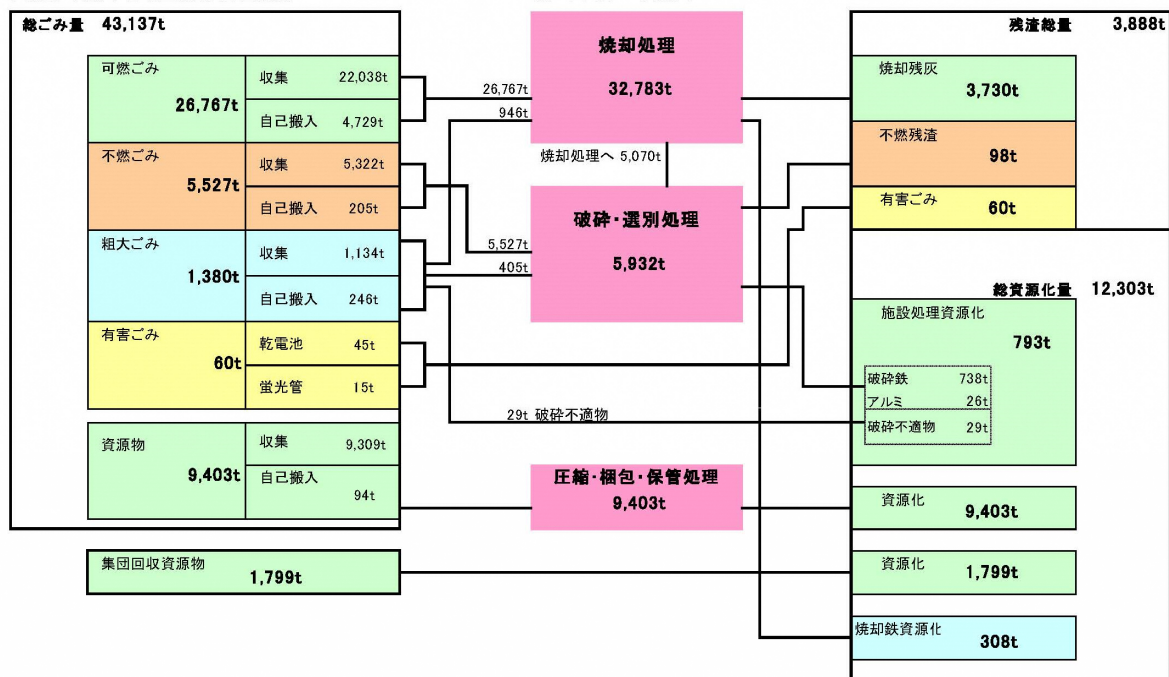
※2005 年度以前は、集計方法が異なっていたため、過去掲載分とは値が異なる。

3. 環境の状況と取組状況の評価

(参考) : ごみの行方

平成26年度のごみ量及び処理状況

3月(平成26年度)まで



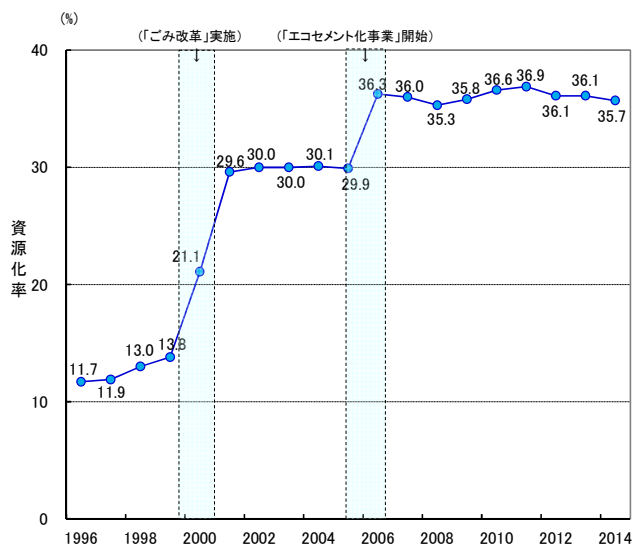
※剪定枝チップ化は、持ち込み資源に含む

1.-2 資源化率

指標 24 : 資源化率

目標値: 40%

(平成 32 年度)



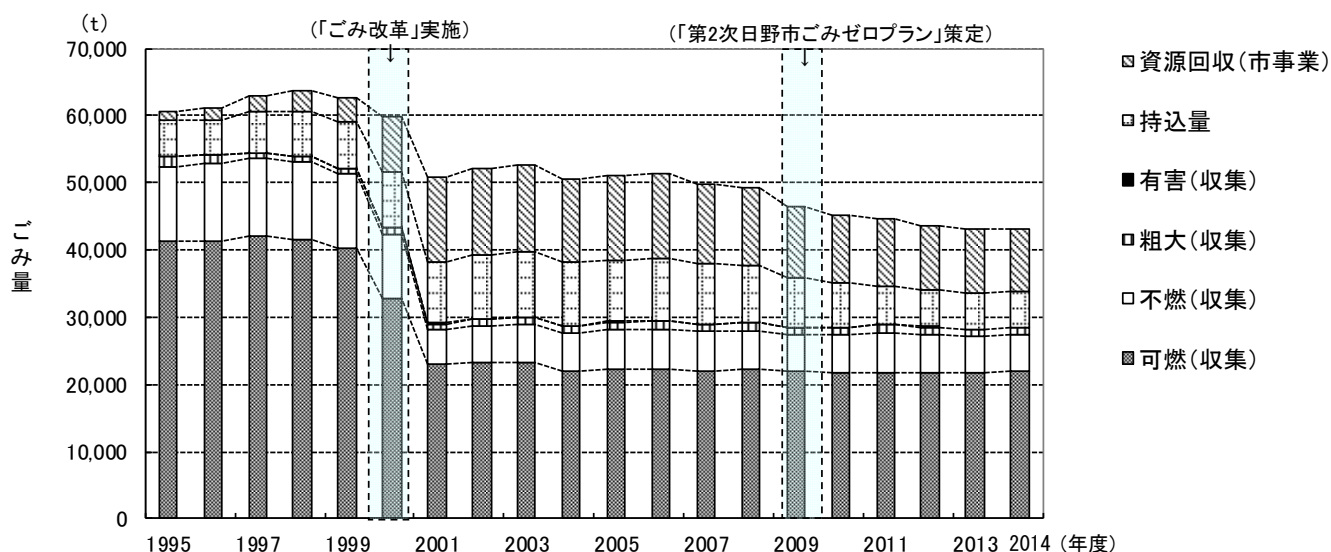
2014 年度の資源化率は前年度より 0.4% 減少した 35.7%でした。2000 年 10 月のごみ改革及び 2006 年 7 月より開始された焼却灰のエコセメント化事業等により資源化率は、13.8%だった第 1 次環境基本計画の策定時(1999 年)に比べ大幅に向上し、2006 年度以降は 36%前後で推移しています。

紙ごみの資源化を強化し、可燃ごみの減量と資源化率向上に向けた啓発に取り組んでいます。

$$\text{資源化率} = \frac{(\text{資源ごみ量} + \text{施設処理資源化量} + \text{エコセメント化量} + \text{その他資源化量} + \text{集団回収量})}{(\text{総ごみ量} + \text{集団回収量})}$$

*エコセメントについては、2006 年度データより計上しています。

(参考)：ごみ量内訳



2. <市の取組状況>

目標	施策の方向	施策	具体的な取組	重点	実施状況
ごみゼロのまち	ごみ排出量の低減	リフューズ(発生回避)の促進	レジ袋無料配布中止の拡大	★	一部スーパー等で実施しているレジ袋無料配布中止を市内全域に拡大するために、3者(市民、事業者、市)によるレジ袋無料配布中止に向けた共同会議を継続し、進めていく。 (ごみゼロ推進課)
		リターン(回収ボックスのある店頭への返却)の促進	容器包装お返し大作戦の展開	★	容器包装の店頭回収を促進するため、回収を実施している販売店の情報提供、販売店への協力依頼等を実施する。 (ごみゼロ推進課)
	リサイクルの推進	資源物回収の推進	分別ルールの徹底		プラスチック製容器包装や古紙類・繊維類、びん・缶類をごみとして排出しないよう、分別方法を周知・徹底する。それにより、不燃ごみの減量化も促進する。 (ごみゼロ推進課)
		生ごみリサイクルの推進	生ごみや剪定枝の地域内循環の拡大	★	生ごみや落ち葉、剪定枝を堆肥化して利用する地域内循環を拡大する。 (ごみゼロ推進課)
		生ごみの家庭内循環(自家処理)の普及促進	生ごみの減量化と堆肥化を促進するために、コンポスト容器購入補助や生ごみリサイクルステッカーの配布を実施する。	★	ダンボールコンポストの補助率を引き上げ、普及促進を行った成果もあり、ダンボールコンポストは平成25年度の3倍に増えたことでステッカーの配布数も倍増した。 (ごみゼロ推進課)
	発市民・事業者への啓	市民の意識向上・行動促進	情報提供ツールの充実	★	ごみ回避・発生抑制に重点をおいて、市民がすべきことを広報やHP、市民団体主催の講座等で啓発するとともに、携帯電話サービスの活用など、新たな情報提供方を検討する。また、市民・市民団体と連携し、各種キャンペーンを実施する。 (ごみゼロ推進課)
実	協	コミ	新聞紙の民間回収への移行	★	関係機関との調整のもと、新聞紙の分別回収を販売店回収、集団回収へと移行し、地域の取組のひとつとして位置づける。 (ごみゼロ推進課)

3. 環境の状況と取組状況の評価

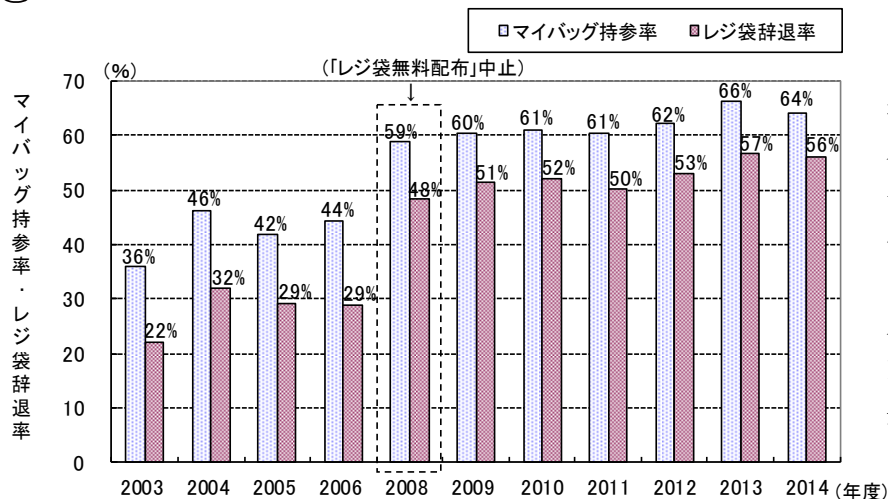
2. -1 ごみ排出量の低減

(1) リフューズ（発生回避）の促進

★ レジ袋無料配布中止の拡大 【重点施策】

年度目標値:マイバッグ持参率 62%

指標 25 : マイバッグ持参率・レジ袋辞退率



2014年度は、マイバッグ持参率が前年度より2ポイント低い64%、レジ袋辞退率はおおよそ1ポイント低い56%でした。

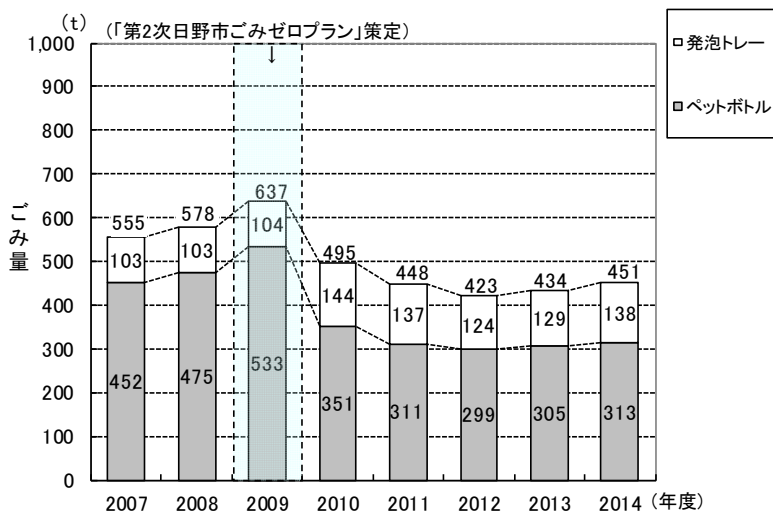
スーパーと連携し、マイバッグ持参率向上に向けた取り組みと啓発を引き続き進めていきます。

(2) リターン（回収ボックスのある店頭への返却）の促進

★ 容器包装お返し大作戦の展開 【重点施策】

年度目標値:ペットボトル・発泡トレーの行政回収量 564t

指標 26 : ペットボトル、発泡トレーの行政回収量



容器包装お返し大作戦と銘打った民間回収啓発を促進し、行政回収の減量に取り組んでいます。

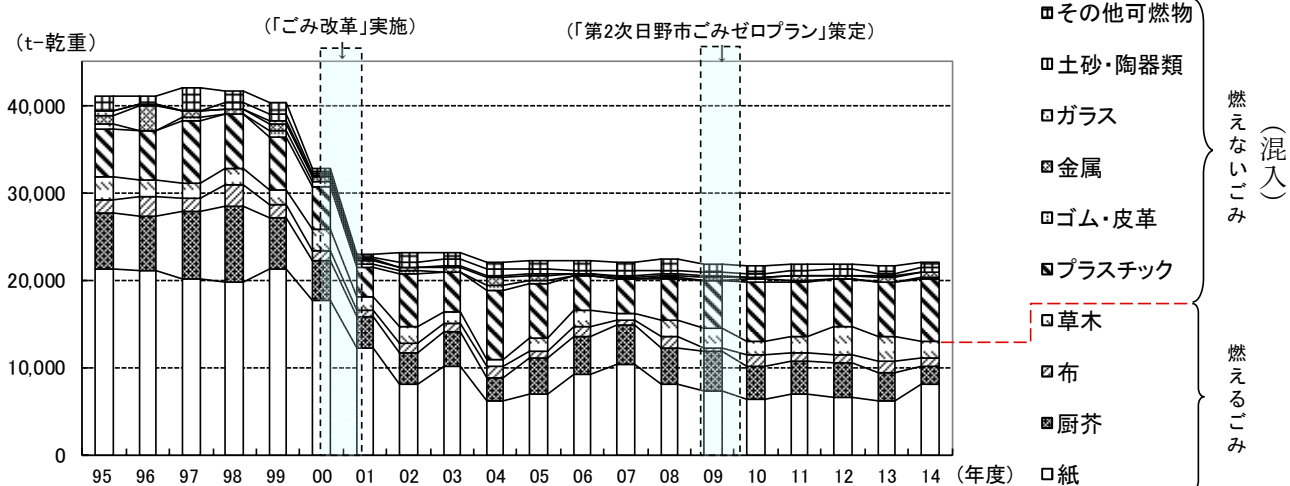
2014年度の行政回収量は451tとなり、総量では、「第2次日野市ごみゼロプラン」が策定された2009年度と比べると29.2%減となりました。

2. -2 リサイクルの促進

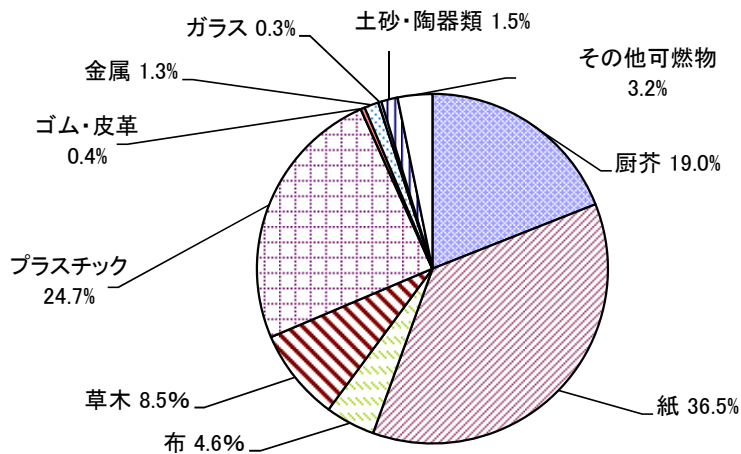
(1) 資源物回収の推進

分別ルール徹底

指標 27：焼却ごみの組成



(参考)：焼却ごみの組成



指標27は水分の重量を含まない乾燥重量ベース(「乾ベース」)、参考指標は水分を含めた「湿ベース」の組成を表しています。

3. 環境の状況と取組状況の評価

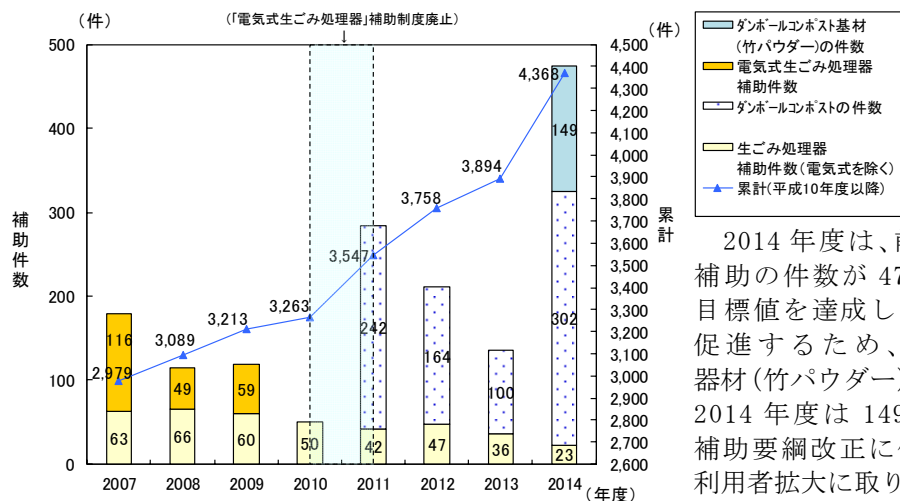
(2) 生ごみリサイクルの促進

★ 生ごみの家庭内循環（自家処理）の普及促進 【重点施策】



指標 28：生ごみ処理器補助の件数

年度目標値:生ごみ処理器補助の件数:累計 3,850 件



電気式生ごみ処理器については、2010年度から補助制度を廃止しました。

2014年度は、前年度と比べ生ごみ処理器補助の件数が474件と大幅に増加し、累計目標値を達成しました。また、継続利用を促進するため、ダンボールコンポスト用器材(竹パウダー)に対する補助を始めました。2014年度は149件の申請がありました。補助要綱改正に伴う市民負担の軽減を図り利用者拡大に取り組んでいます。

ダンボールコンポストとは

字句どおりダンボールでできており、安価で、プラスチック製品よりも環境にやさしいものです。お庭や畑のない家庭でも手軽に体験できるようにと、市民と協働して開発し、市内福祉施設と協力して作製しました。生ごみを混ぜ込む基材には多摩産の竹から作った「竹パウダー」(竹を細かく破碎したもの)を使用したり、ダンボールに被せる虫除けカバーは、古布リサイクル品から作ったりするなど、工夫と試行錯誤を重ねた日野市オリジナル品です。

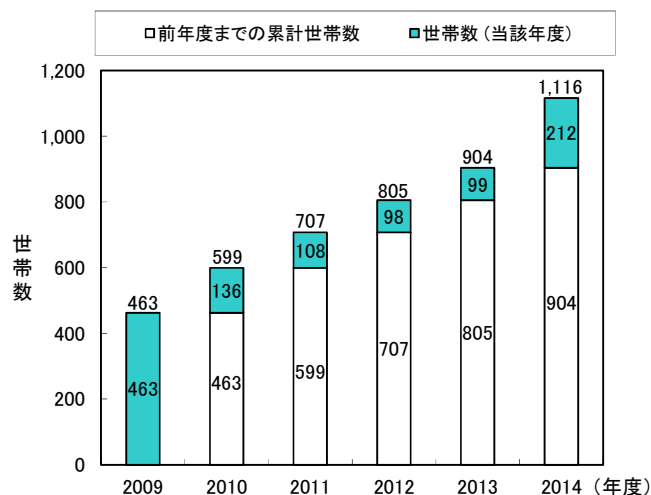


ダンボールコンポスト



指標 29：生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数

年度目標値:生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数累計3,200件



生ごみリサイクルステッカーとは

市では、家庭での生ごみ処理の輪が更に広がるよう、また、生ごみを可燃ごみとして出さない人が市内にどの位いるのかがわかるよう、玄関ドアなどに掲示するステッカーです。



2. -3 市民・事業者への啓発

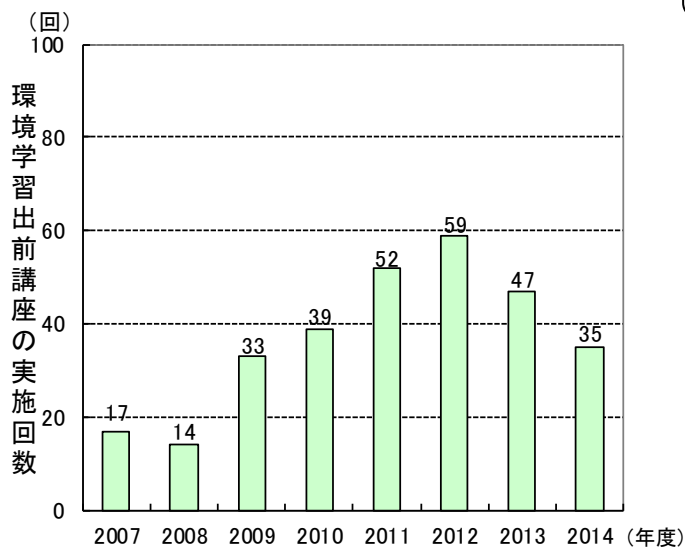
(1) 市民の意識向上・行動促進

★情報提供ツールの充実 【重点施策】



指標 30 : 環境学習出前講座の実施回数

年度目標値:環境学習出前講座の実施回数 49回

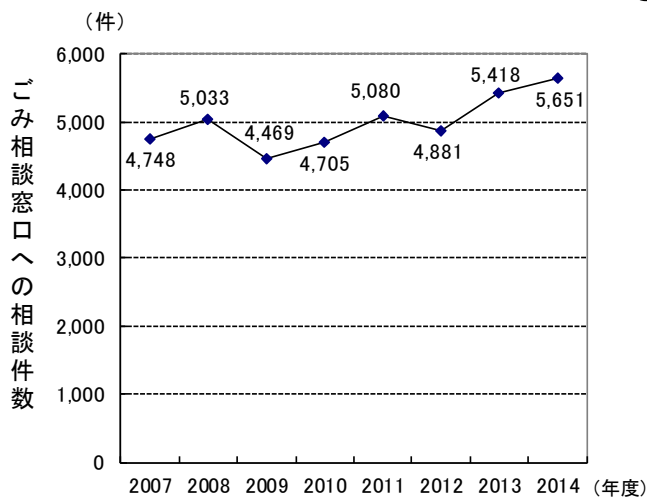


子どもたちからの啓発などで家族への啓発につながるような環境学習に取り組み、環境学習出前講座を行っています。その実施回数は2009年度から年々増えてきましたが、2013年度から減少に転じました。



指標 31 : ごみ相談窓口への相談件数

年度目標値:ごみ相談窓口への相談件数 5,050 件以上



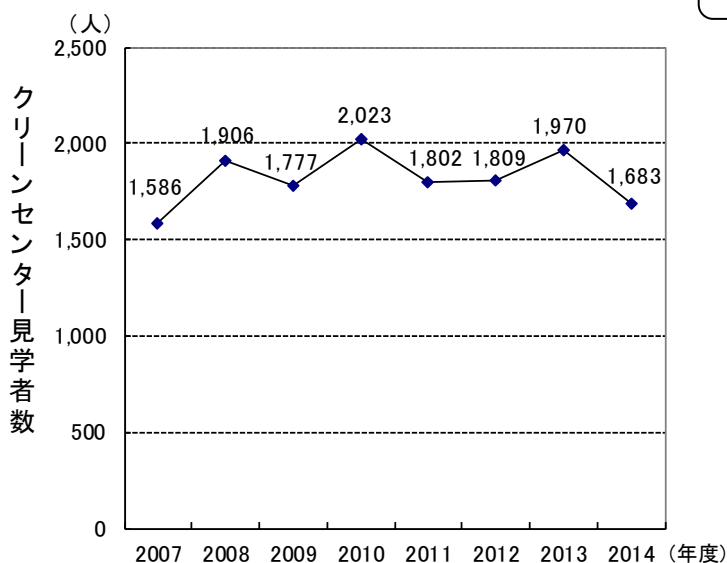
ごみ相談窓口は、市役所本庁舎一階に設置しています。ごみ相談窓口への相談件数は、市の人口の増加と共に 2010 年度から増加の傾向が認められ、2014年度は前年度より 233 件増の 5,651 件となり 2 年続けて目標値を達成できました。これは、多くの市民のごみへの関心や意識が向上したためといえます。

3. 環境の状況と取組状況の評価



指標 32：クリーンセンター見学者数

年度目標値:クリーンセンター見学者数 2,040 人



2014年度のクリーンセンター見学者数は、前年度より287人少ない1683人であり、目標値の2,040人にはおおよびませんでした。

2. -4 協働によるごみゼロの実現

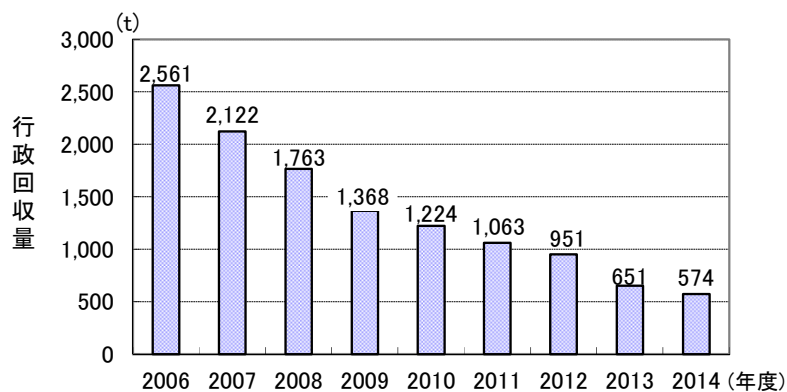
(1) コミュニティー単位での取組

★新聞紙の民間回収への移行 【重点施策】



指標 33：新聞紙の行政回収量

年度目標値:1,268t



民間回収への移行が順調に進んでいるため行政回収量は、年々減少傾向を続けており、2014年度は、前年度より77t少ない574tでした。

集団回収の推奨、販売店回収への啓発等を行い、減量をすすめています。

3. <市民コメント>

ごみ分野では、行政と市民が「ごみ減量推進市民会議」や「ひの・まちの生ごみを考える会」（略称「まち生」）を通して協働し、以下の施策を推進しています。

■レジ袋無料配布中止の拡大

現在市内のスーパー・生協 7 店舗で実施しているレジ袋無料配布中止を市内全スーパーに拡大するため、スーパー・市民団体・行政による「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を定期的
に開催しています。容器包装リサイクル法改正による法的措置を期待しつつ、実現方法を模索中です。

■家庭での生ごみ減量・自家処理の推進

『エコー』の「市民のページ」や広報などで、「3 切り」（水切り、食べ切り、使い切り）や庭
への埋立や堆肥化を呼びかけています。

また、「生ごみリサイクルサポーター連絡会」（「まち生」の別動隊）は、手軽に生ごみの堆肥化
を始められる、ダンボールコンポストを普及させるため、講習会や交流サロン、各種イベントで
の展示・説明などを実施し、『生ごみ菌ちゃん通信』を発行しています。

■生ごみの地域内循環の推進

「まちの生ごみ活かし隊」（「まち生」の別動隊）が、第八小学校区域で約 200 世帯の生ごみを
戸別回収し、新井にある約 650 坪のコミュニティガーデン「せせらぎ農園」の畑に直接すき込んで
野菜を栽培しています。ここは、新しい都市農業のかたちとして、また、地域の人たちの楽しい
居場所や、農体験を通しての食育や環境教育の場として、各方面から注目されています。

このほかに、市内の幼稚園や小学校での生ごみを使った土づくり・野菜作りを推進しています。

■販売店への返却の促進

ペットボトルと発泡トレーの店頭回収を増やすため、2010 年 4 月から「容器包装お返し大作戦」
を開始し、市の収集を 2 週に 1 回から 4 週に 1 回に変更しています。その結果、2014 年度の両品
目の行政収集量は、実施直前と比較して 29.2%減少していますが、このところ行政回収量が増加
傾向にあり、啓発を強化する必要があります。

また、新聞紙についても販売店回収を増やすため、2013 年 4 月から市の収集を 2 週に 1 回から
4 週に 1 回に変更した結果、2014 年度の行政回収量は実施直前と比べて 39.6%減少しました。

■リサイクルの推進

リサイクルをより一層進めるためには、リサイクル対象品目の分別排出を徹底する一方、
リサイクル対象品目の拡大が必要です。

- プラスチックの中間処理施設の整備と分別収集対象の拡大。
- 民間または直営生ごみ処理施設による生ごみ処理の検討。
- 剪定枝のリサイクルの拡大（民間リサイクル施設の活用も検討）。
- その他の品目へのリサイクルの拡大とその収集方法の検討。

地球温暖化分野

< 目 標 > 低炭素社会を築くまち

1. <環境の状況>

1. -1 日野市二酸化炭素排出量

削減率（削減量）

短期目標 10%(75.0kt-CO₂) (平成 27 年度)

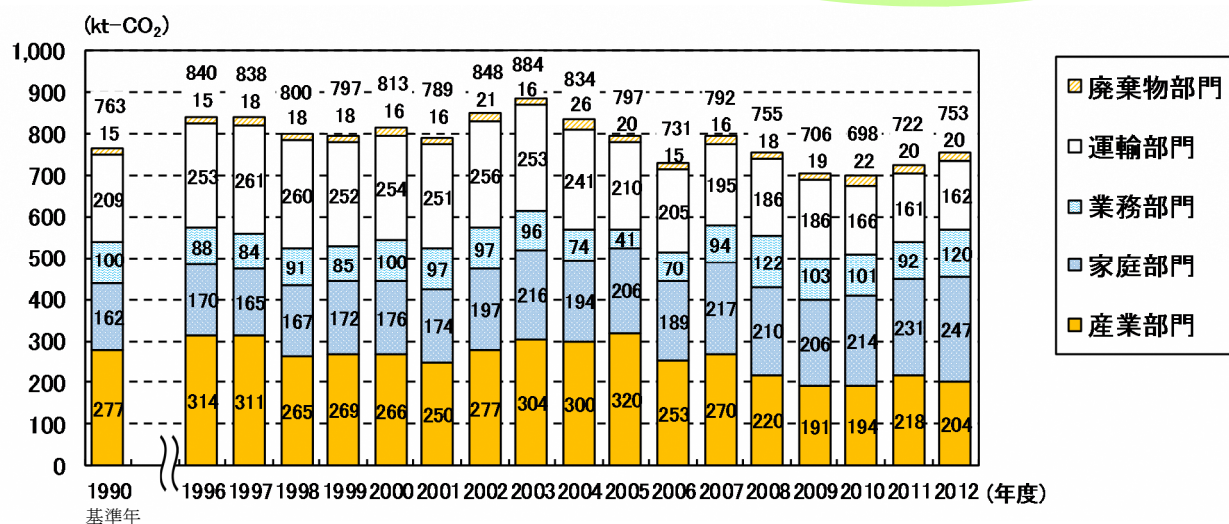
目標値: 中期目標 18%(128.6kt-CO₂) (平成 32 年度)

長期目標 60% (450.0kt-CO₂) (平成 62 年度)

(基準年度:1990 年度)



指標 34：二酸化炭素排出量



「第3次日野市地球温暖化対策実行計画」(以下、第3次実行計画)の策定が2012年3月にされましたが、環境基本計画では目標値が設定されていませんでした。従ってここに掲げる目標値は、第3次実行計画によるものです。

二酸化炭素排出量の削減目標は、国の2050年度までに1990年度比60～80%という目標を踏まえ、設定されています。さらに、目標値は環境基本計画の目標年度に併せ2020年度の中期目標値、見直し年度である2015年度の短期目標値が設定されています。

現況の二酸化炭素排出量は、オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」により作成された温室効果ガス排出量算定手法の標準化区市共通版の数値を基準とされています。また、当手法では2012年度が最新データとなっています。この数値を使うことにより、東京都における他自治体と同一の算定条件のもとで比較もでき、有用であることから第3次実行計画策定以降、採用しています。

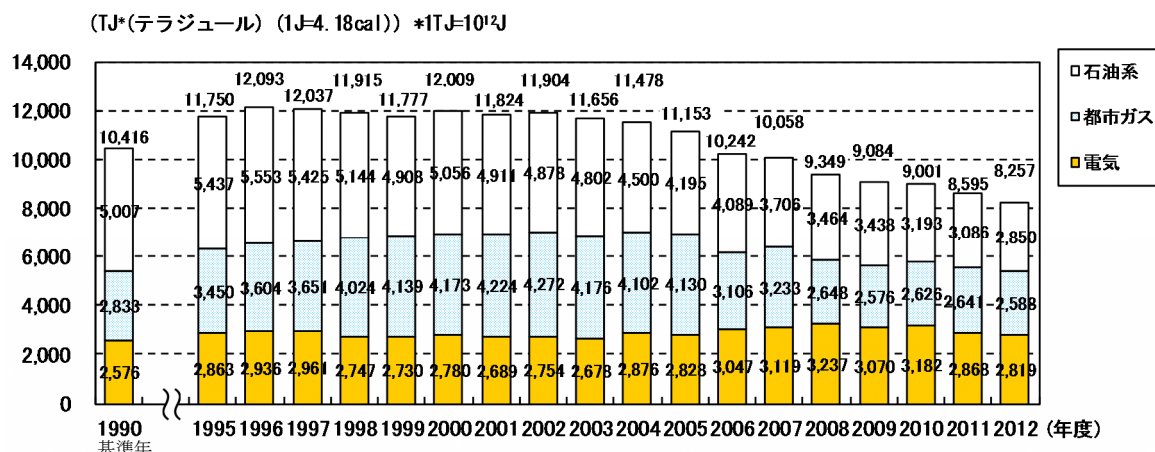
2012年度における二酸化炭素排出量(753kt-CO₂)は、前年度と比べるとやや増加しましたが、基準年(1990年度)と比べて1.3%(10.0kt-CO₂)減少しています。部門別にみていくと、基準年(1990年度)と比べ廃棄物部門は33.3%、家庭部門は52.5%、業務部門は20.0%とそれぞれ増加しましたが、運輸部門は22.5%、産業部門は26.4%と、それぞれ減少となりました。

平成 20 年度より、事業者や家庭から排出されるCO₂の削減に向けた取り組み（ふだん着でCO₂をへらそう事業）を実施しています。

家庭部門から排出されるCO₂は、基準年(1990 年度)から見ると増加傾向が続いていることから、より多くの市民に省エネに取り組むよう、積極的なはたらきかけが必要です。

1. -2 日野市エネルギー使用量

(参考)：エネルギー消費量



環境基本計画では目標値が設定されていましたが、第3次実行計画では二酸化炭素排出量に目標が集約されているため、エネルギー使用量の目標値は設定されていません。そのため、参考扱いとします。

2012 年度のエネルギー消費量は、基準年(1990 年度)と比べて 20.7%減少しています。部門別にみると、石油消費量が 43.1%と大幅に減少しています。

1. -3 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率

☺ 指標 35：公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率

目標値: 80.0%

(平成 32 年度)

年度	公共交通機関の整備率
2008	77.7%
2009	78.2%
2010	79.0%
2011	79.0%
2012	79.2%
2013	79.6%
2014	79.6%

公共交通の整備率は、ミニバスやワゴンタクシーを含めた、市内にある全ての停留所から半径 200m、駅から半径 500m 以内にある面積が市全域の面積に占める割合です。

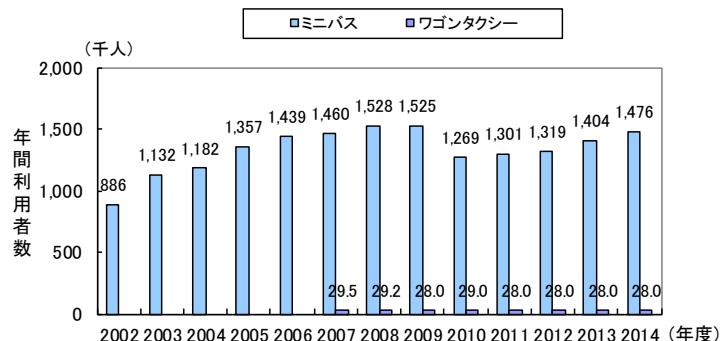
2014 年度は、前年度と同数値の 79.6%に留まりましたが、2020 年度の目標値に非常に近い値となっています。

3. 環境の状況と取組状況の評価

1. -4 公共交通機関(ミニバス・バス)の利用人数

目標値: ミニバス
158 万人
(平成 32 年度)

😊 指標 36 : バス路線の整備状況:市内連絡バス(ミニバス)年間利用者数



2010 年度は、バス路線網の見直しにより、ミニバスの一部路線が一般路線に編入されたため減少しましたが、その後は増加傾向で、2014 年度は前年度より 72,000 人程増加しました。

ワゴンタクシーは、昨年度と同様 28,000 人程で 2011 年度以降大きな変化は認められませんでした。

2. <市の取組状況>

目標	施策の方向	施策	具体的な取組	重点	実施状況
低炭素社会を築くまち	省エネルギーの推進	家庭における省エネルギーの促進	CO ₂ の見える化の推進	★	ワットチェッカーの貸し出しやモニターによる省エネ実践、身近にふれるもの(食料品、省包装商品など)のCO ₂ 削減効果のデータ化などにより、CO ₂ の見える化を図る。 (環境保全課)
		「ひのっ子エコアクション」の推進	市民団体と市関連部署との連携により、各学校での「ひのっ子エコアクション」をさらに推進する。それによって、環境配慮行動を当たり前のようにできるひのっ子を育み、家庭での取り組みにもつなげていく。	★	・児童生徒及び教職員の継続的な「環境にやさしい学校づくり」のための実践行動、目的意識の統一に繋げた。今後もユニークな発想や効果のあった実践等は全校に情報発信していく。 (環境保全課)
		工場や事業所の省エネルギーの促進	省エネ診断の支援	★	小規模な工場や事業所でも省エネ診断をできるよう、省エネ診断に関する情報提供や省エネ診断員の紹介等を行う。 (環境保全課)
	新エネルギーの導入	家庭への太陽光発電等の導入促進	太陽光発電等導入補助の実施	★	国・都が推進する太陽光発電システムや太陽熱温水器、高効率機器等の導入を促進するために、日野市としても上乗せの補助を実施する。 (環境保全課)
		公共施設における太陽光等新エネルギーの活用	太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用	★	公共施設において、新築、改築、大規模修繕等の各種事業に合わせて、積極的な新エネルギーの導入を図る。 (環境保全課)
	構想環境交通に配慮のし	自動車利用時の排出ガスの低減	渋滞の解消	★	交差点改良や道路の拡幅、バイパス化、路上駐車規制、ITSの導入、荷さばき用の駐車場の確保等により渋滞を解消し、自動車のスムーズな定速走行を促進することで、CO ₂ 排出量を抑制する。 (道路課)

2. -1 省エネルギーの推進

(1) 家庭における省エネルギーの促進

★CO₂の見える化の推進 【重点施策】

☺ 指標 37：ワットチェッカー等貸出状況

年度目標値:ワットチェッカー貸出数 50 件
省エネナビ貸出数 10 件
環境家計簿活用状況 1,000 件

年度	ワットチェッカー		省エネナビ		環境家計簿活用件数
	貸出数	累計貸出数	貸出数	累計貸出数	
2011	55		48		751
2012	42	97	25	73	12,752
2013	36	133	20	93	6,554
2014	53	186	37	130	11,086

2014 年度のワットチェッカー・省エネナビの貸し出しは、あわせて 90 件と前年度より 34 件増加し、環境家計簿活用件数は 11,086 件と前年度の 6,554 件を大きく上回りました。これらの数値はそれぞれの目標値を上回る結果となりました。

ワットチェッカーとは

消費電力量等を簡単に測定できる機器であり、コンセントに設置して、対象家電の電源プラグを差し込んで測定します。

省エネナビとは

家庭の分電盤に設置して電力消費量を計測し、モニターに表示するシステムです。

環境家計簿とは

通常の家計簿とは違い、家庭で使用した電気やガスなどのエネルギー量を記録し、どのくらいのCO₂を排出しているか確認するものです。

(2) 工場や事業所の省エネルギーの促進

★省エネ診断の支援 【重点施策】

☹ 指標 38：省エネ診断の参加事業者数

年度目標値:100 件

2011 年度から開始された省エネ診断は 4 年目を迎えましたが、2014 年度の参加事業者数は 2 件で、累計 20 件にとどまっています。このように参加事業者数が少ない理由としては、事業者に対する省エネ診断の意義が周知されてないことが考えられます。そこで、2013 年度から市内業者を訪問し、省エネ診断などを直接ご紹介して受診事業者の掘り起こしを行い、参加事業者数の増大を図っています。

3. 環境の状況と取組状況の評価

2-2 新エネルギーの導入

(1) 家庭への太陽光発電等の導入促進

★ 太陽光発電等導入補助の実施 【重点施策】

年度目標値: 太陽光発電等導入補助件数
50 件

☺ 指標 39: 太陽光発電等の導入補助件数

年度	太陽光発電(件)	高効率給湯設備(件)
2010	11	4
2011	33	17
2012	32	17
2013	40	13
2014	45	6

エコ住宅に太陽光発電・高効率給湯設備を設置したものを補助対象としています。事業は順調で、今年度の補助件数は 51 件と年度目標の 50 件を超えています。

(2) 公共施設における太陽光等新エネルギーの活用

★ 太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用 【重点施策】

年度目標値: 累計 133kW

☺ 指標 40: 公共施設の新エネルギー導入状況

年度	新エネルギー導入状況(kW)	備考
2009	0 (24)	平山小学校10kW, 第一中学校10kW 日野駅北側トイレ4kW
2010	34 (10)	東光寺小学校10kW
2011	144 (110)	ふれあいホール100kW, 多摩平保育園10kW
2012	147 (3)	ファーマーズセンター3kW
2013	157 (10)	発達支援センター10kW
2014	157 (0)	

*()内の数値は単年度の導入数値

2014 年度において導入はありませんでしたので、累計数値は前年度と同数値の 157kW であり、年度累計目標値を達成しています。

※2009 年度の日野駅北側トイレは、本年度から 1.5kW から 4kW へ修正があり、過年度の数値とは異なる。

新エネルギーとは

「新エネルギー」とは、太陽光発電や風力発電などの「再生可能エネルギー」のうち、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量が少なく、エネルギー源の多様化に貢献するエネルギー。

2. -3 環境に配慮した交通体系の構築

(1) 自動車利用時の排出ガスの低減

★渋滞の解消 【重点施策】

年度目標値:92.8%

😊 指標 41：都市計画道路の整備率

年度	都市計画道路の整備率
2009	89.9
2010	89.9
2011	92.8
2012	92.8
2013	92.8
2014	92.8

自動車のスムーズな定速走行を促進することで、CO₂排出量の抑制を図ります。

現在、3・4・24号線の整備が準備中です。

2014年度は92.8%で、年度目標値を達成しています。

3. <市民コメント>

2012年度の二酸化炭素排出量は、残念ながら2011年度に続き2年連続で増加しました。2011年度と同様に火力発電稼働増加等の影響が考えられます。

部門別に前年度と比較してみると、業務部門が30.4%と大幅に増加し、次いで家庭部門が6.9%増加しています。産業部門は6.4%減少し、その他の部門は横ばいになっています。業務部門の増加の要因を未だつかんではいませんが、今後の動向を注視する必要があります。家庭部門は、2009年度に部門別で一番の排出量となって以来増加傾向が止まらず、この部門への対応が最重要課題となっています。

しかしながらエネルギー消費量をみると、全体で前年度より3.9%減少しており、特に石油消費量が7.6%も減少しています。各種エネルギーの使用削減は進んでいるようです。

地球温暖化が原因と思われる高温に加え、異常気象が国内、海外で日常的に発生するようになっています。二酸化炭素排出量の削減は待ったなしの状況です。産業部門においては減少傾向が続いていますが、家庭部門と業務部門は増加傾向が止まりません。特に家庭部門が一番の排出量であり、市民一人ひとりの生活様式の結果が反映されていると言えます。家庭では、給湯による二酸化炭素排出量が最大となっているため、高効率給湯器への買い替えは効果が大きくなります。また、自動車の使用を抑え、公共交通機関や自転車の利用も望まれます。

地球温暖化を阻止するために私たちに出来ることは何かを考え、お互いに情報を発信し、行動することが求められています。

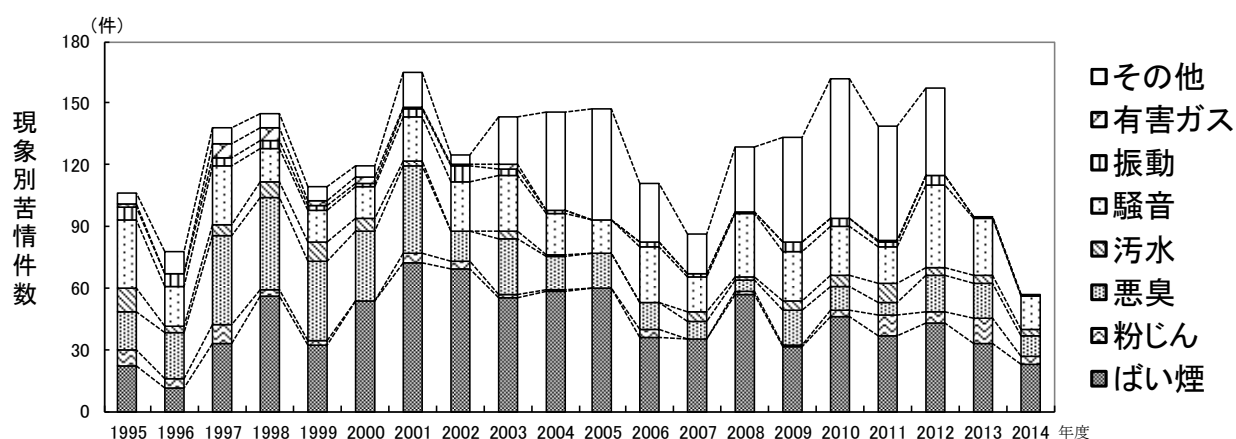
生活環境分野

< 目 標 > 心やすらぐ住みよいまち

1. <環境の状況>

1.-1 心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合

◇ 指標 42：苦情受付件数



市に寄せられた環境・公害に関する苦情件数をみると、2008 年度以降は増加傾向でしたが、2013 年度から徐々に減少に転じています。また、前年度と比較すると 2014 年度の苦情受付件数は 38 件少ない 57 件となりました。

単年度の結果ではありますが、市民の一人ひとりのマナーへの関心が高くなってきていると思われる。

※従来の現象別苦情のうち「その他」については、総務省公害等調整委員会の通達により公害に含めないことになり、2013 年度からは公害の件数としてカウントしないため 0 件となっています。

2. <市の取組状況>

目標	施策の方向	施策	具体的な取組	重点	実施状況
心やすらぐ住みよいまち	日常生活をとりまく環境の充	快適な生活環境の確保	PRの実施	★	・引き続き、誰もが快適に暮らし心安らぐ生活環境を維持・確保するために、一人ひとりが近隣に配慮した行動を心がけるようPRを実施した。 (環境保全課)
			苦情等に対する適切な対応		・市民等から生活環境に関わる苦情・要望等が寄せられた場合には、可能な限り迅速に状況を確認し、適切に対応した。 (環境保全課)
	公害対策の推進	大気・土壌・地下水汚染等の防止	大気汚染物質の監視		・引き続き窒素酸化物、大気中のダイオキシン類の濃度を継続的に測定する。数値の悪化を防ぐため引き続き監視を行うと共に、光化学スモッグなど健康に影響を与える情報は速やかに公表する。 (環境保全課)
		騒音・振動対策の推進	道路交通騒音の測定及び対策の実施		・道路交通騒音を定期的に測定し、現状把握に努めた。また、環境基準(または要請限度)を超過するなどの場合には、関係部署と連携し、適切な処置を講ずるよう努める。 (環境保全課)
			航空機騒音についての対策		・市内の航路に該当する地点の航空機騒音を定期的に測定し、現状把握に努めた。また、環境基準を超過することはなかったが、市民等からの苦情・要望等に対しては、適切な処置を講ずることとした。 (環境保全課)

2-1 日常生活をとりまく環境の充実

(1) 快適な生活環境の確保

★ PRの実施 【重点施策】

年度目標値:14回以上

☺ 指標 43: マナーアップのための啓発活動状況

(単位:回)

マナーアップのための啓発活動状況 (年度)	2010	2011	2012	2013	2014	備項
禁煙マナーアップキャンペーン	4	4	3	4	3	JR日野駅2回、JR豊田駅1回
広報によるマナー啓発	2	3	5	5	8	生活マナー2回、犬2回、猫1回 動物1回、禁煙2回
犬・猫の飼い方講習会	3	5	2	4	4	犬3回、猫1回
自治会によるマナー啓発	1	2	2	2	2	一斉清掃のお知らせと同時に実施
計	10	14	12	15	17	

市民一人ひとりが快適に暮らすには、周りの人の意見や考えを尊重しながら、自らの行動が周りの人にどのような影響を与えているかなどについて考えていかなければなりません。

2014年度のマナーアップのための啓発活動は17回であり、年度目標を上回る結果となりました。

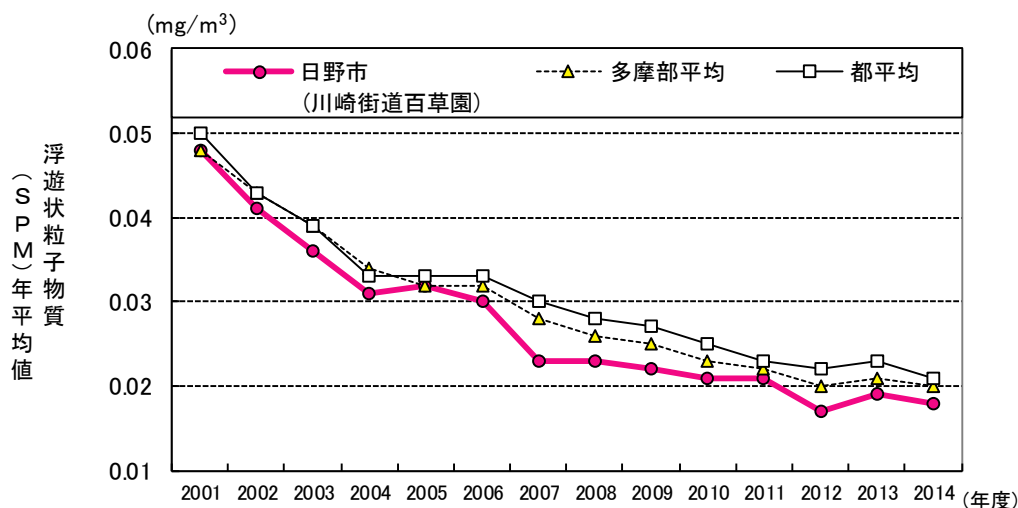
3. 環境の状況と取組状況の評価

2-2 公害対策の推進

(1) 大気・土壌・地下水汚染等の防止

大気汚染物質の監視

☺ 指標 44：浮遊状粒子物質（SPM）年平均値



東京都自動車排出ガス測定局の測定結果によれば、日野市（川崎街道百草園）のSPM年平均値は多摩部平均や都平均よりも低く推移しています。2007年3月に開通したバイパスにより、自動車の交通量は分散したことが考えられ、2007年度以降は低い数値を示しています。

なお、2014年度のPM_{2.5}同測定局結果は、1年平均値が14.1μg/m³、1日平均値が36.2μg/m³となり、環境基準(H21.9.9環境省告示)である「1年平均値が15μg/m³以下であり、かつ、1日平均値が35μg/m³以下であること。」をわずかに上回るものとなりました。濃度が上昇する原因などについては現在も世界中で研究中であり確定はできませんが、今後も注視していくことが必要と考えられます。

浮遊粒子状物質

(SPM: Suspended Particulate Matter)とは

大気中に浮遊している粒径10μm以下の粒子と定義されています。

その構成成分は多種多様で、例えば自動車(主にディーゼル車)の排気ガスに含まれている燃焼の際のスス等(排気管一次粒子)や、タイヤや路面が摩耗して堆積し、自動車の走行によって巻き上げられるもの、海塩粒子、土壌粒子等も含まれますし、ガス状物質として大気中に放出されたものが粒子に変化して、硝酸塩等になる二次生成粒子と呼ばれるものも含まれます。

環境基準

「1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。」(S48.5.8告示)

微小粒子状物質(PM_{2.5})

大気中に浮遊している2.5μm(1μmは1mmの千分の1)以下の小さな粒子のことで、従来から環境基準を定めて対策を進めてきた浮遊粒子状物質(SPM:10μm以下の粒子)よりも小さな粒子です。

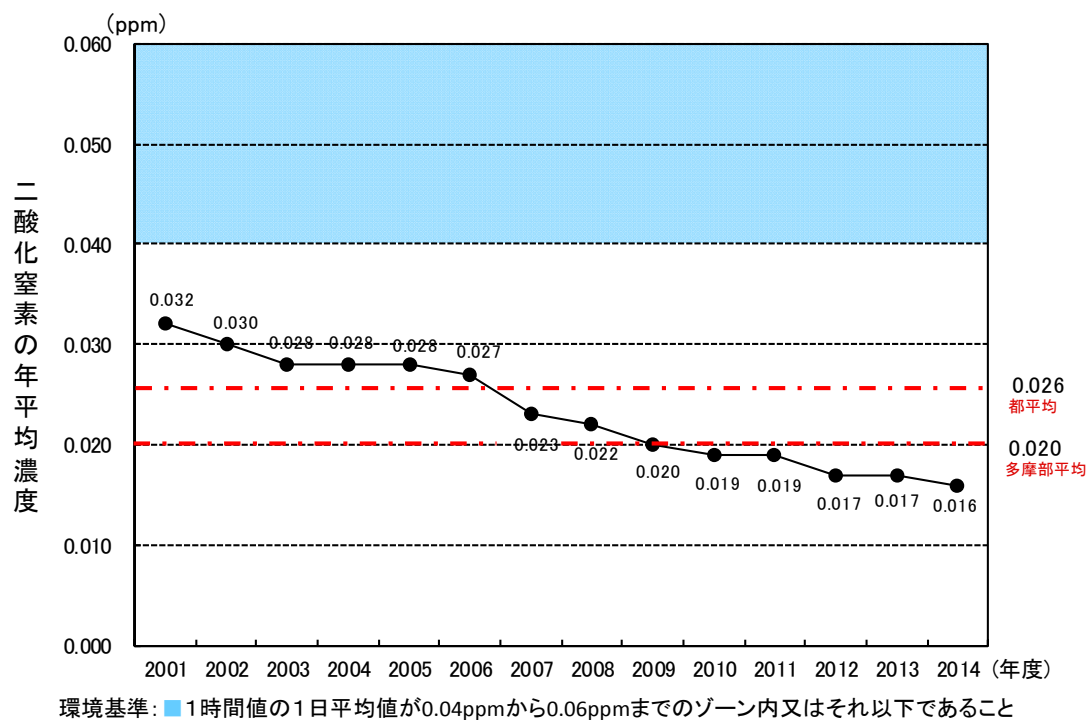
PM_{2.5}は非常に小さいため(髪の毛の太さの1/30程度)、肺の奥まで入りやすく、呼吸系への影響に加え、循環器系への影響が心配されます。

粒子状物質には、物の燃焼などによって直接排出されるものと、硫黄酸化物(SO_x)、窒素酸化物(NO_x)、揮発性有機化合物(VOC)等のガス状大気汚染物質が、主として環境大気中での化学反応により粒子化したものがあります。発生源としては、ボイラー、焼却炉などのばい煙を発生する施設、コークス炉、鉱物の堆積場等の粉じんを発生する施設、自動車、船舶、航空機等、人為起源のもの、さらには、土壌、海洋、火山等の自然起源のものもあります。

(出典:環境省_微小粒子状物質(PM_{2.5})に関する情報

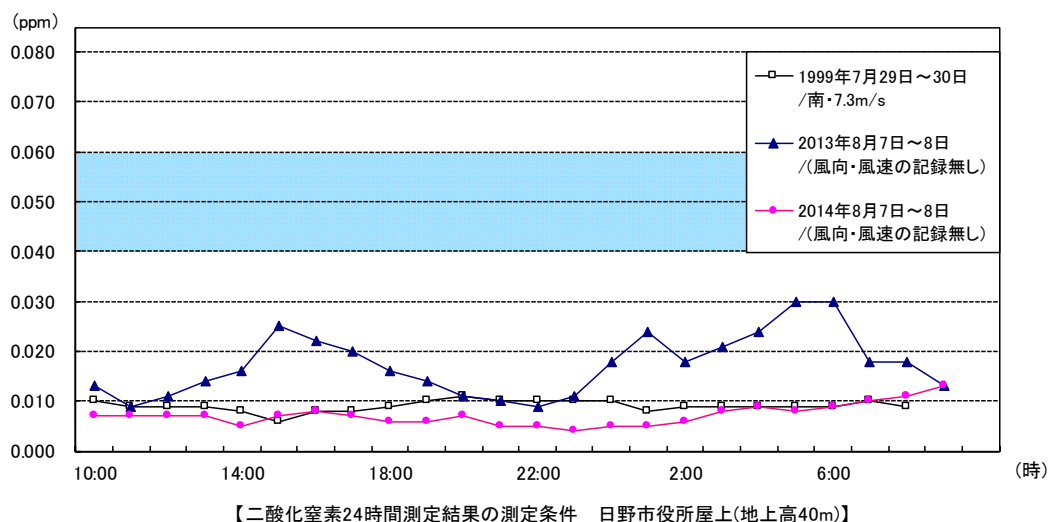
<http://www.env.go.jp/air/osen/pm/info.html>)

😊 指標 45 : 二酸化窒素の年平均濃度



日野市川崎街道百草園にある東京都自動車排出ガス測定局の調査結果(都の報道発表資料)によれば、2014年度の二酸化窒素濃度平均値は昨年とほぼ同様の0.016ppmを示しています。日野市の値は、都平均値0.026ppm、多摩平均値0.020ppmと比較して低い値となっています。

◇ 指標 46 : 二酸化窒素 24 時間測定結果

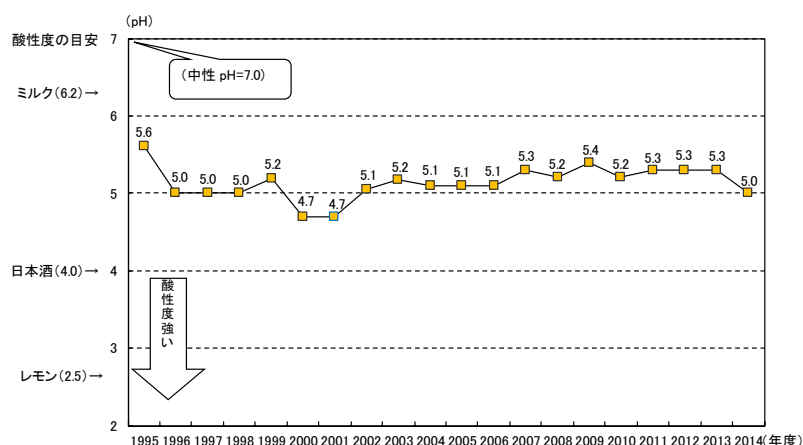


環境基準: ■ 1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること

1日における二酸化窒素濃度(日野市役所屋上)の変動(2014年8月7～8日)と、1999年、昨年の2013年を比較すると、全体的に減少しています。2014年は8日の朝方0.01ppmを超えましたが、二酸化窒素の環境基準「1時間値の1日平均値が0.04～0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下」であり、環境基準をクリアしています。

3. 環境の状況と取組状況の評価

◇ 指標 47：雨の酸性度



酸性雨とは

自動車や工場から大気中に排出された硫黄酸化物や窒素酸化物により、雨水が pH5.6 以下に酸化する現象です。

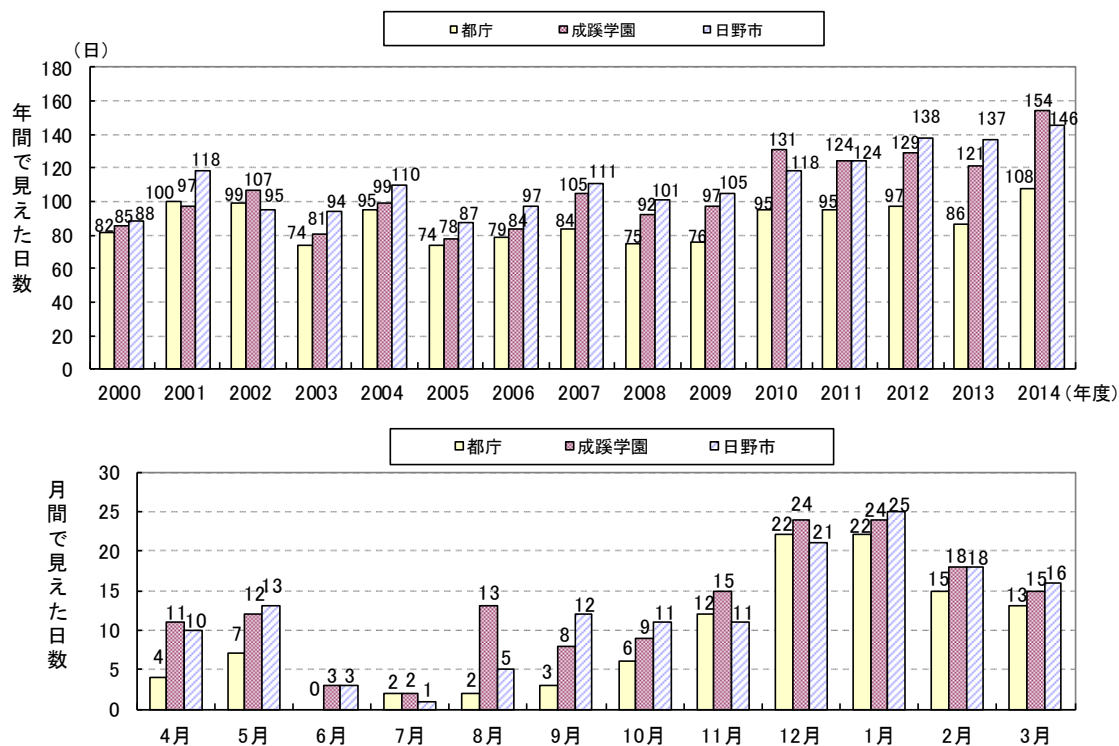
pH とは

酸性の度合いを示し、中性は pH7 です。酸性度が強くなるほど数字が低くなります。

2014 年度における雨の pH 値は pH5.0 (市内 8 カ所で市民モニターにより測定された 88 試料の平均値) で、2002 年度以降大きな変化はありませんでした。

(参考)：富士山ウォッチング (富士山が見えた日数)

※各々、毎日定時に観測し、かすかに見える日を含んでカウントしている。



都庁 = 毎日9時に観測 場所：新宿区都庁舎35階 (標高191.5m)

成蹊学園 = 毎日9時に観測 場所：武蔵野市吉祥寺北町 (標高56.0m)

日野市 = 毎日8時に観測 場所：南平5丁目 (七生中南東角交差点付近：標高75.0m)

(注：日野市の2014年4月は2日の欠測があります)

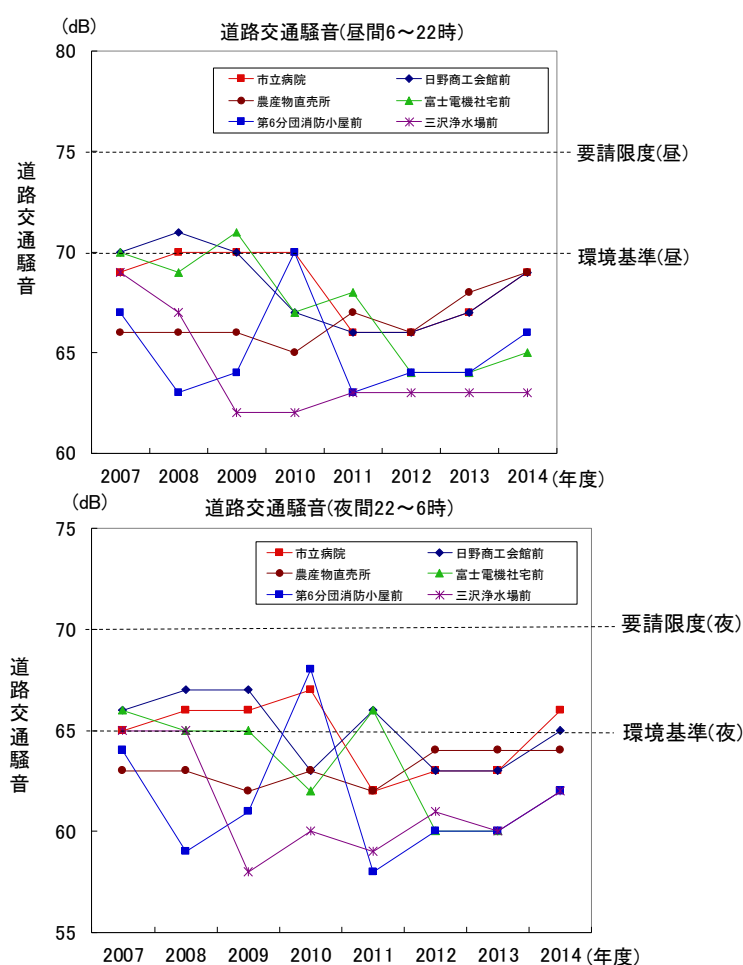
日野市での観測記録を、インターネット上で公開されている都庁（新宿区）からの観測値と、成蹊学園気象観測所の協力を得て入手した 30 年以上の実績がある成蹊学園（吉祥寺）のデータと比較しました。データを読むにあたり、都庁は 35 階（200m 弱）の高層からの観測値であり、日野市は観測者の事情で標準観測時より早い 8 時の観測であることに注意が必要です。

晴天日数等の厳密な気象条件は年によって違いがあるものの、2014 年度は年間で見えた日数が、前年度に比べ 3 ヵ所とも増加し、特に都庁（新宿区）と成蹊学園（吉祥寺）が増えています。

(2) 騒音・振動対策の推進

道路交通騒音の測定及び対策の実施

指標 48：道路交通騒音



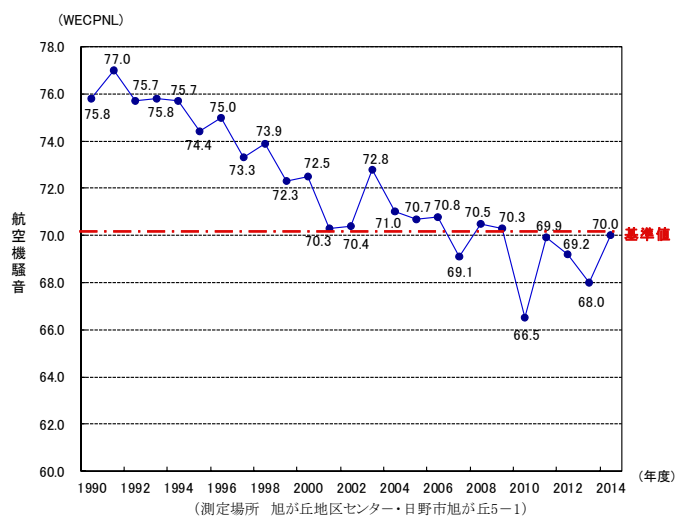
2014 年度の昼間及び夜間の数値は、前年度と同数値または上回る数値が観測され、一部で環境基準を上回る結果となりました。

3. 環境の状況と取組状況の評価

航空機騒音についての対策



指標 49：横田飛行場に係る航空機騒音



日野市では、横田基地に係る航空機騒音の測定を1977年から実施してきました。1988年まではリオン社製NA-30により夏期及び冬期にそれぞれ1ヶ月間測定してきましたが、1989年以降はリオン社製NA-33により常時測定を行っていました。

2013年度より環境基準がLdenに変更となりリオン社製NA-37で常時測定を行っています。2014年度は70.0(WECPNL)と前年度より2.0高い数値でしたが、新基準では56(Lden)となり、環境基準を満足しています。

※環境基準値はWECPNLでは70、Ldenでは57となります。

WECPNLとは

Weighted Equivalent Continuous Perceived Noise Level「加重等価平均間隔騒音レベル」のことで、航空機の一日の総騒音量を評価する国際単位。同じ音の大きさでも、昼、夕、夜で、人の感じる大きさは異なることから、それぞれの時間帯の音に対して、人の感じ方の度合いを考慮して算出した値です。

Ldenとは

「時間帯補正等価騒音レベル」のことで、各飛行機の騒音を、聞こえ始めから聞こえ終わりまでの人が受ける騒音エネルギーで測定した値です。

2. -3 放射線測定

市内空間放射線量測定

2011年3月11日に発生した東日本大震災に伴う福島第一原発事故により、放射性物質による環境汚染が生じました。市では、2011年7月11日から、市内の空間放射線量の測定を開始しました。国の基準※では、0.23マイクロシーベルト／毎時以上の地域が除染対象となります。2014年度の測定結果は、基準を超える地点はなく、健康に影響を与える数値ではありませんでした。また、局地的に高い測定値を示す場所(ホットスポット)は確認されませんでした。

※国の基準：『平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法』（2011年8月公布）

表-2011年7月11日以降の最小及び最大値

測定区分	場 所	実施日	結 果 (単位:マイクロシーベルト／毎時)
定 点	公園8地点	2011年7月11日～継続中 毎週1回	0.02～0.09

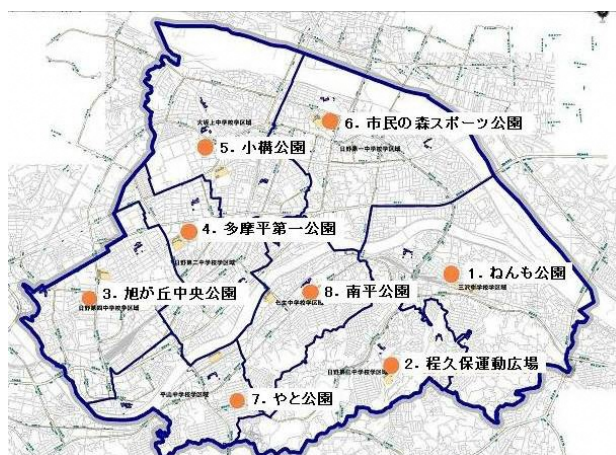
調査期間:週1回(2011年7月11日から)

調査地点:市内の中学校区を基準にして8分割し、各校区内の1カ所を測定場所とする。計8カ所。
(次頁図1～8参照)

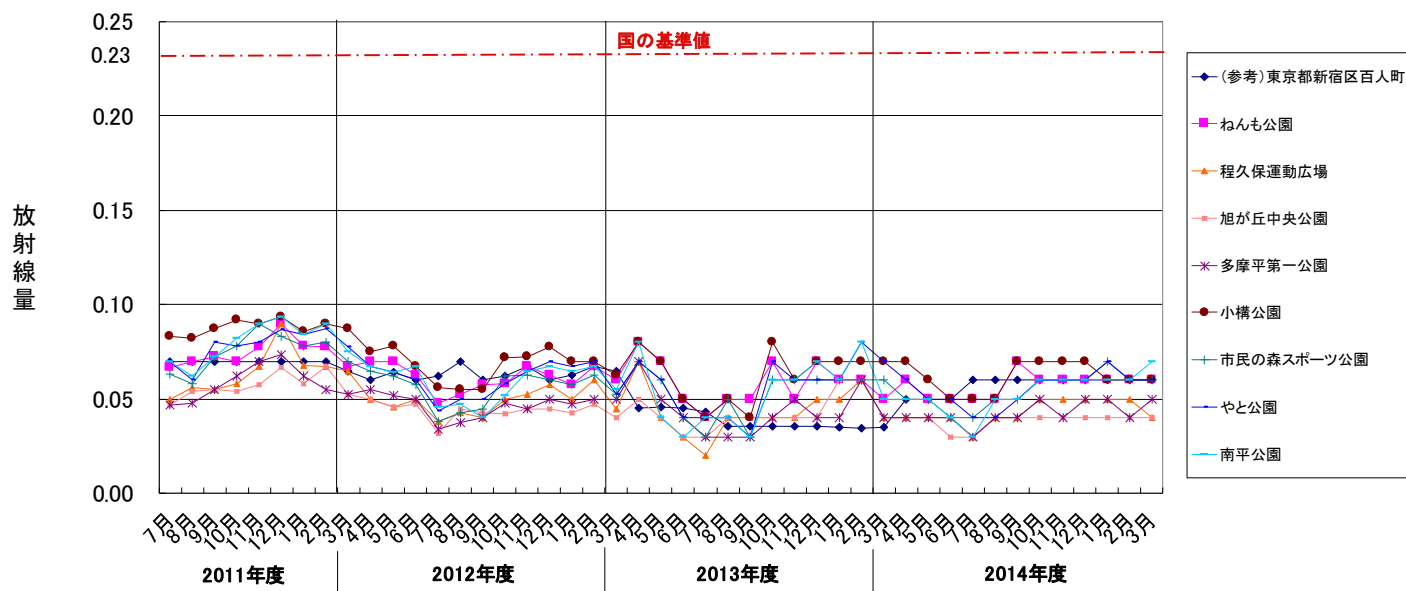
調査内容:高さ1メートル位置にて、5分間保持後、30秒ごとに5回測定した空間放射線量の平均値を測定結果とする。

測定機器:RAE Systems 社製「DoseRAE2 PRM-1200」

中学校区	測定場所
三沢中学校区	ねんも公園(高幡)
第三中学校区	程久保運動広場(程久保)
第四中学校区	旭が丘中央公園(旭が丘5丁目)
第二中学校区	多摩平第一公園(多摩平4丁目)
大坂上中学校区	小構公園(日野台1丁目)
第一中学校区	市民の森スポーツ公園(日野本町7丁目)
平山中学校区	やと公園(平山3丁目)
七生中学校区	南平公園(南平4丁目)



(平均マイクロシーベルト/時間)



災害廃棄物、焼却灰及び排ガスの放射線量の測定結果について

クリーンセンターでは平成24年から放射線量の測定を行い、その結果を日野市のホームページで公表しています。詳しくは「クリーンセンター焼却灰等の放射能測定結果について」をご覧ください。

4. 環境への取組状況

4. 環境への取組状況

本章では、日野市において、市民および市民・行政との協働、行政、学校等、大学、事業者による環境への取り組みを主体別に紹介します。

(1) 市民および市民・行政との協働による環境への取組状況

ここでは、日野市において種々の環境問題に対し、市民及び市民と行政との協働で継続的に実施している主な活動事項を紹介します(五十音順)。

① 浅川潤徳水辺の楽校推進協議会

○ 活動目的

川を昔のように、自然豊かな環境に少しでも近づけ、そこで子どもたちが思いっきり遊ぶことができる、自然体験の場を「水辺の楽校」といいます。水辺の楽校は、平成8年から国土交通省が推進している事業で、すでに全国300か所以上の地区において、この取り組みが始まっています。大人も子どももみんなで楽しく語り合い、浅川でのイベントを中心とした遊びの中から、自然の大切さを学んでもらうのが水辺の楽校です。

○ 対 象： 潤徳小の児童を中心に、浅川近隣の小学生が対象

○ 活動場所： おもに浅川高幡橋～新井橋区間と向島用水

○ 連 絡 先： 代表者 会長 小倉 紀雄

事務局 日野市緑と清流課・日野市環境情報センター

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
2014. 4. 20	多摩川・浅川クリーン作戦に参加	浅川ふれあい橋付近清掃	40
2014. 5. 16	種まき（学校内）	潤徳小5年生	156
2014. 5. 10	「浅川で遊ぼう 1」	竹馬、竹笛づくり、竹ぼっくり、天狗の下駄、石絵、豚汁、その他	115
2014. 6. 1	「浅川で遊ぼう 2」 身近な水環境の一斉調査	子ども中心に用水で 3 箇所ふれあい橋下 1 箇所	35
2014. 6. 17	田植え	潤徳小5年生	165
2014. 7. 17	田圃の草取り	潤徳小5年生	156
2014. 7. 26	「浅川で遊ぼう 3」 浅川の源流探検	川は流域で考えることから、浅川の清冽な源流域を体験する。	35
2014. 8. 2	「浅川で遊ぼう 4」	思いっきり、水遊び（水泳など）	105
2014. 9. 5	田圃の草取り	潤徳小5年生	85
2014. 9. 20	「浅川で遊ぼう 5」	バッタ取りと植物観察(杉浦氏)	42
2014. 10. 8	稲刈り	潤徳小5年生	170
2014. 11. 23	日野市地域清掃に参加	浅川ふれあい橋付近清掃	35
2014. 11. 28	脱穀	潤徳小5年生	156
2014. 12. 6	多摩川子どもシンポジウム	多摩川流域の水辺の楽校が集う発表会	30
2014. 12. 7	笹刈り	笹刈り	40
2015. 1. 17	どんど焼き準備	お団子づくり、やぐら作りなど	75
2015. 1. 18	「浅川で遊ぼう 6」	どんど焼き	650
2015. 2. 14	「浅川で遊ぼう 7」	野鳥観察	45
2015. 2. 24	水辺の楽校発表会	潤徳小体育館	806

② 浅川滝合水辺の楽校運営委員会

- 対 象：滝合小学校の生徒を中心に、同校保護者・卒業生および地域住民
- 活動場所：滝合小学校前の浅川、ビオトープ
- 事 務 局：浅川っ子の会（滝合小学校教員・保護者・地域住民で構成）、日野市緑と清流課
- 活動実績

実施日	内 容	参加者数
2014. 4. 20	浅川清掃	65
2014. 8. 24	川遊び	35
2014. 11. 30	浅川清掃	20
2015. 2. 22	バードウォッチング	42

③ 浅川流域市民フォーラム

○ 活動目的

浅川および大栗川、程久保川、谷地川流域の良好な水辺環境を守り、いい川づくりをしていくことについて、市民の意見交換や行政に対しての提案を行い、交流の機会や場を形成するとともに、流域の行政との良好なパートナーシップを形成していくことを目的として、次世代に身近な自然である河川環境を残していくことです。

○ 活動内容

当会では、毎年日野市・八王子市の市民の参加を得て、「身近な水環境の全国一斉調査」で水質調査を行っています。平成 26 年度における調査地点数は 174 地点、参加人数は 95 名でした。この調査結果をもとに、谷地川、程久保川、大栗川を含む浅川流域の水質マップを作っています。

また、流域の情報を写真によってわかりやすく、解説しています。26 年度では河川の流量について、問題点と対策、流域で行われている体験活動について紹介しました。「身近な水環境の全国一斉調査」は 2004 年から行われていて、11 回目になりました。調査開始から水質マップを作り、小学校の環境学習での資料として提供し、日野市の水辺の資料館や八王子市の環境フェスティバルでの展示・配布、日野市環境情報センターや八王子市エコひろば、市民活動支援センターでの常設展示などを行っています。

この 11 年の間、流域の水質が向上して来ている事、アユが遡上してきている事、モクズガニ、ホトケドジョウなどが捕獲された事、河川工事により貴重なワンドが消滅している事又、工事によってゾウの化石が発見された事、支流で水涸れが起きている事、流域のホタルの状況や湧水の状況、流域紹介などを記載して、身近な河川について関心を持ってもらえるような紙面づくりに努力しています。

○ 人 数：61 名 7 団体

- 活動場所：運営委員会 毎月 かわせみ館・浅川クリーンデー 湯殿川（北野駅から合流）
浅川（八王子卸売市場～長沼橋下流）4 月・身近な全国一斉調査
八王子市・日野市の河川 184 地点、参加 151 名、45 団体（2013 年実績）

○ 連 絡 先：事務局 諏訪 祥子 TEL：042-621-1779 e-mail：CBB00853@nifty.com

○ 情報提供方法：水質マップの展示・ニュースレターの配布

日野市水辺の資料館 日野市環境月間

かわせみ館 常時

八王子市環境フェスティバル 毎年 6 月第 1 土曜日

会員への配布

4. 環境への取組状況

④ 倉沢里山を愛する会

○ 活動目的 活動内容等

《活動目的と経緯》

日野市百草の倉沢地域で一帯の里山的な景観を永く残し、市民の手でエコ循環も実践しながら、緑地の維持・管理活動を通じて雑木林や農地の緑に親しみ、同時に会員並びに地域の市民相互のコミュニケーションを深めていくことを目的として、2000(H12)年から活動。

2004年、日野市と市有緑地の管理・運営に関するパートナーシップ協定を締結、2007、2008年には活動の成果として複数の地元農家の相続の際、寄付等による緑地保全が実現し、公有緑地が拡大され、本会の管理範囲も拡大した。

2009年度はエリア内で工場跡地(民有地)を本会が一括して借り受け、アリスの丘ファームⅡとして市民農園化、新しい形で緑地の復元を実現させ、2011年度からは近隣の遊休民有地数カ所を地主さんの理解を得て市民農園として管理している。

《主な活動内容》

- ・下草刈り、落ち葉掃き、樹木の手入れ等、雑木林を中心とする緑地の基本的・日常的な維持・管理作業。
- ・里山内の市民農園(アリスの丘ファームⅠ・Ⅱ・Ⅲ)の運営・管理及び雑木林の腐葉土をはじめ、おから、牛糞、剪定枝チップ等地域内でのエコ循環の実践。
- ・里山内の稀少動植物の保護育成・調査。
- ・会の活動の地域住民への広報、参加の呼びかけ。
- ・百草・倉沢地区の里山全体の保全のための市民や行政への働きかけ。
- ・他の市民団体との情報並びに意見交換及び協同活動等。
- ・外部の諸団体・学校等からの見学・体験参加等の受け入れ。
- ・上記活動を通じて、ボランティア参加市民の交流・交歓のためのイベントの実施、コミュニケーションの場の提供、高齢層の社会参加機会の提供。(定例の活動の後にはアウトドアでのランチを通じて交流を深めている。)

○ 会 員 数： 120 家族、登録人数 約 200 名

○ 活動場所： 日野市百草倉沢地区の公有緑地(数カ所)を拠点として活動。

○ 連絡先： 事務局(田村) Tel. (042) 592-5859 E-mail: info@alice-fm.info

○ 情報提供方法および2014年度の活動実績

《情報提供方法》

ニュースレター、ホームページ(<http://alice-fm.info>)、Eメール等

《活動実績》

雑木林を中心とする緑地の基本的・日常的な維持・管理の公式活動年間約20回のほか、フィールド内の果樹の手入れ・収穫、他の里山ボランティアの見学会、市民農園アリスの丘ファームの運営・管理等、随時必要に応じて活動し、年間参加者数は延約1000名。

⑤ 石坂ファームハウス(自然の恵みを楽しむ会)

○ 活動目的：都市農業の普及と理解・四季を通じての活動・食農教育

○ 人 数：登録会員 約 50 名

○ 活動場所：日野市百草 672-1 石坂ファームハウス

○ 連絡先：TEL 042-591-6477

(1)市民および市民・行政との協働による環境への取組状況

○ 情報提供方法：http://blog.goo.ne.jp/ishizakafarmhouse TEL 042-591-6477

○ 活動実績

実施日	活動内容	対象	参加者数
2014. 4	野菜の種まき体験と畑散策	自然の恵みを楽しむ会	約 20 名
	とうもろこし種まき	近隣幼稚園	約 20 名
2014. 5	里芋の植え付け	三中有成会	約 70 名
	多摩の里山の農家・体験・視察	帝京大学教育学部	約 10 名
	都市農家、体験・視察	日本農業経営大学校	12 名
2014. 6	田植え	お米づくり講座 第 1 回	約 100 名
	じゃがいも堀り	都内幼稚園	約 20 名
	じゃがいも堀りと試食会	自然の恵みを楽しむ会	13 名
2014. 8	農場視察	京都芸術学院	約 10 名
	かかし作り	お米づくり講座 補講	17 名
	夏休み子ども村	J A 東京南	約 30 名
	里芋の観察	三中有成会	70 名
2014. 10	稲刈り	お米づくり講座 第 2 回	約 160 名
	里芋収穫と調理体験	都内小学校	約 40 名
	里芋収穫	都内保育園	約 20 名
2014. 11	芋ほり	近隣保育園	約 10 名
	秋の収穫体験	自然の恵みを楽しむ会	約 20 名
	収穫体験と調理体験・竹はし作り	関東農政局・都内大学生	約 20 名
	職場体験	三中	6 名
	里芋収穫	近隣保育園	約 100 名
		三中有成会	約 10 名
	収穫体験と調理体験	都内専門学校	約 30 名
2014. 12	わらリース作り	お米づくり講座	約 100 名
	つるのリース作り	環境情報報センター	約 25 名
2015. 1	お餅つき	近隣幼稚園	約 100 名
		都内幼稚園	約 50 名
		お米づくり講座	約 120 名
2015. 2	昔の道具見学	近隣小学校	約 90 名
	かまどご飯、竹はし作り	市内児童館	約 45 名

⑥ 市民による都市農業研究会

○ 活動目的・活動内容

わたしたちは、日野にある農地を次世代へと残していくことを目的に、平成 21 年から活動しています。都市部の農地は生産の場という枠を超え、地域の防災や環境保全、福祉ともつながる貴重な空間といえます。年々激減していくこれらの農地を、どのようにして保全・継続していくかについてネットワークづくりをしながら考え、活動しています。

4. 環境への取組状況

平成 26 年度は、25 年度に引き続き主に農水省の「農」のある暮らしづくり交付金事業として「農」と「健康」をテーマにした冊子づくりや、日野産野菜を使った健康レシピ集を作成し、広く市民に PR 活動を行いました。また、さらに「農」を生かした新しいアイデアについて、日野市職員や日野市で就業する様々な人々との意見交換会を行い、新たな取り組みが生まれようとしています。

平成 26 年度の主な活動

- ・農林水産省「平成 25 年度『農』のある暮らしづくり交付金事業」
「都市農業が健康づくりに寄与するプロジェクト」実績報告会実施
6 月 15 日 14:00～16:30 生活保健センター
- ・則久郁代さん講演会「現代人はミネラル不足!?みんなの元気畑（お腹）を始めよう！」
2 月 1 日 13:30～16:00 七ツ塚ファーマーズセンター
- ・農でつながる活き活き会議 in 日野 第 1 回
2 月 23 日 16:30～19:00 実践女子大学日野キャンパス桜ホール

- 人 数：講演会や勉強会などの参加者で登録済みは約 180 名。
- 代 表 者・連 絡 先
代 表 者：佐藤美千代（TEL /080-8891-4930）
事 務 局：佐藤由美子（TEL /090-2641-1250） 黒澤由香（TEL/090-6142-0366）
- 活動場所：特定場所はなし。勉強会、講演会は市内公共施設を利用。
- 情報提供・参加募集方法：メール配信による。

⑦ 真堂が谷戸蛸の会

○ 活動目的・活動内容

真堂が谷戸は、日野市の東側百草地区の最東端にある小さな小さな里山です。ここは、雑木林からの湧水だけで、カワニナ、サワガニ、ホタルなどが細々と生息していることから当会では、ホタルだけではなく、生物多様性を考慮した里山の保全活動と位置づけています。

平成 22 年 4 月には 40 坪ほどの田圃を復元し、田植えから、稲刈りそして収穫祭（餅つき大会）まで会員一同、楽しく取り組んでいます。

活動内容は、雑木林の下草刈り、萌芽更新作業、流れの管理、畑や田の管理、ビオトープづくり、ホタルの調査などです。

定例活動は月 3 回とし、会員一同楽しい汗を流しています。

6 旬～7 月初旬までの 1 ヶ月間は、毎晩 3 人 1 組となり、ホタルの調査活動（個体数のカウント、気温、水温、湿度など）を実施しています。今後も、注意深く調査活動が続け見守っていかねければなりません。

また、市と協働で市民を対象に「ホタルの夕べ」を開催し、この貴重な環境を市民に知ってもらい、守ることに挑戦しています。

私たち「真堂が谷戸蛸の会」は、雑木林で、汗をかき、楽しい 1 日だった事に、喜びを感じるボランティア活動を目指しています。

- 会 員 数：26 名
- 活動場所：日野市百草「真堂が谷戸」、百草園前緑地
- 代 表 者：白石 研三
- 連 絡 先：日野市環境情報センター 笹木 電話 042-581-1164

(1)市民および市民・行政との協働による環境への取組状況

○ 活動実績：月 3 回（第 1 日曜日、第 3 木曜日、第 4 土曜日）

年	月	日	曜日	活動内容	場所	人数
26	4	6	日	苗圃からコナラの移植など	真堂が谷戸	10
		17	木	田圃の草取り	真堂が谷戸	6
		26	土	百草緑地梅の剪定	百草園前	8
	5	4	日	総会	真堂が谷戸	25
		15	木	下草刈り	真堂が谷戸	7
		31	土	近隣の応援ボランティア	近隣	5
	6	1	日	田起こし	真堂が谷戸	11
		15	日	田植え	真堂が谷戸	12
		26	木	ホタルの夕べ	真堂が谷戸	20
	7	6	日	雑木林の下草刈り	真堂が谷戸	8
		17	木	道路側の植栽剪定	真堂が谷戸	5
		27	日	下草刈り	百草園前	雨
	9	7	日	刈払機で下草刈り	真堂が谷戸	9
		18	木	下草刈り	真堂が谷戸	雨
		13	土	学習会「里山づくり」	日野市役所会議室	5
		27	土	葛取り	百草園前	7
	10	5	日	流れの草取りなど	真堂が谷戸	10
		16	木	稲刈り	真堂が谷戸	7
		25	土	梅の剪定	百草園前	7
	11	2	日	腐葉土を田んぼに運搬、草刈り	真堂が谷戸	12
		20	木	物置組み立て	真堂が谷戸	5
		29	土	梅の剪定、下草刈り	百草園前	6
	12	7	日	下草刈り	真堂が谷戸	12
		18	木	落ち葉集め、腐葉土づくり	真堂が谷戸	9
27	1	15	木	土留め柵工	真堂が谷戸	6
		24	土	梅の剪定、下草刈り	百草園前	8
	2	1	日	落ち葉かき	真堂が谷戸	13
		19	木	コナラの伐採	真堂が谷戸	6
	3	1	日	コナラの伐採	真堂が谷戸	11
		19	木	シイタケ駒うち	真堂が谷戸	7
		28	土	下草刈り	百草園前	8

⑧ 雑木林ボランティア講座

市民団体と行政の協働で開催している第10期雑木林ボランティア講座（2014年度）は10回開講しました。講座内容の詳細は、水と緑の日野・市民ネットワーク（73ページ）をご参照ください。

⑨ だいすきひの市民フェア

○ 活動目的

1989 年より年に 1 回、日野市消費生活展として市内の消費者団体が自主的に行う消費活動の日頃の発表の場として開催してきましたが、今年は消費者市民社会構築の視点を入れつつ、

4. 環境への取組状況

「くらしのフェスタ」と「市民活動フェア」の二つの実行委員会を統一して「このまちが好きだから」をコンセプトに、市民活動による区分けをせず、より良い日野市を目指した市民主体のイベントとして開催しました。

- 人 数：72団体
- 活動場所：日野市市民の森ふれあいホール
- 連 絡 先：TEL 042-581-6144
- 情報提供方法：展示
- 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
2014. 10. 19	「くらしを見直そう ～CO ₂ 削減～」	近年の異常気象を鑑み、二酸化炭素による温暖化が地球に大きな影響を与えており、今こそ「くらしの見直し」を実践していく必要があります。その観点から、CO ₂ 削減の市民の取り組みを教えていただくブースのほか、リユース食器の利用、地産地消に配慮した模擬店の出店や環境を意識した物品の販売をしました。 各ブースを回る方には、スタンプラリーの際、簡単なクイズに答えていただくことで啓発を実施しました。	1,800 人

⑩ NPO法人太陽光発電所ネットワーク（略称 PV-Net）

○ 活動目的

PV-Net は、約 2700 名の会員からなる個人太陽光発電所長の全国的な組織で、その目的は、「交流と学びの場の実践による情報共有化、相談室の開設、PV 健康診断の実施、社会への発信、太陽光発電のグリーン電力証書化」などを通して、太陽光発電システムの普及・拡大を図り、環境やエネルギーにまつわる課題や問題を市民の立場で対処し、社会に貢献することです。

○ 活動内容

年に数回会合を開催し、それぞれの発電状況や研究成果の発表など情報共有を積極的に図っています。会合には日野市内の会員だけではなく、八王子市、町田市、稲城市といった近隣市の会員や日野市内の会員以外の方も参加し、活発に情報交換を行っています。

「日野市民フェア」へ参加し、太陽光発電に関するパネル展示や学習会などの活動を行い、日野市内の環境団体と交流しています。

2014 年度は、9 月にベランダ発電セミナーを開催し、2 名の方が実際に 50W の発電キットの組み立てを行いました。

会合やイベントの開催はメールによる連絡のほか、市の広報への掲載やはがきによる案内もしております。会合には PV-Net の会員だけではなく太陽光発電に興味や関心をお持ちの方でしたらどなたでも参加できます。

- 会 員 数：東京都には約 300 名の会員がおり、そのうち日野市内の 15 名の会員が＜日野近隣グループ（PV-Net 日野）＞として活動しています。
- 活動場所：平山季重ふれあい館など市内の集会施設。
- 連 絡 先：本多 一民（Tel：042-583-2983）

⑪ ツバメのくるまち事業

○ 活動内容

日野の自然を守る会と協働で、市民から「ツバメの巣情報」の収集を行いました。児童館や図書館に情報回収 BOX をおき、27名の方から延べ105件の報告があり、95個の巣について、「ヒナが何羽生まれた」や「この巣は使われていない」などの情報が寄せられました。これらの情報を整理してツバメマップを制作します。

市内小学校の協力をいただき、「ツバメのくるまち絵はがき」の原画募集を行い、55件の応募がありました。その中から優秀賞3点が選ばれ、絵はがきになり、イベント会場などで無料配布しています。



⑫ 農の学校

○ 活動目的

農業者の高齢化など担い手不足を補うため、「農の学校」を開設し、農業知識と技術を習得してもらい、援農ができるよう援農ボランティアを育成し農業者を支援していく。

○ 人 数: 16名 ※平成27年1月より「農の学校」11期生開校

○ 代 表 者: 農の学校 校長 日野市長

○ 活動場所: 日野市立七ツ塚ファーマーズセンター（日野市新町5-20-1）

○ 連 絡 先: 日野市役所 産業振興課 農産係 電話 042-585-1111 内線(3411)

○ 情報提供方法

・平成16年度開校（平成17年1月より）

※第3次日野市農業振興計画・アクションプラン、第2次日野市農業振興計画・アクションプラン、第2次日野市農業振興計画・後期アクションプラン、第5次日野市基本構想・基本計画に基づく。

○ 活動実績

<内容>

・講座による知識の習得 (月1回)

農業基礎講座テキスト（野菜の栽培）、農薬の使い方

・圃場（畑）での実習により技術の習得 (月2回～4回)

土づくり、鍬・草かき等の道具の使い方、種まき、除草、間引き、収穫など

※作物（ジャガイモ、トウモロコシ、サツマイモ、スイカ、カボチャ、サトイモ、ヤツガシラ、大豆、ダイコン、カブ、ニンジン、ハクサイ、ハウレンソウ、コマツナ、長ネギ）

○ 参加者募集方法

・12月1日の広報及びホームページ等で募集予定

※ひのよさこい祭り、産業まつり農業展でPR活動

4. 環境への取組状況

⑬ 八王子・日野カワセミ会

○ 活動の目的

日野市内および八王子市内で野鳥を観察する市民団体です。浅川や多摩川で野鳥の観察を通じて自然に接し楽しむこと、およびそのために野鳥が安心して棲める環境を作ることに関与することを目的としています。

○ 活動の内容と取り組み状況

- ・月1回会員及び一般市民を対象に浅川や多摩川で探鳥会を実施
- ・20ヶ所の地域で毎月1回、野鳥の生息数をカウント調査
20ヶ所のうち、日野市内では以下の4ヶ所を実施
浅川（長沼橋～一番橋）、浅川（一番橋～多摩川合流付近）
多摩川（谷地川合流付近）、多摩川（浅川合流付近）
- ・8ヶ所の東京都指定保全緑地地域での野鳥の生息数をカウント調査
8ヶ所のうち、日野市内では、東豊田地区で実施
- ・その他、冬鳥・夏鳥の一斉調査、カルガモ・ツバメ・イワツバメ営巣調査、サシバの渡りなどの調査
- ・小中学生に対する野鳥観察支援、他団体からの野鳥観察依頼に対し野鳥観察の支援
- ・日本各地の野鳥観察地に出向き、地元の関係者との交流を通じた野鳥観察

○ 設立年：1985年設立

○ 会員数：233名、会員は随時募集（年会費1000円）

○ 連絡先：粕谷 和夫（八王子・日野カワセミ会会長）電話：090-6125-5769

Eメール：kasuya.kazuo688@gmail.com

○ 情報提供方法：活動の結果の公表

年2回（3月と9月）会報「かわせみ」を発行、日野市内の図書館に寄贈

ホームページで広報 <http://kawasemi.fan-site.net/>

⑭ 東豊田緑湧会

○ 活動目的・活動内容等

東豊田緑地保全地域の自然環境を荒廃させないため、定期的に手入れを行い、身近な自然を永く保存し、明るい雑木林として維持するために緑地保全等を継続して18年目になる。2005年度の「水と緑の日野・市民ネットワーク」の設立にも関わり、市の緑環境行政にも協力している。

主な活動項目

- ・下草刈り、間伐、除伐、古損木処理、剪定、枝打、萌芽更新地管理、実生の移植
- ・特殊植物保護、清掃活動
- ・湧水群・流水路の保全・保護
- ・企業や学校との社会貢献活動の協働
- ・東京都及び日野市との保全計画の協働策定

○ 人数：25名

○ 活動場所：東豊田緑地保全地域全域

○ 連絡先：小太刀 智明（TEL042-583-4308）

○ 情報提供の方法：東京都ウェブサイト「里山へGO!」・清流ニュース・広報・チラシなど

(1)市民および市民・行政との協働による環境への取組状況

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数 (延人数)
毎月第1第3土曜	下草刈り・笹刈り	萌芽更新地の下草や笹を刈り、雑木の再生を助長し健康な樹木を育てる	172
2月・3月	倒木処理・剪定	台風や強低気圧で風倒した木の処理と既存樹木の剪定。樹形整備の目的。	23
1月・2月	除伐	常緑照葉樹類の除去・園芸種類の除去 不法に植栽された植物の除去	27
6月・9月	外来種除去活動	オオブタクサやアレチウリなどの外来種を除去する作業。	30
4月・5月	特殊植物保護活動	希少植物の株数調査、生育補助の為に除草 盗掘防止のための花摘み	36
7月・8月	湧水の保全・保護	流水路の除草と落葉採り セキショウ等の繁茂調整	22
5月・10月	草地管理	草地の環境を維持する為の選択除草 外来種・先駆的植物の調整及び除去	52
4月・12月	大規模清掃活動	保全地域全域の不法投棄物回収と巡視 小規模な清掃活動は随時実施	18
7月・11月	グリーンシップ アクション	企業の社会貢献活動に対応し、保全活動の 体験作業を開催。 3社2日間	78

⑮ 日野産大豆プロジェクト

○ 活動目的

「地元で採れた大豆を学校給食で子どもたちに食べてほしい」と日野市内の小・中学校の栄養士、調理員、農業者、大学生、市民ボランティアなどが協力して立ち上げたプロジェクトで、2014年度で11年目となりました。収穫された大豆は、市内の全小中学校の学校給食で活用されます。また、大豆の種は小学校の学童農園用の種にも提供され、収穫した大豆は豆腐づくりや味噌づくり等の食農教育に活かされます。なお、11月の日野市産業まつり等で、日野産大豆プロジェクト活動を市民に広くPRしています。

○ 人数：70名

○ 活動場所：東光寺地区

○ 連絡先：事務局：日野市役所 産業振興課 農産係
電話 042-585-1111 内線 (3412)

○ 代表者：小林 和男

○ 活動実績：種まき、除草作業5回、収穫、脱穀3回、選別、遺伝子組み換え大豆講演会、枝豆食べ比べ体験、豆腐作り体験

○ 参加募集方法等：市HP、チラシ等

4. 環境への取組状況

⑩ 日野塾

○ 活動目的

川、用水、湧水と豊かで多様な水辺や風景、そして水辺のあるまちや暮らしを多くの人に知ってほしい、歩いてほしいと 2012 年に豊田用水エリア、南平・平山用水エリア、向島用水エリアの水の郷エコミュージアムマップを作成し、2014 年度は日野用水エリアその 1. その 2 を作成しました。

マップは日野宿交流館、七つ塚ファーマーズセンターでお求めになれます。ぜひ、マップを手に用水沿いを歩いてみてください。

○ 人 数：12 人

○ 活動場所：日野市全域・日野市環境情報センター

○ 連絡先：三村 聡 (090-3480-9981)

○ 活動実績：毎月第 3 土曜日

＊なお、日野塾は 2015 年度から「みずとくらす・ひの」（2015 年度発足・元水辺 50 選WG）に合流いたします。

⑪ ひの市民リサイクルショップ回転市場

○ 活動目的・活動内容

日野市の支援のもと 1992 年創立。市民から提供された中古衣類・雑貨品等の販売を通して、「使い捨てのくらしを見直し、①物を大切にすくらし②ごみになる物を買わないくらし③ごみを出さないくらし」に変えていく呼び掛けをし、それに役立つ情報の発信と実践活動をする。安全で環境に負荷の少ない石けん製品の販売。売上金は、環境読本「21 世紀の地球」製作や市民還元イベント等に活用。開店当初から買物袋持参を呼び掛けている。

○ 人 数：19 名

○ 活動場所：万願寺店 多摩平店 日野市生活・保健センター

○ 連絡先：万願寺店 (042-587-1787)・地域協働課 (042-581-4112)

○ 代表者：加納 衣子

○ 情報提供・会員募集・イベント参加募集：店頭・広報ひの・ポスター・チラシ

○ 活動実績

実施日	内 容	参加者
2014. 9. 28	市民還元イベント お話と映画会 日野市のごみの現状&映画 「TRASHEDーゴミ地球の代償」	78 名

他に「会員学習会」「着物特別販売」を開催。「産業まつり」「くらしのフェスタ」「日野市レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」「くらしの輪連絡会」に参加。

⑫ 日野団塊世代広場

○ 活動目的・活動内容

「日野団塊世代広場」は、『生きがい、働きがい、地域がい』を持って、健康で生活を楽しみながら地域づくりに貢献することを目的として活動しています。新選組まつり等のイベントのお手伝いやパソコン、太極拳などの教室も開催しています。

活動の一環として 2009 年から百草山での「明るい雑木林」作りに取り組んでいます。11 人で雑木林チームを編成しており、8 名は「雑木林ボランティア講座」の修了生です。活動としては、林の手入れ作業を行いながら次のような取り組みを行っています。

(1)市民および市民・行政との協働による環境への取組状況

- ・植物の貴重種の確認など現況の調査および観察会の実施
- ・竹ぼっくりの製作、イベントにて子供たちに配布を行い子供の運動能力向上に資する
- ・作業後放置していた竹・笹に生ごみ発酵促進剤を使って早期腐葉土化の試み、市民無償配布時に『生ごみを燃えるごみとして出さない』よう呼びかけ
- ・どんぐりクラフトづくりをイベントにて子供たちに実施、工作の楽しさを教える
- ・産業まつりや市民活動フェアに出展し日野団塊世代広場の活動のPRや手作り品等の販売

- 人 数：20人 百草山活動者 延べ115名／平成26年度
- 活動場所：京王百草園駅から徒歩5分、百草園の北側に隣接した雑木林主体の緑地
- 活 動 日：第2日曜日、第4土曜日9時～15時
- 連 絡 先：日野団塊世代広場事務所（日野市平山台健康・市民支援センター内）
TEL 042-843-8723 E-mail:info@dsedai.com
- 情報提供・参加募集方法等：ホームページ <http://www.dsedai.com/>
“日野団塊世代広場”で検索

⑨ ひの緑のトラスト

○ 活動目的・活動内容

日野市の百草地区には、地元の方々の努力などで、市内で唯一、貴重な里山の景観が残されています。日野市ではこの地区に相続があった場合、雑木林相続面積の1/2 を寄付、残りの1/2 は国に物納し、何年か後に市が買収するという方法を相続人のご好意で実施し、多くの雑木林を保存してきました。

しかしながら、現在市は稀にみる財政危機に直面し、何年か前に物納された百草の真堂が谷戸の雑木林（3,509㎡）を国から買い取ることが難しい状況になっています。

この土地は、クヌギ、コナラなどの雑木林で、湧水が流れ、日野市では珍しくなったホタルが生息しており、エビネなどの貴重植物も自生しています。また、歴史的遺物も多く出土している貴重な場所です。

この貴重な雑木林を公有化して保全を進めることを強く願う緑関連の市民団体が協議し、2009年12月に「ひの緑のトラスト」を設立しました。取得資金の一助となるよう「募金」へのご協力を市民の皆さまに呼びかけています。

○ 構成団体

倉沢里山を愛する会、真堂が谷戸蛸の会、南丘雑木林を愛する会、東豊田緑湧会、日野市環境基本計画推進会議 緑グループ、日野市消費者運動連絡会、日野の自然を守る会、まちづくりフォーラム・ひの、百草山の自然と文化財を愛する会、緑地管理ボランティアの会

○ 代 表 者：白石 研三

連 絡 先：ひの緑のトラスト事務局 日野市環境情報センター TEL 042-581-1164

○ 情報提供・参加募集方法：広報ひの、緑のトラストパンフレット

環境情報センターホームページ：<http://www1.hinocatv.ne.jp/kankyo/>

○ 活動実績

実施日	取組紹介や募金活動を行ったイベント
2014. 6. 26	ホタルの夕べ
2014. 10. 25	日野市環境フェア
2014. 11. 8～9	日野市産業まつり

4. 環境への取組状況

㊼ ひのどんぐりクラブ（日野市環境学習サポートクラブ）

○ 活動目的・活動内容

ひのどんぐりクラブの主な活動は、子ども達の野外での体験学習の付き添いや指導、自然物を使った工作などの支援などです。2014年度の学校などへの支援数は85回、児童等の参加延べ人数約7,500名でした。

○ 人 数：15名

○ 代 表 者：有馬 佳代子

○ 活動場所：日野市内小・中学校等 かわせみ館

○ 連 絡 先：日野市環境情報センター内 杉浦 TEL 042 - 581-1164

○ 活動実績

月	回数	学校名・団体名	人数
5月	8	潤徳小4年、南平小1年、南平小2年、南平小3年（2回）、七小3年、南平児童館、浅川潤徳水辺の楽校	1,070
6月	11	一小2年、一小4年、五小2年、五小1・2年（合同）、七小3年、七小2年・第三幼稚園（合同）、八小野外クラブ、南平小1年、南平小3年、教員対象水生生物学習会、多摩平児童館	873
7月	6	潤徳小2年、南平小1年、南平小2年（2回）、教員対象昆虫採集・生態学習会、日野高校地学部と共催で「市民向け天体観望会」開催	650
8月		なし	0
9月	7	七小2年、七生緑小1年、南平小1・3年（合同）、南平小2年、平山小3年・若草（2回）	641
10月	16	一小1年、一小2年、三小1・2年（合同）、四小1年、六小1年（2回）、八小1年（2回）、潤徳小1年（2回）、東光寺小1年、南平小1年、南平小5-6年グループ研究（2回）、多摩平・旭ヶ丘児童館、NPO水と緑の環境ネットワーク	1,192
11月	9	六小2年、旭ヶ丘小4・5・6年自然クラブ、潤徳小1年、潤徳小2年、南平小1年、南平小2年、南平小5-6年グループ研究、平山小1年、平山小3-6年科学クラブ	742
12月	8	一小1年、二小1年、四小1年、八小1年、八小4-6年自然クラブ、平山小2年、平山小1年+幼稚園（合同）、夢が丘小1年	721
1月	10	二小1年（3回）、四小2年、七小2年（2回）、七小3年（2回）、七小4年、潤徳小2年	935
2月	8	七小3年（2回）、八小1年、八小4-6年野外クラブ、潤徳小1年、夢が丘小6年（2回）、南平児童館	614
3月	2	四小校友会、七小3年	109
計	85	延べ人数	7,547

㉑ 日野の自然を守る会

○ 活動目的・活動内容

本会は、日野の自然を守り、市民の間に自然尊重の心を養い、その保全と復元に努力し、人間性豊かな社会の発展に寄与することを目的とする。(会則第三条 目的)

活動内容としては、本会の目的を達成するため、日野の自然を守る市民運動、調査・研究、自然保護に関する啓蒙普及、自然観察会・研究会等の実施、会誌その他出版物の発行その他本会の目的に達成に必要な事業を行う。(会則第四条 事業)

○ 会 員 数：(年度末201名) 会員数201名

○ 代 表 者： 内川 武

○ 活動場所： 日野市を中心として首都圏・関東一円

○ 連 絡 先： 事務局 〒191-0052 日野市東豊田3-15-12(片岡方) TEL042-582-0696/fax042-582-0698

○ 情報提供： 会誌 日野の自然 (月刊)、会ホームページ <http://hinonosizen.sakura.ne.jp>

㉒ 日野の水車活用プロジェクト

○ 活動の目的・活動内容

日野市内の用水は総延長116kmにも及び「水と緑のまち」日野の財産である。水車は落差の大きい山間や水量が多く水流の早い場所に有効であると言われているが、より効率の良い構造のものも開発され、日進月歩の電子技術は発電効率もカバーされつつある。小水力発電(遠方から大電力を送電するコストを考えると電気も地産地消、限られた場所や地域を賄える)は、これからの再生可能エネルギーとして益々その存在価値を発揮すること請け合いである。単なる飾り物だけでなく実用性のある水車が日野市内に廻る日を期待している。ちなみに現在日野市内に回っている水車は栄町水車堀公園の直径3mの水車、向島親水路には3.5m、ほかに子どもたちの環境学習にと第一学校に1.2mの水車、同じく南平小学校のビオトープには直径1mの水車の4台である。

プロジェクトの活動目的は水車が廻る環境を活用して市民が共通の話題で集うコミュニティの場として、また水車による精米と用水の関係を研究、子どもたちの環境学習に日野の歴史と用水の大切さを学ぶ場としての出前授業等、そして近き将来は再生可能エネルギーの一つである小水力発電(マイクロ発電)の可能性を追求する事。

○ 人 数：40名

○ 活動場所：水車小屋、市内会議室、市外

○ 情報提供：会報、Eメール：michiyo@mail.hinocatv.ne.jp、リーフレット等

代 表 者：多田啓介 042-594-3739

事 務 局：佐藤美千代 042-594-0745

○ 活動実績

日野の水車活用プロジェクト活動記録 平成26年度(2014年度)

	実施日	テーマ	内 容	参加者
1	14. 03. 16(日)	太陽光発電の学習会	太陽光発電についてPV-Netの田中 稔氏を招いて入門から導入までの説明と質疑応答。	17
2	14. 03. 22(土)	かわせみ館フェアに参加	フェアに水車の模型の展示や活動状況の資料の掲示、パンフレットの配布。	4

4. 環境への取組状況

4	14. 05. 24(土)	高野氏のエネルギーハウス見学	洗濯機が使用できる・お湯が沸かせるソーラーシステム、太陽熱調理器、風力発電などを見学。	3
5	14. 05. 24(土)	環境市民大学OB会主催 浅川再生センター見学	日野市と八王子市の約26万人分の下水が集まりその処理能力は12万2200m ³ /日、2000kWの自家発電機など。	4
6	14. 05. 31(土)	小水力発電交流会 三多摩から見学	向島親水路・水車、水車堀公園水車の案内と資料の配布。	11
7	14. 06. 22(日)	三鷹の水車を見学 (2回目)	宮川齋氏の説明で元所有者峰岸清氏の話、民営の所有物(建家・水車など)の市への移管に関わる苦労話など有益な話を聞き後に水車装置の詳細について説明を受ける。	13
8	14. 06. 29(日)	根川発電プロジェクト 交流会	根川発電構想について「清流のまち日野に小水力発電所をつくろう」を合い言葉に飲食をしながらの夢を語り合う。於いて落川四間堂	15
9	14. 08. 02(土)	環境情報センターと合同イベント	「水車っておもしろい」をキャッチフレーズに親子、一般を対象とした精米・工作・スケッチ・太陽熱クッキングの体験。	17+50
10	14. 11. 09(日)	秋の水車イベント	子どもたちも一緒に精米の体験、お絵かき、紙コップ利用の水車、牛乳パック利用の水車の製作。	52
11	15. 01. 17(土)	地域で考える 自然エネルギー	①ノンフィクションライター高橋真樹氏による「全国に広がる当地電力の現在」の講義、②明星大学理工学部准教授藤村和正氏による「根川の流量観測から見えてきたもの」の講義と質疑応答など。	35
12	15. 03. 23～24	向島水車の修理に立ち 会う	府中の八大建設による主に水輪の修理。環境共生部中島部長初め清流課の職員も立ち会う。	20
13	14. 06～15. 05	毎月1～2回の水量測定 (1年間)	今後の小水力発電の基本資料のために根川で水量の測定を実施している。	
	14. 04. 01(火)	日野の水車活用プロジェクトを正式な会として発足	規約を作り趣旨に同意する人を正会員とし会費を徴収する。定例会を第2土曜日13:30～16:00に行う。 場所：環境情報センター(かわせみ館)	—
		毎月第二土曜日 定例会	前月の活動報告、今後の活動予定、勉強会などを行う。	10～

㊸ 日野みどりの推進委員会

○ 活動目的・活動内容

東京都が緑地保全活動の目的で1974年に「緑の監視員」制度を設立し、後に「みどりの推進委員」に名称変更して2003年度まで存続したが、都の組織改革に伴い廃止になった。日野地区会はボランティア団体として名称を「日野みどりの推進委員会」に変更して活動を続けてきた。南平丘陵公園を中心とした自然観察会を毎月実施し、観察会を通して「緑地の保護・保全の必要性」を参加者にアピールし、「保全作業へのボランティア参加・協力」を呼びかけている。

(1)市民および市民・行政との協働による環境への取組状況

- ・自然観察会：毎月(原則第4土曜(8月を除く))市と共催して実施。観察会を通して緑地保全がいかに大切かを市民に紹介している。
- ・その他：市の行事等への協力

○ 人 数：15 名

○ 活動場所：南平丘陵公園ほか市内及び近隣市外緑地

代 表 者：会 長 杉浦 忠機

連 絡 先：事務局 緑と清流課 TEL 042-585-1111

○ 参加応募方法及び活動実績

毎月の自然観察会への参加応募は市の広報紙「広報ひの」で毎月案内します。マスコミにも連絡して広く案内されるよう努力しています。

○ 活動実績

定例観察会

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者人数
2014. 4. 26	新緑の多摩丘陵の散策	多摩動物園付近から程久保緑地や都立七生公園を散策し、出発地へ戻る	66
2014. 5. 31	倉沢緑地や真堂が谷戸を散策して日野の緑を感じる	百草園駅から大宮神社・百草園を通して倉沢や真堂が谷戸へ出て一の宮付近で解散	48
2014. 6. 28	河原の草花の観察（雨天の中実施）	河原の草花が満開な時期に万願寺駅から多摩川沿いに市内下流まで観察して出発地に戻る	5
2014. 7. 18	夜の雑木林の昆虫観察	南丘陵公園で、子ども対象の観察会（学校終業日に開催）	52
2014. 9. 27	キノコの観察	南平丘陵公園	52
2014. 10. 25	秋の雑木林の観察	八王子市立片倉城跡公園	29
2014. 11. 29	紅葉と木の実	南平からかたらいの路を散策しながら高幡不動尊の山を巡る	21
2014. 12. 13	しめ縄作り	倉沢の研修所にて、しめ縄作りとクリスマスリース作りを実施	17
2015. 1. 24	冬の雑木林の観察	都立長沼公園	30
2015. 2. 28	雑木林の木の芽の観察	都立七生公園	31
2015. 3. 28	スマレを観察しよう	日野駅から豊田駅までの緑地めぐり	45
		参加者数合計	396

② ひの・まちの生ごみを考える会

○ 活動目的・活動内容等

当会は、一般家庭の生ごみを可燃として出さずに循環させるしくみを作りたいとの思いから、2002 年に発足しました。発足以来、ごみゼロプランに基づき、ごみゼロ推進課と協働で生ごみリサイクルの拡大に取り組んでいます。その中で、下記の「まちの生ごみ活かし隊」「生ごみリサイクルサポーター連絡会」などを立ち上げてきました。

当会は、毎月 1 回定例会を開き、毎回ごみゼロ推進課の職員も出席して、各団体の活動について情報交換や協議を行っており、協議体の役割を果たしています。独自の活動としては、

4. 環境への取組状況

「日野市民フェア」「かわせみ館フェア」等のイベントへの参加、講演会開催、日野市のごみ情報誌『エコー』、玄関ドアなどに掲示してもらう「生ごみリサイクルステッカー」の配布などを通じて、市民全体を対象とした啓発を行っています。

＜まちの生ごみ活かし隊＞（詳細は次項参照）

2006年に発足。2008年10月に新井にコミュニティガーデンとして「せせらぎ農園」を開設し、約200世帯から回収した生ごみを畑に直接すき込み、土ごと発酵させて、野菜や草花を栽培しています。

＜生ごみリサイクルサポーター連絡会＞

2009年3月に発足。2011年9月から手軽に生ごみで堆肥が作れる「ダンボールコンポスト」（基材は竹と剪定枝のパウダー）の販売を開始しました。普及のために、自治会と連携しての講習会に力を入れており、2014年度末までに29ヵ所で講習会を開催し、808個を販売しました。また、購入者に対するアフターフォローとして、「交流サロン」（偶数月の第4金曜日13:30～15:00、ひの市民活動支援センターにて）を開催し、『生ごみ菌ちゃん通信』（隔月）を発行しています。さらに、イベントなどで展示・実演を行っています。

○ 人 数：12名＋日野市ごみゼロ推進課職員

○ 活動場所

ひの市民活動支援センター（多摩モノレール甲州街道駅より徒歩3分）

○ 連絡先・代表者：佐藤 美千代 電話042-594-0745

ごみゼロ推進課（電話042-581-0444）も可

参加募集：常時募集。問い合わせは、ごみゼロ推進課（電話042-581-0444）も可。

○ 情報提供方法

ごみ情報誌『エコー』と『ごみ・資源分別カレンダー』の「市民のページ」、『生ごみ菌ちゃん通信』、イベントでの展示・説明、市のホームページ。

○ 活動実績

「まちの生ごみ活かし隊」と「生ごみリサイクルサポーター連絡会」の活動を除いた、独自活動のみ掲載。

実施日	テ ー マ	目的・対象・内容	参加者数
毎月第4金曜日	生ごみリサイクル普及活動	10:00～12:00 に定例会議 活動報告と活動計画の検討	毎回 10 名前後
2014. 7. 25	ダンボールコンポスト 勉強会開催	講師：川崎市・環境を考え行動する会	15 名
2014. 10. 19	日野市民フェア参加	ダンボールコンポストの展示・実演	12 名
2014. 10. 22	戸田市フラワーセンター バス見学	生ごみと花苗の交換事業の説明を受け、施設を見学。	16 名
2014. 10. 29	七生福祉園見学	生ごみ堆肥化とその活用での連携可能性を探る。	10 名
2015. 2. 18	東京電力ハミングワーク 見学	同上	11 名
2015. 2. 21	講演会開催	講師：東洋大学教授山谷修作氏、 元クリーンセンター長小林寿美子氏	35 名
2015. 3. 29	スプリングフェスタ参加	ダンボールコンポストの展示・実演	5 名

㊼ まちの生ごみ活かし隊

○ 活動目的・活動内容

第八小学校区約200世帯の生ごみを回収してコミュニティガーデン「せせらぎ農園」で堆肥化し、野菜や花を育てることで年間約30トン以上の生ごみを減量しています。農体験を通した食育や環境教育も行っており、年間延べ5000人が訪れる生ごみリサイクル情報発信の場となっています。

○ 人 数：農園登録メンバー：137名・生ごみ参加者会員：174世帯

○ 活動場所：「せせらぎ農園」

○ 連絡先：佐藤 美千代(電話042-594-0745)

○ 情報提供方法：ホームページ：<http://ikasitai/info>

ブログ：<http://ikasitai.at.webry.info/>

○ 活動実績

26年度	農作業		来訪者	生ごみ回収・投入作業以外の主な活動 (食育・環境教育・生ごみリサイクル授業など)
	活動日	参加者		
4月	15	193	126	天ぷらパーティ・みさわ保育園・児童館
5月	20	257	393	みさわ児童館、みさわ保育園・児童館・第八小学校にて土づくりサポート・燻製づくり
6月	20	219	213	みさわ保育園・児童館とじゃがいも収穫祭・燻製づくり
7月	24	273	179	みさわ保育園・児童館とサツマイモ草取り・万願寺交流センター子ども祭り参加・落川交流センター防災炊きだし
8月	28	207	23	クリーンセンターごみ探検隊・食育勉強会
9月	25	238	172	みさわ児童館と草取り・みさわ保育園と草取り他
10月	22	259	483	シソの実漬け作り・だいすき日野市民フェア参加 みさわ児童館、みさわ保育園と共催でサツマイモ収穫祭
11月	21	227	165	南新井自治会と里いも収穫祭・ごみゼロ収穫祭・第八小学校まち探検
12月	13	237	133	みさわ保育園と里芋、ヤーコン収穫・しめ縄作り、望年会
1月	12	193	80	七草がゆづくり・燻製づくり・みさわ保育園児と麦踏み
2月	11	14	65	たこ焼きパーティー・第七幼稚園サポート
3月	14	231	131	第五幼稚園・みさわ保育園とじゃがいも植え付け 第七幼稚園土づくり
合計	225日	2,548人	2,163人	
総計		4,711人		

4. 環境への取組状況

㊸ 比留間塾環境プロジェクトクラブ

I 団体の活動目的	小学生及び中学生に環境教育・環境活動の支援を行うとともに、高校生、専門学生、大学生、さらには広く社会人に対して、環境学習の機会を提供します。
II 人数	確定した人数はいません。
III 活動場所 連絡先	比留間塾（塾長：比留間文彦） TEL 042-584-0900 FAX 042-581-9909
IV 情報提供方法 活動実績	環境学習、セミナーなど

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
14/4/1～ 2014/7/29	公害論Ⅰについて	公害論についての講義を行った。 大学生を対象	100
2014/8/10	自由研究について	多摩川で水質検査を行った。 小・中学生、高校生を対象	10
2014/9/2～ 2015/1/27	公害論Ⅱについて	公害論についての講義を行った。 大学生を対象	100

㊹ 程久保川を考える会

○ 活動目的・活動内容

水源から合流まで日野市内で終結する程久保川を身近な川として親しんで欲しく、まず汚れていた川を何とかということから始めました。どれだけ汚れているかを知る為の水質検査、そしてごみ拾いを行っています。

○ 人数：8人

○ 活動場所：程久保川

○ 連絡先：日野市三沢 850-4-201「程久保川を考える会」藤村

○ 情報提供方法：クリーンデーは日野市の公報に出しています

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
5月・10月	クリーンデー	年2回ですが、川の中に下りてのごみ拾いです。	ボランティア 40～60人
毎月（オカササ） 水曜日	水質検査	どれだけ汚れているか、人が入って大丈夫かが気になり、5ヶ所を検査。	会員 3

㊺ 南丘雑木林を愛する会

○ 活動目的・活動内容

日野市の雑木林を守るため、市民と行政の協働で開催している「日野市雑木林ボランティア講座」の卒業生を中心に、“明るく健全な雑木林を次世代に”をスローガンに5年前にスタートした雑木林を守るボランティア団体です。

南平丘陵公園を拠点に、雑木林の下草刈り、粗朶柵作り、萌芽更新作業等を中心に活動しています。チェーンソーや刈り払機の使用に際しては、会員を積極的に安全講習会に派遣し、専門的な技術を習得しています。又、イギリスの BTCV（British Trust for Conservation Volunteers）のように、近隣の雑木林や他の団体などに、応援ボランティアを派遣できる成熟

(1)市民および市民・行政との協働による環境への取組状況

した団体を目標に活動しています。本年は個人所有の竹林の手入れ、愛宕山の雑木林管理、梅の剪定など応援ボランティアを実施しています。

「ボランティアは人のためにやるのではなく、自分のために(目的意識のため)活動するものです。」を合言葉に楽しい汗をかいています。

○ 会 員 数：34 名

○ 活 動 場 所：南平丘陵公園、近隣の雑木林など

○ 代 表 者：橋本 幸久

○ 連 絡 先：事務局 日野市環境情報センター 笹木(042-581-1164)

○ 活動実績等：毎月第二日曜日、第四木曜日（9：00～15：00）

平成26年度南丘雑木林を愛する会活動報告

	月	日	曜日	活動内容	場所	天気	参加者
26	4	13	日	新入生紹介、ホダ木の設置	南平丘陵公園	晴れ	20
		24	木	竹林の整備他	南平丘陵公園	晴れ	10
	5	11	日	総会、バーベキュー	南平丘陵公園	晴れ	22
	5	17	土	学習会「日野の自然環境」	生活保健センター	曇り	34
		22	木	桜の枯れ木8本伐採	南平丘陵公園隣	晴れ	10
	6	8	日	植生調査、観察	南平丘陵公園隣	小雨	5
		26	木	用務員の手引き説明、四つめ垣	南平丘陵公園隣	晴れ	14
	7	13	日	愛宕山応援ボランティア	愛宕山	曇り	17
		24	木	四つめ垣	南平丘陵公園	曇り	12
		31	木	日野自工高校ボランティア指導	南平丘陵公園	晴れ	110
	9	14	日	四つめ垣	南平丘陵公園	曇り	20
		13	土	学習会「里山づくり」 講師 倉本宣氏	日野市役所会議室	曇り	30
	10	12	日	村山宅竹林の整備、垣根	村山宅	曇り	26
		18	土	学習会 講師 田中肇	ウイング	晴れ	28
		23	木	腐葉土置き場を竹で覆う	南平丘陵公園	晴れ	11
	12	14	日	伐木8本	南平丘陵公園	曇り	12
27	1	11	日	13本伐木、ホダ木110本	南平丘陵公園	晴れ	20
		22	木	萌芽更新(コナラ4本)	南平丘陵公園	雨	7
	2	8	日	杭の皮はぎ他	南平丘陵公園	雨	13
		26	木	杭の皮はぎ、チェンソーの整備他	南平丘陵公園	雨	6
	3	26	木	シイタケの駒うち、野葡萄の柵	南平丘陵公園	晴れ	13

4. 環境への取組状況

㊸ 水と緑の日野・市民ネットワーク

○ 活動目的・活動内容

緑や水の保全・育成等を行っている市民団体等が情報を共有し、「団体相互が緩やかに有機的に連携・協力することにより、日野市の水と緑を守り、育て、次世代へ引き継いでいく」ことを目的として、様々な実践活動を推進していく協力体です。環境保全に携わる人材育成事業として雑木林ボランティア講座を2005年度から、地球環境を正しく知ることを通して、地球規模の環境をみんなで考えていく「市民環境大学」を2009年度から開講しました。

○ 参加団体：12団体

○ 活動場所：日野市内

○ 代 表 者：会長 飯島 利三

○ 連 絡 先：事務局 日野市緑と清流課 (TEL. 042-585-1111)

日野市環境情報センター (TEL. 042-581-1164)

○ 活動実績

雑木林ボランティア講座

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
2014. 5. 17	講座 1 開校式・講義	日野の自然環境 講師：杉浦 忠機氏(日野の自然を守る会) 講師：原 正明氏(日野市緑と清流課課長)	27
2014. 6. 21	〃 2 視察	市内の緑地めぐり	23
2014. 7. 19	〃 3 講義・実習	正しい道具の使い方(鎌、のこぎり他)	26
2014. 9. 13	〃 4 講義	里山づくり 講師：倉本 宣氏 (明治大学農学部教授) 於 市役所 505 会議室	25
2014. 10. 18	〃 5 講義	雑木林の植物 講師：田中 肇氏 (フラワーエコロジスト)	25
2014. 11. 15	〃 6 実習	刈払い機の実習、落ち葉かき、腐葉土づくり 講師：飯島 利三氏 (水と緑の日野・市民ネットワーク)	25
2014. 12. 13	〃 7 見学・体験	明治大学黒川農場見学と下草刈り実習 講師：倉本 宣氏(明治大学農学部教授)	25
2015. 1. 31	〃 8 実習	チェーンソーの安全管理、使い方実習	24
2015. 2. 21	〃 9 実習	萌芽更新作業・粗朶処理の実習	21
2015. 3. 21	〃 10 実習・修了式	椎茸のほだ木作り実習・修了証授与	26

市民環境大学

実施日	回 数	目的・対象・内容	参加者数
2014. 5. 8	前期①	地球環境問題とは	18
2014. 5. 15	前期②	炭素・窒素・リンの循環	19
2014. 5. 22	前期③	地球温暖化と温室効果ガス	18
2014. 5. 29	前期④	地球温暖化の影響と対策	19
2014. 6. 5	前期⑤	ヒートアイランド現象と身近な対策	19

(1)市民および市民・行政との協働による環境への取組状況

2014. 6. 12	前期⑥	水の大切さと水の文化	18
2014. 6. 19	前期⑦	水は循環する	16
2014. 6. 26	前期⑧	日野市の川・用水・湧水を知る	19
2014. 7. 3	前期⑨	水資源を有効に利用する	33
2014. 7. 10	前期⑩	水の汚染を考える	18
2014. 10. 9	後期①	雨は好きですか（雨の役割）	15
2014. 10. 16	後期②	酸性雨とは	18
2014. 10. 23	後期③	酸性雨の生態系への影響	15
2014. 10. 30	後期④	オゾン層の役割（有効な紫外線を遮断する）	14
2014. 11. 7	後期⑤	オゾン層破壊の影響と対策	12
2014. 11. 14	後期⑥	光化学オキシダント（光化学スモッグ）	15
2014. 11. 21	後期⑦	化学物質による環境の汚染	14
2014. 11. 28	後期⑧	越境する化学物質（大気・海洋を通して）	14
2014. 12. 5	後期⑨	日野市のみどり（農地、雑木林）を知る	23
2014. 12. 11	後期⑩	地球環境や身近な環境を考える	16

市民環境大学ＯＢ会（環境学習会）

実施日	テーマ	参加者数
2014. 4. 17	石川氏講演学習会	25
2014. 5. 15	定例学習会	15
2014. 5. 22	浅川水再生センター見学	20
2014. 6. 19	環境学習会	12
2014. 7. 17	環境学習会	14
2014. 8. 21	環境学習会	9
2014. 9. 18	環境学習会	15
2014. 10. 16	谷仲山湧水見学	14
2014. 11. 20	環境学習会	16
2014. 12. 18	環境学習会	17
2015. 1. 15	環境学習会	8
2015. 2. 19	神保氏講演学習会	17
2015. 3. 19	環境学習会	13

市民環境大学ＯＢ会（空間放射線量測定）

実施日	場所	参加者数
2014. 4. 24	仲田親水路周辺	3
2014. 5. 22	市役所周辺	5
2014. 6. 26	仲田親水路周辺	5
2014. 7. 24	市役所周辺	4
2014. 8. 28	仲田親水路周辺	4

4. 環境への取組状況

2014. 9. 25	市役所周辺	5
2014. 10. 23	仲田親水路周辺	4
2014. 11. 27	市役所周辺	5
2014. 12. 25	仲田親水路周辺	10
2015. 1. 22	市役所周辺	4
2015. 2. 26	仲田親水路周辺	5
2015. 2. 26	市役所周辺	4
2015. 3. 26	仲田親水路周辺	6
2015. 3. 26	市役所周辺	4

その他

2014. 6. 8	身近な水環境の全国一斉調査に参加	浅川、程久保川、豊田用水の水質検査 (全国水環境マップ実行委員会)	—
2014. 5. 24	シンポジウム 「黒川清流公園の自然・シリーズ②植物」	講師：中西由美子氏 (第2次日野市基本計画みどりグループ) 講師：長岡総子氏(日野の自然を守る会) 講師：杉浦忠機氏 (日野市環境情報センター職員) 於 多摩平の森ふれあい館	75 人 参加
2014. 11. 30	雑木林ボランティア講座 10 周年記念シンポジウム 「日野市の雑木林を育む」	講師：矢島稔氏(日本鳥類保護連盟会長) 講師：倉本宣氏(明治大学農学部教授) 雑木林ボランティア団体によるパネル ディスカッション	90 人 参加

③ 南平・緑と水のネットワーク

○ 活動目的

当会は 2012 年「南平駅前や周辺の用水沿いを緑豊かな水辺にしたい」という住民の提案でスタートしました。

地域住民・行政・法政大学エコ地域デザイン研究所の協力を得て、ワークショップや勉強会を開催。緑化計画案を作成し、都市緑化機構の「緑の環境デザイン賞」に応募。見事国土交通大臣賞を受賞し、整備費用の助成を受けることができました。

現在は南平地域で定期的な活動を行っています。会の目的は、地域の特徴である用水など歴史的環境資源を守りつなげ、またその過程で南平のまちを再発見し、安心して安全な、南平らしい豊かな暮らしを目指すことです。

○ 人 数：活動参加者 83 名 どなたでも参加自由なオープンな会です

○ 活動場所：みなみだいら児童館ぶらねっと、南平駅周辺用水路沿い

○ 代 表 者：清水 守男

○ 連 絡 先：みなみだいら児童館ぶらねっと(館長：梅崎満州夫)TEL 042-599-0166

○ 情報提供方法：自治会回覧、市の掲示板、ぶらねっとだより、市内団体掲示板 HiKnow!

Facebook ページ(アカウントがなくても閲覧可能)、J : C O M 番組他

(1)市民および市民・行政との協働による環境への取組状況

○ 活動実績：主力活動：毎月最終日曜日午前の草取りと観察会など、イベントの開催

実施日	テーマ	目的 内容等	参加人数
4/12	ハンギングバスケット植付け	定例清掃・植え付け	8
4/13	野点・南平の四季	南平高校茶道部と児童館で野点開催 地域・学校との交流	62
5/25	まほうの草で遊ぼう	ぷらねっと（児童館）祭りに参加・定例 清掃・除草	65
6/8	緑のカーテンを作ろう	児童館西側壁面 景観・西日対策	6
6/29	定例会	定例清掃・植え付け・除草	11
7/27	自然観察会(植物と生きもの)	町中の自然観察 定例清掃・植え付け・ 除草	15
8/31	収穫のおすそ分け	児童館夕涼み会に参加 定例清掃・植え付け・除草	65
9/28	秋の植え付け、床づくり	定例清掃・植え付け・除草・床づくり	8
10/26	秋の植え付け、床づくり	定例清掃・植え付け・除草・床づくり	6
11/30	剪定講習会	樹木の剪定・定例清掃・植え付け・除草	16
12/21	里山の実り 収穫加工展示	児童館で冬のクラフトづくり・活動掲示板 設置	28
1/25	定例会	来年度企画会議	15
2/8	“地域懇談会”“南平まち歩き”	市地域協働課開催事業で活動紹介	85
2/22	定例会	来年度企画会議、報告書まとめ	7
2/28	春の植え付け	定例清掃・植え付け	7
3/29	定例会	年間企画確認・定例清掃・植え付け・ 野点準備	12

㊦ 百草山の自然と文化財を守る会

○ 団体案内（目的・趣旨）

多摩丘陵の一角、日野市百草山の自然を保全し、そのなかに含まれる古代・中世寺院跡（真慈悲寺）などの遺跡の調査・保全を目指す

○ 活動内容

- ・百草山斜面の開発抑制のための署名活動
- ・百草山の散策イベントの実施
- ・百草山の文化財調査
- ・市と協力して三沢中学校区探検隊を組織して散策マップを作成
- ・百草山の清掃活動（西斜面＜三沢＞の周辺）
- ・現在は、倉沢里山を愛する会、幻の真慈悲寺調査の会と合流して、日常活動をしている
- ・百草山の一角の大規模墓地開発計画を中止させた募金活動
- ・百草山の一角、真堂ヶ谷戸の市の買い取りを求める募金活動

○ 設立年月日：1995年（平成7年）11月3日

○ 代 表 者 名： 峰岸 純夫

○ 活 動 場 所： 日野市百草山

○ 活 動 日： 特定せず、随時活動

4. 環境への取組状況

- 会 員 数：若干名（中心層 60～70代）
- 募 集：無
- 連 絡 先：峰岸 純夫
住所 日野市百草971-250
TEL 042-591-0605
FAX 042-591-0605
E-mail mine3gisi2@ab.auone-net.jp
- 五十子 満大
住所 日野市百草971-250
TEL 042-591-6086
FAX 042-591-6086
E-mail ablamenroku@yahoo.co.jp

③ 緑地管理ボランティアの会

○ 活動目的・活動内容等

日野東光寺緑地保全地域の植生を荒廃させないため、手入れを行い、崖線の緑を永く保存し、明るい雑木林として維持するために緑地保全等を継続して活動する。

2010年度からは明星大学の緑地保全活動サークル「クローバー」の学生とも一緒に活動し、同校のグリーン・キャンパス・プログラムを指導している。

主な活動項目

- ・ 下草刈り、間伐、除伐、古損木処理、剪定、枝打
- ・ 竹林の管理
- ・ 特殊植物保護、植生調査、清掃活動
- ・ 学校との社会貢献活動の協働
- ・ 東京都及び日野市と保全計画の協働策定

○ 人 数：30名

○ 活動場所・連絡先：日野東光寺緑地保全地域、東光寺第1,2緑地 小太刀 智明(TEL042-583-4308)

○ 情報提供・参加募集方法等：東京都ウェブサイト「里山へGO！」・清流ニュース・チラシ、 大学内情報誌・など

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
4月6日（2014年）	竹の植生管理	筍と竹の調整・伐採、間引き	19 人
5月11日	笹・下草刈り	笹・草刈り、筍の調整・伐採、間引き	18 人
6月1日	竹の植生管理	筍の調整・伐採、間引き	11 人
7月13日	除伐・間伐	竹伐採・古損木伐採・洋種ヤマゴボウ除去	10 人
8月10日	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採、灌木処理	9 人
9月7日	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採、灌木処理	7 人
9月28日	笹・下草刈り	竹伐採・常緑樹伐採	9 人
10月5日	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採	5 人
10月19日	体験活動	グリーンキャンパス（竹伐採・草刈り）	62 人
11月2日	除伐・間伐	竹伐採・常緑樹伐採	9 人
1月18日（2015年）	除伐・間伐	竹伐採・常緑樹伐採	5 人
3月8日	除伐・間伐	竹伐採・常緑樹伐採	7 人

(2) 行政による環境への取組状況

郷土資料館（日野市程久保 550 042-592-0981）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
2014. 7. 9 ～2015. 1. 17	農業体験講座 「親子で豆腐を作ろう」 公民館と共催	親子を対象とした農業体験。農作業をとおして、地球環境や自然に触れ、緑化の一步に貢献。収穫物で豆腐作りを行い、食べ物のできる仕組み、食べ物の大切さを学んだ。	118
2014. 7. 19 ～8. 31	企画展「日野の生き物写真展」	日野市在住のフリービデオカメラマン井上緑郎氏が撮影した市内 300 種以上の生きものを写真で紹介した。	—
2014. 8. 1 ～10. 19	企画展「エコな暮らしを再発見 —ちょっと昔の道具たち—」	電気に頼らない時代の、環境に優しい暮らしの道具を展示で紹介した。	267
2014. 10. 25 ～12. 28	企画展 「タネもしかけもある木の実」	様々な形をした木の実について、標本や写真で紹介することで、種に見られる植物の”知恵や工夫”を伝えた。	432
2014. 7. 20、8. 3	昆虫を観察・採集し、標本を作ってみよう！	昆虫という小さな生物がどのような暮らしをしているのか野外観察した。また、標本づくりにて昆虫の体の仕組みを学んだ。	10
2015. 3. 14	昔の地層に触れ化石を探そう	多摩川の河川敷で見られる化石を含む地層の観察会を行った。過去の環境変化を学び、自然の不思議さを伝えた。	34
2014. 12. 13	講座「お正月飾りを作ろう」	日野の年中行事を体験する講座として、正月飾りのしめ縄を作成した。主食である稲の藁を活用することが、当たり前だった頃の生活を考える機会となった。	31
2014. 4. 1 ～2015. 3. 31	伝承体験講座 「目籠づくり」（竹取クラブ）	身近に生えているしの竹を材料とした目籠作りを行った。再生可能な素材を用いた道具を手作りすることで、環境に配慮する昔からの生活を体験した。	128
2014. 4. 1 ～2015. 3. 31	七生丘陵の自然と歴史調査	人の暮らしと自然とのかかわりを調査し、散策会やパネル展示などの普及活動も行った。市民との協働調査。	481
2014. 4. 1 ～2015. 3. 31	幻の真慈悲寺調査研究事業	中世に存在した大寺院「真慈悲寺」の調査、研究を行うと共に、緑地の紹介や保全に貢献。また、百草里山ミュージアム構想の地域内にあり、環境保護にも意識して取り組んだ。市民との協働調査。	1, 202

4. 環境への取組状況

ごみゼロ推進課（クリーンセンター 日野市石田 1-210-2 042-581-0444）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
通年	クリーンセンター施設見学	日野第一小、日野第二小、日野第三小、日野第四小、日野第六小、日野第七小、日野第八小、南平小、第五小、仲田小、夢が丘小、七生緑小、潤徳小、七生特別支援学級、JICA、薬科大学ほか	1,683
通年	講師派遣出前講座	日野第一小、日野第二小、日野第三小、日野第四小、日野第五小、日野第六小、日野第七小、日野第八小、南平小、潤徳小、仲田小、夢が丘小、たかはた台保育園、たまだいら保育園、ひらやま保育園、あらい保育園、みなみだいら保育園、もぐさ台保育園、おおくぼ保育園、日野・多摩平幼稚園、光塩女子学院日野幼稚園、つくしんぼ保育園、芝原保育園、百草台幼稚園、みさわ保育園、日野わかくさ保育園、至誠いしだ保育園、しんさかした保育園、日野ひかり幼稚園、日野わかば保育園、第四幼稚園、むこうじま保育園、第五幼稚園ほか	1,106
2014.10.8 ～2014.10.10	職場体験	立川国際中	2
2014.9.25 ～2014.9.26	職場体験	平山中	2
2014.11.6 ～2014.11.7	職場体験	七生中	3
2014.7.10	職場体験	三沢中	4
通年	清掃活動	三沢中、日野高、大坂上中育成会、滝合小	2,800

環境保全課（市役所 3 階 042-585-1111 内線 3511～3512、3521～3522）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
2014.5.25	市内一斉清掃	まちの環境美化・自治会等地域団体	16,400 (273 団体)
2014.5.20	喫煙マナーアップキャンペーン	喫煙マナー向上・環境美化 (日野市喫煙マナーアップ活動協議会と協働)	12
2014.8.19	喫煙マナーアップキャンペーン	喫煙マナー向上・環境美化 (日野市喫煙マナーアップ活動協議会と協働)	12
2014.10.25	環境フェア (多摩動物公園との共催)	生活スタイルの見直しと省エネ行動の実践によるCO ₂ 削減を啓発するイベント。省エネの模範的な取組実践者の表彰（市民、団体、子ども関連施設）、市、市民団体及び事業者によるCO ₂ 削減の取り組み紹介、マスコットキャラクターによる啓発ショー、動物をととした地球環境（講座/園内ツアー）、自然体験プログラムほかを開催。	6,200
2014.11.18	喫煙マナーアップキャンペーン	喫煙マナー向上・環境美化 (日野市喫煙マナーアップ活動協議会と協働)	12
2014.11.30	市内一斉清掃	まちの環境美化・自治会等地域団体	16,450 (275 団体)

(2) 行政による環境への取組状況

緑と清流課（市役所 3 階 042-585-1111 内線 3621）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
2014. 4. 1 ～2014. 5. 31	緑の募金	事業所、老人クラブ等の団体や個人に緑化推進のため、緑の募金への協力を依頼	—
2014. 4. 1 ～2014. 11. 2	第4回 あさかわ写真コンクール	八王子市との浅川流域連携事業の取り組みの一つ（募集期間 4/1～9/1、表彰式 11/2）	応募総数 348
2014. 4. 20	多摩川・浅川クリーン作戦	多摩川・浅川の同時清掃。	1, 946
2014. 5. 24	シンポジウム 「黒川清流公園」	水と緑の日野・市民ネットワーク主催講演会	75
2014. 6. 15	身近な水辺の一斉調査	浅川、多摩川、程久保川及び市内を流れる用水の水質調査（全国水環境マップ実行委員会主催）	95 (浅川流域)
2014. 6. 15 ～2014. 11. 30	コスモスアベニュー事業	花のまちづくり事業の一環として、浅川スポーツ公園外周で、緑化の推進・普及・啓発のため、市民によるコスモスの種まき及び育成管理を実施（公財）日野市環境緑化協会共催	386
2014. 6. 26	ホテルの観察会	真堂が谷戸にて実施した市民参加イベント。ホテルの生態についての座学の後、ホテルの観察を行った。真堂が谷戸蛸の会との共催。	32
2014. 7. 29	子どもの交流事業	八王子市との浅川流域連携事業。川での学習や遊びを通して、将来の浅川の水辺づくりの担い手となる両市内の小学校 5、6 年生を対象とした交流事業	35
2014. 8. 30	用水守懇談会	用水守連絡会、活動内容の報告および意見交換	18
2014. 10. 6 ～2014. 10. 31	緑と清流ポスター展	市役所 1 階フロアにて実施。展示 250 点（応募総数 1, 277 点）	延べ 600
2014. 9. 29 ～2014. 10. 24	ミニ水族館開設	市役所 1 階フロアにて実施。	延べ 600
2014. 10. 22 ～2014. 10. 29	水辺の資料館開設	市役所 101 会議室にて実施 水辺に関する市民・市民団体の貴重な資料や研究成果と、パネル展示。	100
2014. 10. 19	日野用水クリーンデー	栄町 5 丁目交差点からコープとうきょう日野駅前店までの日野用水（約 2km）の清掃	100
2014. 11～ 2015. 1	水辺のある風景日野 50 選 小中学校全校訪問	「水辺のある風景日野 50 選」冊子を持参し、全 25 校訪問。意見交換を実施。	25
2014. 11. 30	雑木林ボランティア講座 10 周年記念シンポジウム	雑木林ボランティア講座開講 10 周年を記念したシンポジウム	90
年間	小、中学校 総合学習	三小、七生中等の総合学習支援	2
年間	程久保川クリーンデー	5/18 10/26（年間 2 回実施）	100
年間	自然観察会	日野みどりの推進委員会と共催 年間 11 回実施	396
年間	浅川・潤徳水辺の楽校行事	浅川・向島親水路を中心に年間 15 回の行事を開催。	800
年間	滝合水辺の楽校行事	4. 8. 11. 2 月実施。	約 200

4. 環境への取組状況

産業振興課（市役所 3 階 042-585-1111 内線 3411）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
2014 年度	小学校における 日野産大豆栽培体験	食育推進の観点から、市内小学校における日野産大豆栽培を支援する。年度当初に栽培希望校を募集し、種子の配布及び講師の手配等を行う。収穫した大豆は、授業での体験学習（豆腐作り等）及び次年度の種子として活用する。	一小、三小、七小、南平小、夢ヶ丘小他

文化スポーツ課（市役所 3 階 042-585-1111 内線 3821、3822）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2014. 5. 10 ～2015. 3. 29	さわやかウォーキング及びバスハイキング	さわやかウォーキング及びバスハイキングは市内外各所を巡り、健康増進及び市民の親睦を図ることを目的に年 6 回実施するウォーキングです。 また、四季に応じた自然に親しむコースを取り入れることで、運動を通して市の魅力を発信しています。	253

子育て課（市役所 2 階 042-585-1111 内線 2517）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
2014. 7. 25	自然の中で遊ぼう	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生以上 小動物・昆虫・植物の観察、木工	40
2014. 8. 11	自然の中で遊ぼう	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生以上 小動物・昆虫・植物の観察、木工	40
2014. 8. 26	自然の中で遊ぼう	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生以上 小動物・昆虫・植物の観察、木工	38
2014. 6. 15 ～2014. 12. 21	自然の中で遊ぼう	緑の大切さを感じる 小学校 5 年生～中学校 3 年生 野外炊飯・テント泊・キャンプファイヤー	延べ 655
2014. 7. 19 ～2014. 8. 31	自然の中で遊ぼう	緑の大切さを感じる 市内の子ども 子どもたちが自発的に活動やルールを創出した中での遊びや体験、キャンプ活動ほか 野外炊飯・キャンプファイヤー	延べ 1, 080
2014. 11. 29	自然の中で遊ぼう	緑の大切さを感じる 市内の子ども たき火、焼き芋、工作、ネイチャーゲーム	約 250

(2) 行政による環境への取組状況

中央公民館(日野市日野本町 7-5-23 042-581-7580)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
2014. 5. 17 ～7. 19 (全 3 回)	農業体験講座 親子で夏野菜を作ろう	親子で土に触れ、土を楽しみ、食物を育てることで、自然と人間との共生、人間相互の共生を図る。きゅうりと夏大豆を育て、収穫する。	38
2014. 11. 15 ～2015. 1. 17 (全 3 回)	親子で収穫体験して 豆腐を作ろう	親子で土に触れ、土を楽しみ、食物を育てることで、自然と人間との共生、人間相互の共生を図る。大豆を育て、収穫し、豆腐をつくる。	78
2015. 2. 7～3. 7 (全 3 回)	春に向けての畑の 土づくり	食物を育てるための畑の土づくりを通じて、自然と人間との共生、人間相互の共生について学ぶ。	17
2015. 2. 14 ～2. 28 (全 3 回)	日野の自然環境の 変り遷わり	一般市民を対象に、動物相・植物相・昆虫相からみた日野の自然を学ぶ。	110
2015. 3. 20	苔玉作り体験講座～おうちで楽しむ小さな自然	一人暮らしの高齢者でも気軽に楽しめる身近な自然・苔玉をつくる。	24
2014. 4. 26 ～2014. 12. 6	田んぼの学校	水田での稲作りを通じて日野市の農業、環境、地域コミュニティを考える。	579

地域協働課(日野市生活・保健センター 日野市日野本町 1-6-2 042-581-4112)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
2014. 8. 30	みんなの環境セミナー共催 「太陽熱でサバイバル！」	太陽エネルギーを使ってお湯を沸かしたり、パンケーキが焼ける発泡スチロールの集熱箱を作る。また、パラボラ型太陽熱集熱器の実験で太陽エネルギーの凄さも実感してもらう。	21
2015. 3. 14	風呂敷を使ってレジ袋削減！	ふろしきの歴史や織り、染め物の話を交えながら、日常、和文化、旅、アウトドア、子育て、防災に役立つ応用の技を紹介し、使い捨てではない生活を送る上での一助とする。	7

生涯学習課(市役所 5 階 042-585-1111 内線 5311、5312)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
2015. 1. 12	成人式	新成人対象。配布プログラムに市の環境保全イメージキャラクターを紹介。記念品としてエコマーク付きボールペン&シャープペン配布。	1, 171

4. 環境への取組状況

(公財) 日野市環境緑化協会(日野市神明 2-13-1 042-585-4740)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
2015. 3. 28 ～3. 29	第13回スプリングフェスタの	実行委員会と共催で開催	来場者 5,000 名
2014. 4. 26	緑のリサイクル	市民から提供された植物を配布 提供者 37 名、合計 1,026 点を配布	受領者 391 名
2014. 5 月	ガーデニングコンテスト	市民からガーデニング作品を募集 一次審査(写真): 5 月 16 日 二次審査(現地): 5 月 20 日 を行い、入選者 4 件を選出	応募件数 11 件
2014. 5. 27 ～6. 10	ガーデニングコンテスト写真展	市役所、市民ホールにてガーデニングコンテスト 応募者全員の写真を展示	-
2014. 9. 26	カサギク貴重品種の配布	日野市だけが継承しているカサギクの貴重品種 「白多摩・黄多摩」をプランターに植付け、観賞用 として小中学校等の公共施設に配布	プランター数 70 個
2014. 11. 4 ～11. 13	配布苗: 菊花コンテスト	市役所庁舎前、市民プラザにて実施。ポットマム、 スプレー菊、大菊の種類別に合計 24 点を表彰 (応募数)・市民一般の部 合計 87 鉢 ・老人クラブの部 合計 120 鉢 ・小学校の部 合計 110 鉢 ・大菊の部 合計 29 鉢	(苗配布) 7,378 株 (個人・団体 含む)
2014. 12. 16 ～12. 25	緑の写真展	市役所、市民ホールにて実施。 テーマ 1 「日野の四季」 11 点 テーマ 2 「わが家の緑」 6 点を展示	応募者 6 名
2014. 12 月	作文集「緑のまち」発行	市内小学校 4・6 年生を対象に環境に関する作文を募 集して審査を行い、入選作 105 編及びカット入選 59 作品を掲載した作文集を発行	応募総数 2,641 編
年間	緑化講習会	○大菊の育て方講習会 7 月 23 日 ○ポットマム・スプレー菊の育て方講習会 8 月 8 日 ○庭木の手入れ講習会 10 月 9 日 ○稲わら竹細工講習会 12 月 18 日 ○春の草花・家庭果樹管理講習会 2 月 5 日 ○ガーデニング講習会 3 月 12 日	参加者合計 176 名

(3) 学校等による環境への取組状況

小学校における環境教育の取組

学 校 名	取 組 状 況
旭が丘小学校	○生活科、総合的な学習の時間で校内にある雑木林を活用した学習活動（植物、昆虫、野鳥観察、腐葉土づくり、巣箱、樹木の名札など）○雑木林クリーン活動「トライ&チャレンジ雑木林整備」→雨天により学年活動として実施 ○菊づくり（中学年）○米づくり（5年生）○理科委員会活動報告（雑木林、野鳥観察、バードキーづくり、花壇）○野菜づくり（全学年）○水道キャラバン（4年生）○ひのっ子エコアクション（毎月記入、提出し実施確認）○生活委員会（児童活動）で毎月エコ目標を決め、教室等に掲示 ○ごみ、環境問題に関するポスター展への応募 ○エコキング参加 ○卒業奉仕活動（校内清掃）○緑のカーテン（ゴーヤ）
潤徳小学校	○委員会活動でペットボトルキャップを集め、ワクチンに換える ○各クラスにリサイクルボックスを設置して呼びかけを行う ○ロング集会のお店では、家庭から再利用できそうなものを持ち寄って材料にして、ごみの出ないような内容を工夫した ○給食の残菜調べをして、好き嫌いをせずに残さず食べることを声かけした
滝合小学校	○ビオトープを活用した生活科の体験活動 ○ビオトープの植物・生きものの観察 ○浅川を活用した学習（総合的な学習の時間・生活科・ふるさとひの科）○稲作作り（5年生）○校庭芝生整備（全学年・6年生芝生再生プロジェクト）○水道キャラバン（4年生）○野菜作り（2年生・かわせみ学級・つばめ学級）○クリーンセンター見学（4年生）ごみの再利用促進 ○植物の栽培活動（全学年）○地域清掃（年3回全学年）○菊の栽培（かわせみ学級）○浅川一斉清掃への参加（浅川っ子の会）○緑と清流ポスター・ごみ減量ポスター制作作品○トウモロコシの皮むき（1年生）○残菜ゼロウィークの取り組み（給食委員会）
東光寺小学校	○米作り（5年生）○地域清掃活動（全校）○日野用水生きものの調べ（1・2年生）○多摩川・日野用水の水質調査（5年生）○タマネギの種まきと収穫（3・4年生）○東光寺大根の種まきと収穫（3年生）○菊・栽培（全校）○校庭の芝生を利用した取り組み ○太陽光パネルによる発電 ○かかし作り（5年生）
豊田小学校	○ひのっ子エコアクションへの取り組み ○エコキングへの取り組み ○生活安全朝会において、校庭のごみ拾い（落ち葉や小石など）○3年生の校舎の南側を利用した緑のカーテン ○第二校庭の湧水を利用した米作り ○「緑と清流ポスター」への応募 ○ビオトープを活用した生活科や理科の観察学習 ○4年生の菊の栽培 ○都水道局水道キャラバンの出前授業 ○PTA主催のクリーン作戦への取り組み
仲田小学校	○生活科、総合的な学習、理科等での野菜づくり（各学年）○花と緑のボランティアによる菜の花、スイカ、パンジー、コスモスの栽培 ○栽培委員会による野菜づくり、プランターの花の整備 ○菊の栽培（2・3年生）○全学、各学期分担任でのクリーン活動（学校周辺・仲田の森の清掃活動）○水再生センター、クリーンセンターの見学、都水道局水道キャラバンの出前授業（4年生）○「ごみゼロ」ポスターの出品、「みどりのまち」作文の出品 ○ゴーヤの緑のカーテン ○ごみの分別と紙のリサイクル ○多摩川、仲田の森蚕糸公園の自然を活用した学習 ○地域の田んぼを借りて稲作学習（5年生）○給食の残菜減らしを目指して食育指導 ○裏白紙の積極利用、ペーパーレス会議の実施 ○人のいない教室・廊下・トイレの電気を消す等の節電の取り組み
七生緑小学校	○コピー用紙を両面使用するようにした ○全校でエコアクションに取り組んだ ○全校で水の出っぱなし等、無駄遣いのないよう取り組んだ ○電気のつけっぱなし等、無駄遣いのないよう取り組んだ ○給食を残さないようにするため、残飯調べを実施した
日野第一小学校	○自然園の池（ビオトープ）を活用した体験学習 ○社会科、理科、生活科、総合的な学習の時間等での環境学習 ○稲、大豆、トマト、ゴーヤ、サツマイモ、野菜等の栽培 ○トライ&チャレンジで校庭及び自然園の清掃による環境整備とごみリサイクル運動の取り組み ○緑と清流課、ごみゼロポスターへの応募 ○年間をとおして、全校でのひのっ子エコアクションへの取り組み ○特別支援学級の教室前での緑のカーテン ○菊の栽培活動 ○クリーンセンターの見学及び出前授業の実施
日野第三小学校	○電力や水の無駄遣いを防ぐために、全学級でエコを呼びかけるエコ係を設定している ○エコ係の意欲を高めるために、エコ活動の呼びかけ役となってエコ集会を実施した ○中庭にビオトープと緑地があり、子供たちが緑を通年感じられるように環境に配慮している ○中庭の教室には、緑のカーテンを外から複数設置するようにした ○飼育・栽培委員会の常時活動として花壇の手入れをし、緑を大切に活動に取り組んでいる ○各学年の畑を設定し、学年で必ず畑で作物を育てる活動を行った

4. 環境への取組状況

日野第四小学校	○ごみ箱を燃えるごみ・燃えないごみ等に分けて設置している ○ごみの減量(食べ残しを減らす、裏紙を使う等) ○緑のカーテンへの取り組み ○多摩川の水質を調べる学習 ○学校のピオトープを用いた観察活動 ○動物の飼育、生きものと触れ合う活動 ○環境委員会による環境保全のポスター作り ○ごみゼロ大作戦 ポスターコンクールへの参加
日野第五小学校	○「廃棄物ゼロ」「無駄ゼロ」に向けての取り組み ○エコキングの参加 ○落ち葉集め ○エコアクションへの取り組み ○ごみの分別とリサイクル ○アサガオのリース作り (1年生) ○図工等で画用紙の切れ端・裏紙の利用 (1年生) ○さつまいものつるでリース作りや縄跳び (2年生) ○新聞紙でガラス拭き (2年生) ○蝶を来させるためのキャベツの栽培 (3年生) ○農家見学 (3年生) ○緑のカーテンの実施 (4年生) ○クリーンセンターでのごみ処理を見学し、様子をまとめて自分でできることを考える (4年生) ○クリーンセンター職員による出前授業 (4年生) ○総合で環境問題について考える (5年生) ○稲作 (5年生) ○理科や家庭科を通して温暖化等環境のことについての学習
日野第六小学校	○トライ&チャレンジ(校庭、地域の清掃活動) ○スーパー見学による、ごみの分別やリサイクルボックスの活用 ○水道キャラバンによる水の学習、クリーンセンター見学 ○緑のカーテン(ヘチマ、ひょうたん、ゴーヤ、パッションフルーツ) ○資源を活用した案山子作り ○緑と清流ポスター、作文の取り組み ○菊の栽培 ○エコ壁新聞やエコポスターなど、各種コンクールへの応募 ○エネルギー学習 ○理科・栽培委員会による花の栽培活動 ○環境美化委員会による清掃活動、校庭の石拾い
日野第七小学校	○児童集会での節電や水、紙の無駄遣い防止の呼びかけ(エコ集会の実施) ○学級による授業の実施(社会科) ○緑のカーテン(ツルレイシ)を利用したエネルギー対策 ○廃材や家庭の不要なものをいかした学習発表会(作品展) ○4年生の課外授業において、リサイクルセンター見学及びリサイクル活動
日野第八小学校	○代表委員会によるペットボトルのキャップ回収 ○使用済みのわりばしを回収し、カレー作りの薪として再利用 ○廃材を使った図工の作品づくり ○残飯を出さないよう児童への食育指導 ○生ごみを利用し土づくりを行い、野菜を栽培、収穫(2年) ○クリーンセンターとの連携(見学、出前授業等)、ごみ減量ポスターの取り組み(4年) ○児童朝会で、物の大切さを伝え、落とし主の現れない落とし物を減らす取り組み
平山小学校	○教科の学習について:理科・社会科を中心とした各教科と「ごみ・資源」「自然・生命」「エネルギー・地球温暖化」の各分野と関連付けて学習した。自然エネルギーの利用については、主に本校に設置されている太陽光パネルを利用した太陽光発電を取り扱った。○体験活動について:全学年による学校菜園での花・野菜の栽培活動や、学校ピオトープを利用した観察活動を3・4年で実施した。栽培、観察といった直接体験を通して、身近な自然に親しみ、身近な環境に対して意欲的に関わる活動をした。○日常での取り組みについて:晴天時の教室の窓側の電気の消灯、休み時間の消灯といった省エネルギー・省資源化に向けた取り組み、牛乳ラベルを小さく折りたたんで捨てたり、再利用可能な紙を集めるためのリサイクル箱を設置したりするなど、ごみの削減に向けた取り組みを実施した。○各委員会(特別活動)での取り組みについて:生活委員会では給食残菜チェック、エコ委員会では電気の消灯チェック、水道チェックなどの取り組みを行い、その結果をもとにして各学級に呼びかけを行った。また、理科委員会ではピオトープの環境整備や月ごとに写真を撮り、季節の変化や特徴を掲示した。
南平小学校	○校内にある畑や田んぼを活用した体験学習や調べ・まとめ・発表学習。各学年での野菜の栽培、収穫、調理を通じた学習活動。無農薬による米作り(4年) ○ピオトープを活用した生活科や理科観察学習 ○全児童及び教職員で行う校庭や学校周りの草取り、石拾い ○ごみの分別とリサイクル ○総合的な学習の時間での環境学習(5年) ○落ち葉等での堆肥作り ○環境美化委員会での花壇の整備と植物の栽培 ○水道キャラバンの学習(4年) ○どんぐりクラブによる浅川でのガザガザ体験や地域での観察学習(1・3年) ○PTAを中心とした年2回のクリーン作戦 ○紙の裏紙使用や両面印刷の取り組み ○全校での節電・節水の取り組み
夢が丘小学校	○みんなでエコアクション(全学年) ○残菜を減らそう(全校・給食室との連携) ○わたしのあさがお(1年) ○わたしたちの野さいばたけ(2年) ○夢が丘探検隊(3年) ○姿を変える大豆(3年) ○ごみをへらすためにできること(4年) ○環境のためにできること(4年) ○菊を育てよう(4年) ○クリーンセンター見学(4年) ○水道キャラバン(4年) ○バケツ稲から見えること(5年) ○ハケ岳ってどんなところ?(5年) ○日光ガイドブックを作ろう(6年) ○もっと知りたい程久保川(6年) ○緑のカーテン(4年・栽培美化委員会)

(3)学校等による環境への取組状況

中学校における環境教育の取組

学 校 名	取 組 状 況
大坂上中学校	○生徒会を中心としたリサイクル運動（分別・収集の呼びかけと徹底）○生徒会によるエコキャップ収集運動 ○理科・社会・技術家庭など教科を通した環境教育の指導 ○教員と生徒による、空き教室における消灯の励行
七 生 中 学 校	○再生紙を職員資料で利用 ○使用していない教室の電気の消灯 ○世界の食糧事情に触れ、食べ物を大切にする心を育む（1年生）○世界の食事について学ぶ（2年生） ○エネルギーの種類と変換についての学習（3年生）○エコッキング（ごみを減らす、水や洗剤の使い方を考える取り組み）地産地消（3年生）○古紙は、ごみ箱にいれずにリサイクルごみとして ○ごみ箱には、ティッシュ、清掃で出るごみ位 ○ペットボトルキャップ集め（H.26年度:100kg）
日野第一中学校	○「緑のカーテン」を環境学習教材とし、「総合的な学習の時間」のカリキュラムとして位置づけて、各学年で取り組んでいる（9年目）。放課後も、自然科学部、ボランティア部、教職員、PTA有志の方々など、多くの活動組織のかかわりの中で活動を継続している ○「一中花いっぱい運動」で1年間を通して、パンジー、ひまわり、モミジバヒルガオなど多くの花を咲かせた。これらは上記「緑のカーテン」の取り組みとともに、自然科学部、ボランティア部、教職員、PTA有志の方々などが一環の取り組みとして行っている ○校舎廊下に「節電ポスターを貼り、教室の前後の扉には「節電と省エネ」シールを貼り、節電への意識を高めさせた ○「資源ごみ」の分別、「クリーンフェスティバル」（生徒会主催の全校生徒による一中周辺のごみ拾い）
日野第二中学校	○花壇の整備、グリーンカーテンの育成（ボランティア部等の活動）○総合的な学習の中で、食育を中心とした環境学習。材料を無駄にしない調理、買い物袋持参、地産地消など ○生徒会によるエコアクションの推進 ○ペットボトルキャップの回収 ○全校生徒による学校内外の落ち葉掃き清掃活動 ○リサイクル、ごみの分別の徹底 ○節電の徹底
日野第三中学校	○生徒会を中心に、ペットボトルキャップの回収 ○全校で教室移動時の消灯等の節電 ○無駄をなくすために清掃活動やごみの分別の徹底
日野第四中学校	○ごみ箱を燃えるごみ、燃えないごみ等に分けて設置（1、2、3年）○ごみの減量（紙の回収・残飯の減量等）（1、2、3年）○空き缶・古新聞・牛乳パック・ペットボトルのキャップ等の回収（1、2、3年）○レジ袋や不必要なものをもらわない等のごみの発生を抑制する活動（1、2、3年）○動物の飼育、生きものと触れ合う環境の整備（1、3年）○学校農園等での花や野菜等の栽培（1年）○地球温暖化やヒートアイランドに関する学習（1、2、3年）○オゾン層の破壊に関する学習（1、3年）○酸性雨（霧）に関する学習（1、3年）○大気汚染に関する学習（1、2年）○水質汚濁・海洋汚染に関する学習（1、2年）○森林破壊に関する学習（1、3年）○絶滅のおそれのある野生生物に関する学習（2年）○太陽光、風力等、新エネルギーの開発・利用に関する学習（3年）○水道の出しっぱなしをしない等の節水の取り組み（1、2、3年）○人のいない教室の電気は消す等の節電の取り組み（1、2、3年）○学校周辺の清掃活動（1、2、3年）○環境教育に関するチェックシートの活用と実践（1、2、3年）○都や区市町村で作成した環境教育に関する指導計画の活用（1、2、3年）○特別活動（学級活動・生徒会活動・学校行事）や部活動における「環境教育カリキュラム」の活用（1、2、3年）○特別活動（学級活動・生徒会活動・学校行事）や部活動における環境教育啓発資料「くらしと環境 学習web」の活用（1、2、3年）○教師が教材開発を行う際の資料として「くらしと環境 学習web」を活用（1、2、3年）○「CO ₂ 削減 アクション月間」を実施（1、2、3年）
平 山 中 学 校	○一学年では、総合的な学習の時間に「環境」について調べ学習を行った。「水」「大気」「大地」の3つのグループに分けた。「水」は水質汚染や海面上昇、「大気」では竜巻や地球温暖化など、「大地」では土壌汚染や野生動物の減少などを各自でテーマを決めてグループで新聞づくりを行った（H.26年度）○理科の授業では、三学年が「自然と環境」について学んだ。地球温暖化や大気汚染、オゾン層、水質汚染、酸性雨などの原因と影響について学んだ（H.26年度）○3年生の公民で地球規模での環境問題について取り組んだ。1年生の地理で、地球温暖化について学習した（H.26年度）
三 沢 中 学 校	○地域清掃（2年）○小中合同クリーン作戦（三沢中2学年、潤徳小・八小・七生緑小4学年）の実施○エコバックの作成（家庭科:1学年）○環境に関するポスター作成・応募（エコ・ごみゼロ・清流等…美術科:2・3学年）○学校全体としてのエコアクションへの取り組み ○美化委員によるエコチェック（各教室の節電及びリサイクルに関して）及び、ごみの分別の徹底 ○リサイクルボックスの教室への設置 ○ペットボトルキャップ・かまぼこ板の回収（ボランティア部）○ unnecessary 電気消灯の徹底

4. 環境への取組状況

高校における環境教育の取組

学 校 名	取 組 状 況
日 野 高 等 学 校	○全校体制でのごみの分別収集 ○科目「地学基礎」「家庭総合」「保健」での環境教育 ○1年生全員が「総合的な学習の時間」で年2回の浅川河川敷清掃、7から8月末にクリーンセンター、都水再生センター、多摩動物公園で、いずれか1日自然環境に触れる奉仕体験活動を実施 ○地域自治体と連携して年2、3回の合同清掃等の実施 ○科目「生物」の授業及び生物部の活動による自然観察、地域環境調査 ○部活動による通学路清掃
日 野 台 高 等 学 校	○職員室及び各教室にごみ箱 4 種類(燃やせる、燃やせない、紙ごみ、購買用)と、紙リサイクルかごを設置してごみの分別を徹底している。ただ、教室内に多くのごみ箱があり煩雑であるという反省もあり、設置方法について検討している ○職員室ではさらに、雑誌、パンフレット類を一般ごみと別に集めている ○生徒会の活動として、本校で排出される紙類・雑誌類・新聞紙・ダンボールなどの紙資源を生徒会執行部の生徒が年 3 回程度回収し、処理業者にリサイクルしてもらっている ○生活委員会の取り組みとして、ペットボトルキャップ、使用済み切手などの回収を行い、日野市ボランティアセンターに拠出する予定である ○美化委員会と保健委員会の取り組みとして、定期的にトイレと手洗い場の清掃を行い、用具の点検作業を行っている。また文化祭後のごみの仕分け作業を行っている ○廊下の蛍光灯を消している。また職員室内の蛍光灯を 1/4 消灯している。夏場には各教室の蛍光灯の 1/4 消灯も呼びかけている ○職員室等で利用している電気ポットを、夏場には使わないこととして魔法瓶を利用している ○公民科、保健体育科、家庭科の授業で環境教育を実施している
南 平 高 等 学 校	<生徒対象> ○4月入学生へのごみ分別収集についてのオリエンテーションを実施（分別方法、収集場所案内） ○ごみ分別は「可燃」「不燃」「リサイクル紙」「ペットボトル」「紙パック」○びん・カン類は校内に持ち込まないように指導（収集場所にはびん・カンの分別コーナーを常設）○ごみ箱などの分別表示の徹底 ○校内清掃区域のクラスごと分担（教室、廊下、生徒ホール、特別区域）と清掃の日常習慣化指導（全教員による清掃指導）○各階教室前廊下用に幅広モップと生徒ホールの床パンチカーペット用のに電気掃除機設置 ○教室分別ごみ箱の設置（4種類＝「可燃」「不燃」「リサイクル紙」「紙パック」）○ペットボトル分別収集（ボトル、キャップ、ラベル）○ペットボトルキャップは生徒会活動でボランティア活動に転用 ○校内の購買部で販売の「紙パック」製品は販売業者が回収している ○学校周辺通学路の清掃活動 ○浅川南岸の清掃活動 <教員> ○印刷物の減量 ○廃印刷物用紙の裏面再利用（印刷室に用紙サイズ別裏面利用紙コーナーを設置） ○古新聞、ダンボール紙、古図書、カタログなど古紙の分別収集（福祉施設による古紙回収に協力している）○ごみ収集場所はごみ種類別収集小屋を設置 ○学校説明会など来校者用下足袋（手提げビニール袋）の再利用 ○廊下の消灯、スイッチに消灯呼びかけシールの貼付

幼稚園における環境教育の取組

園 名	取 組 状 況
光 塩 女 子 学 院 日 野 幼 稚 園	○ペットボトルのキャップ集め ○インクカートリッジの回収 ○ごみ分別 ○リサイクル用品を利用した制作遊び ○幼稚園内の竹林や林の中で動植物に触れる ○梅取りを体験してジュース作り ○プランターで野菜栽培 ○季節に応じたお菓子作り（例：スイートポテト）○節水・節電を心がける ○給食を残さず食べる ○ゴーヤのグリーンカーテン作り ○メダカの飼育と観察 ○冷暖房をしている時は、ドアを閉める ○コピー紙の再利用 ○印刷物の両面印刷の励行 ○ごみゼロ運動の方の話を聞き興味、関心を持つ ○雑誌・雑紙・ダンボールをNPO団体へリサイクルへの引き取り依頼
欣 浄 寺 み の り 幼 稚 園	○草花の栽培・野菜の栽培と収穫 ○うさぎ、小鳥、カブトムシの飼育 ○ごみの分別 ○廃材を利用した制作 ○植物の色出し ○収穫したサツマイモでスイートポテト作り ○笹の葉、いぐさを利用した笹団子作り ○梅の実の収穫と梅ジュース作り ○落ち葉、木の実を使った制作 ○物にもいのちがあることに気付かせる
杉 野 幼 稚 園	○ごみの分別指導（不燃・可燃・資源ごみ）○廃材を利用したの製作遊び ○落ち葉や草花など自然物を使った遊び ○野菜の栽培・観察 ○落ち葉や飼育物の糞を使用しての土づくり ○収穫した野菜を使つての料理活動 ○ヨモギ団子づくり ○小動物や家畜を飼育し、親しむ ○節水指導 ○暖房時の戸の開閉や温度設定 ○エアコンを使用しない ○インクジェットプリンターのカートリッジ回収

(3)学校等による環境への取組状況

第 二 幼 稚 園	○ごみの分別(分別表示、保育の中での実践) ○身近な素材を使ったおもちゃ作り(未就園保護者等にも提案) ○廃材利用した製作活動 ○園外に出かけ、四季を通じ地域の自然に触れる遊び体験 ○園内の畑や花壇での植物栽培 ○生ごみリサイクルによる元気野菜作り及び収穫 ○動物(うさぎ)やカメ、昆虫、蚕の飼育と観察 ○暑さ対策のグリーンカーテンづくり ○自然物を使つての製作 ○節電・節水に心がける ○水の使い方についての定期的な指導 ○ごみゼロ推進課(ごみゼロマン)の話を聞き、エコへの興味・関心をもつ
第 三 幼 稚 園	○ごみの分別(ごみ箱に、燃やす 燃やさない表示、リサイクル紙を集める場所等を、保育の中で実践)及び、分別に関する話を聞く機会の設定 ○廃材を利用した制作活動 ○廃材を利用した環境整備(用品の分類箱に廃材や容器を利用) ○リサイクル紙、利用の周知 ○園内・園外でのごみ拾い活動および落ち葉ひろい等 ○園内の畑や花壇での野菜の栽培や収穫・花の栽培による自然との触れ合い活動 ○園外保育を通し、地域の自然に触れる活動 ○自然物を利用した制作活動 ○小動物の飼育活動を通し、命あるものへの親しみや生命の尊さを伝える活動 ○水、電気等の節約意識を培う保育活動
第 四 幼 稚 園	○廃材を利用した製作活動や、日常生活での活用 ○ごみの分別徹底(不燃、可燃、リサイクル) ○花・野菜の成長観察、育成及び栽培物を利用した製作 ○園内外の自然との触れ合い(多摩川の自然を使った遊び・果実の収穫・木登り・花びらを使った色水遊び等) ○小動物の飼育を通して、生きものへの愛護や生命を大切にする気持ちを育む ○季節や天候など自然現象への興味を引き出す ○グリーンカーテンの栽培 ○こまめな節電と節水の実行 ○生ごみを利用した土づくり ○製作した装飾類の再活用
第 五 幼 稚 園	○生ごみを利用して土づくり ○ごみの分別(不燃・可燃・リサイクル) ○廃材を利用した製作活動 ○節電・節水の指導 ○グリーンカーテンの栽培 ○園内、園外での自然体験 ○自然物を使った製作・遊び(花、実、ツル等) ○小動物や昆虫の飼育観察 ○野菜、花の栽培 ○園内の果実の収穫
第 七 幼 稚 園	○ごみ分別の徹底 ○ごみの分別やリサイクルに関するクリーンセンターの方の話を聞く環境教室を設ける ○「地球の環境を守るため」というテーマで節電、節水等に関する環境保全課の方の話を聞く環境教室を設ける ○コピー紙の再利用 ○両面印刷・両面コピーの徹底 ○プリンター印刷機・インクカートリッジの使用後の空容器の回収 ○生ごみを資源として土作りをして、栽培活動をして食の循環を体験 ○園内外の落ち葉を使い、堆肥づくり ○CO₂を減らす取り組みとして緑のカーテンの栽培 ○園内での自然体験(木登り、草集め、昆虫、小動物の飼育・観察) ○園内の果実の収穫(さくらんぼ・ゆず・柿など) ○節水・節電(スイッチの見える化) ○廃材を利用して、製作、日常の活動 ○インクカートリッジやベルマークの回収 ○ペットボトルのふたのリサイクル
日 野 し ら ゆ り 幼 稚 園	○水の節水 ○電気の節約(使用していない電気類はコンセントなど抜く) ○ごみの分別(生ごみの減量化) ○ガスの節約 ○使いすての容器類使用をできるだけ避ける ○空箱などを使用して製作活動 ○生物の飼育 ○野菜、花の栽培 ○コピー紙(印刷物)など無駄に使わない ○教材(画用紙、テープ類)など無駄に使わない ○コピーの枚数が多い場合は印刷紙を使う
日 野 ・ 多 摩 平 幼 稚 園	○ごみの分別(可燃・不燃・紙) ○ごみゼロマンの話を聞き、エコへの関心を持つ ○行事での各自ごみ持ち帰り ○余り紙の再利用 ○裏紙の利用 ○廃材を使った制作活動 ○落ち葉を拾い、焼き芋パーティー ○動物の飼育(鶏・うさぎ・かめ・カブトムシ) ○学年、クラスごとに無視や小動物の話や自然界の仕組みについて話し合う機会を作る ○農業体験や園での野菜栽培 ○収穫したじゃが芋でカレーパーティー ○園内の果実(夏みかん)の収穫 ○収穫した野菜を使用したクッキング(きゅうり・トマト・レタスなど) ○節電(通常の半分の照明の使用) ○電球をLEDに移行 ○節水(蛇口の水量調節機能の利用、子ども達への声掛け) ○冷暖房使用時はドアを閉める ○エコバックの奨励 ○園庭の一部芝生化 ○物を大切にする気持ちを育てるために、夏祭りにおもちゃ病院の設置 ○ソーラーパネル設置による一部自家発電とエネルギー学習 ○職員のマイ箸使用 ○マイカー通勤を減らす ○水再生センターの見学 ○ペットボトルのキャップ集め ○ベルマークの回収 ○外靴持ち帰り用ビニール袋の繰り返し利用
日 野 台 幼 稚 園	○ごみの分別 ○生物の飼育、観察 野菜、花の栽培 ○不要雑誌、紙類で絵画製作や折り紙製作等に利用 ○弁当をなるべく残さない ○公園の散歩で四季の変化を感じる
日 野 ひ か り 幼 稚 園	○ごみの分別収集の徹底 ○節電(廊下、階段、エントランス、外灯の一部消灯等)の徹底 ○節水(水道の有効的な使い方)の指導 ○リサイクル品を利用した製作 ○野菜の栽培 ○地域の自然環境の教材化と体験 ○近隣の公園でのどんぐり拾い ○草花や昆虫など、生きているものを大切にする ○日野市内の自然環境や施設等、魅力ある場所を子ども達に多く見せ、自分達の暮らす日野市をより一層好きになってもらう

4. 環境への取組状況

日野ふたば幼稚園	○園庭、テラス、農園での草花、稲、野菜、果物の栽培 ○クジャク鳩、カメ、ウサギの飼育 ○収穫野菜を使った調理、食育体験（カレーライス）○昼食時の食育指導（なるべく残さずに食べる指導）○省エネへの取り組み（水、照明、エアコンの温度管理、窓ガラスの遮光フィルム）、天気の良い日は保育室の照明を半分に、不要な照明のこまめな消灯 ○LED電灯、電球の使用 ○廃材や自然物を利用した製作活動 ○ごみの分別、減量化（イベントの際は保護者にも呼びかけ） ○印刷物の両面使用、裏紙や使用済み封筒の再利用 ○印刷物の部数の適正化 ○プリンターインクカートリッジの回収 ○落ち葉を利用した腐葉土作り ○園庭の一部芝生化 ○グリーンカーテンの栽培（ゴーヤ、アサガオ）○緑の植物のあるベランダスペース ○職員のマイ箸使用 ○文具カートリッジの採用（修正テープ、のり、ボールペン等）
日野わかさ幼稚園	○園庭から続く、わかさ山、たけのこ山で遊びながら植物、昆虫、鳥等を観察する ○木の実、葉、枝、花等を使い製作する ○ムクロジの実の外皮をふやかし水の中で泡だてると石鹸のようになる。昔の人たちが、体を洗ったり、洗たくしていた事を知る ○地層の観察とそこから流れる清水とサワガニの様子を見る ○竹の子を掘り、皮をむいたり、切って観察。その後調理し、たけのこごはんを食べる ○植物（チューリップ、ヒマワリ、コスモス）野菜（キュウリ、トマト）の栽培 ○牛乳パック、お菓子の箱、乳飲料容器、ペットボトル等を使った製作 ○水道の圧を調節し、節水指導 ○ごみの分別。年長は3学期にごみゼロマンに来てもらう ○地域の農家の方の指導でお米作りを体験
百草台幼稚園	○ごみゼロマンを呼んでごみ分別を意識するようにしたり、エコクマ、エコアラにも来てもらい、エコな生活を考えるチャンスにする ○植物（チューリップ、コスモス、パンジーなど）の栽培や野菜（トマト、きゅうり、ナス、ピーマン、枝豆、ジャガイモ、サツマ芋）の栽培 ○古紙を利用して、折り紙や製作に使う ○空箱やトイレットペーパーの芯を利用した製作 ○エアコンの設定温度を冬は20℃、夏は28℃にしている。又、使わない部屋の電気はこまめに消す ○水を大切に使う（水圧調節をする）○給食の食べ残しを減らす ○ベルマーク回収 ○LED導入計画

保育園における環境教育の取組

園 名	取 組 状 況
あさひがおか保育園	○節電：使用しない器具の電源は切る。室内にいないときの保育室の電気、扇風機は消す ○エアコンの設定温度に気をつける ○エコアラ・エコクマのイベントを通し、ごみの分別や物を大切にすることなどの意識の啓発 ○園庭や近隣の自然に親しみ、自然物を使って遊んだり製作に利用したりする ○リサイクル材料を使つての製作活動（牛乳パック、ペットボトル、ダンボールなど） ○紙芝居、絵本などを通しての園児への啓発 ○グリーンカーテンの取り組み ○野菜の栽培、収穫を通し食育及び食物を大切にすることを育てる
あらい保育園	○ごみの分別について保育の中でも子ども達に伝え、そこから保護者の意識もより確かなものにしていく ○節水と節電を心掛け、必要に応じて子どもに声掛け、指導などを行っていく ○散歩や園庭での動植物の観察や自然観察 ○野菜や植物の栽培・観察・収穫 ○生ごみや落ち葉を利用した土づくり ○自然物やリサイクル品を使用しての制作活動 ○ゴーヤの栽培など（グリーンカーテン） ○ごみゼロマンのイベントや、絵本の読み聞かせなどの機会を利用し環境への興味関心や「もったいない」の心を育てる
栄光豊田駅前保育園	○LED電球の設置 ○コピー用紙の裏紙の活用 ○こまめに電気を消す ○可燃物と不燃物の分別 ○草花や落ち葉・木の実などを使った製作活動 ○節水
栄光平山台保育園	○ペットボトルのキャップの収集 ○夏プールの水で花の水やり ○ごみゼロマン、エコアラ、エコクマを招いての環境学習 ○ダンボールや雑誌のリサイクル ○LED電球の全照明設置 ○生ごみ処理機の使用 ○落ち葉を利用して腐葉土を作成 ○ゴーヤによる緑のカーテン作製 ○こまめに電気を消す ○コピー用紙の裏面利用 ○可燃物・不燃物の分別
栄光保育園	○可燃物と不燃物の分別 ○コピー用紙の裏紙の活用 ○こまめに電気を消す ○緑のカーテンの作製 ○落ち葉を利用して腐葉土をつくる ○LED電球の設置 ○ダンボールや雑誌のリサイクル ○ごみゼロマン、エコアラ、エコクマを招いての環境学習 ○プールの残り水を利用しての花の水やり ○ペットボトルのキャップの収集
栄光保育園南平分園	○全部屋にLED電球を設置及びこまめに電気を消す ○エアコンの設定温度に気をつける ○グリーンカーテンの作製 ○生ごみ処理機の使用 ○エコキャップ収集 ○コピー用紙の裏面の活用 ○野菜、植物の栽培・観察・収穫 ○リサイクル材料を使つての制作 ○魚の飼育

(3)学校等による環境への取組状況

おおくぼ保育園	□ごみの分別・削減・食べ残しなし等について ○紙芝居・絵本を通し、園児へ啓発 ○ごみゼロマンに来園依頼をし、環境学習を実施 ○給食やおやつの食べ残しをしない様→「もったいない」の意識を持たせていく。□エコ・リサイクル活動について ○牛乳パックや空箱・ペットボトル・裏紙等を再利用 ○プール使用後の水を使つての打ち水・植物へのみずやり ○使用済みの切手の回収 ○うんどう会の保護者競技にてエコクイズを取り入れる ○おたのしみ会にエコクマ・エコアラに来園依頼をし、園児・保護者に啓発 ○節電について ○使用しないコンセントを抜く ○使用しない部屋の電気を消す、又明るい日は窓際の電気を消す ○エアコン室外機に日よけカバー（ひさし）を設置 ○エアコンの温度設定や調節をこまめに行なう
至誠あずま保育園	○エコキャップ収集 ○生ごみ処理機使用 ○遮光カーテン使用 ○野菜を育てている（なす、きゅうり、かぼちゃ、ミニトマト、すいか、苺、ピーマン、さやえんどう） ○チューリップを植える ○園児による花の水やり ○生きもの飼育（メダカ、金魚） ○花を生ける ○節電 ○使っていないコンセントを抜く ○ごみ分別 ○裏紙の利用
至誠いしだ保育園	○ごみゼロマンによる環境学習 ○ごみの分別を徹底している ○生ごみ処理機を設置し、余分なごみを減らしている ○節電を心掛ける。室内にいないときは部屋の電気を消す ○節水をし、手洗い中の水をこまめに止めるよう、子どもにも声をかける ○紙の節約、裏紙の使用 ○食育活動の実施（野菜の皮むき、栽培、収穫）等体験し、食の大切さ、環境の重要さの認識 ○太陽光発電設置
至誠第二保育園	○ごみ分別の徹底と園児、職員への周知 ○食育活動の実施（たけのこ、とうもろこしの皮むき、梅干しづくり、米づくり、野菜、果樹、植物の栽培、収穫）等の体験により、食の大切さ、環境の重要さを認識 ○園庭樹木の落ち葉は腐葉土として、野菜栽培に活用、剪定枝は非常用まきとして備蓄 ○生ごみ処理機で生ごみ減量、そこから出た液肥を栽培に活用。コンポストも活用 ○昆虫、小魚の飼育、観察 ○園庭の芝生整備と雨水利用、刈り芝の堆肥化 ○ゴーヤ、ヘチマ、アサガオのグリーンカーテン作成 ○裏紙利用（コピー、絵画、折り紙等） ○牛乳パック再利用（非常持ち出し用靴入れ他） ○ペットボトルキャップ、使用済切手回収 ○節電、節水対策実施（待機電力削減、エアコンの設定温度、扇風機との併用、節電紙芝居作成、節電伝言板、節電シール作成、食洗機・洗濯機のまとめ洗い他）
至誠第二保育園 日野本町分園	○ごみの分別 ○草花の栽培 ○魚の飼育 ○節電 ○サンシェードの利用 ○緑のカーテン ○裏紙の再利用
しせい太陽の子 保育園	○ごみの分別 ○リサイクル活動 ○テラスでの植物や野菜を栽培 ○節水・節電 ○紙の節約や再利用 ○すだれの利用 ○扇風機とエアコンの併用 ○エアコンの温度設定 ○ペットボトルのキャップ回収 ○廃材、自然物を利用した制作活動
芝原保育園	○豊田の自然豊かな環境に親しみ、遊ぶ ○ごみゼロマンのイベントを通して保護者と共に、ごみの分別、資源の大切を知る。また、食べ物を残さず食べる知識、意識を持つ ○ゴーヤのグリーンカーテンを育て日陰をつくり室温を下げる ○ソーラ発電の使用、生ごみ処理機の使用
しんさかしだ 保育園	○保育の中でごみの分別を子どもたちに伝え、保護者の意識を深めていけるようにする ○節電、節水（意識を高め、大切に作る気持ちを持つ） ○植物を育て、緑のカーテン作製、室温を下げる ○野菜や植物の栽培、収穫体験をする ○リサイクル材料を使って製作活動をする ○冷暖房器具の温度設定をこまめに切り替える
たかはた北 保育園	○ごみ分別 ○自然材料を利用した製作 ○リサイクル製作（ダンボール、牛乳パック、ペットボトル、空き容器など） ○自然環境を活かした遊びを親しむ ○野菜栽培、収穫（トマト、キュウリ、ナス、大根、玉ねぎ、じゃがいもなど） ○グリーンカーテン（ゴーヤ） ○節電、節水、資源の節約、古紙再利用 ○食育活動 ○ベルマークの活用 ○日本古来の行事、季節の行事（十五夜、十三夜、餅つき、七草粥）
たかはた台 保育園	○自然の中でのびのびと遊ぶ ○地域（七生丘陵散策等）の自然の観察活動（生物、鳥、野菜など） ○リサイクル品や自然物等での製作活動、おもちゃ作り、保育用品作り ○ごみの分別、節水、節電の心がけ指導 ○環境に関する絵本の読み聞かせやイベントへの参加（ごみゼロマン・エコクマ環境学習） ○プール使用後の水を使つての打ち水 ○緑のカーテン（ゴーヤ・パッションフルーツなど）の栽培 ○ダンボールコンポストをつかってつくる安心肥料の使用
たまだい 保育園	□自然や鳥に優しい環境作り（命の大切さを知らせると共に生物が住みやすい環境づくりを子ども達と一緒に考えていく） ○花壇作り（全園児でチューリップの球根や菊の苗、あさがおを植えて育てる） ○畑作りと収穫体験（じゃがいも、さつま芋、ミニトマト、ブルーベリー） ○野鳥の巣箱を設置 ○ビオトープの観察や整備 ○自然物や野鳥の観察会 □エコ活動 ○ごみの分別（可燃・不燃・資源ごみ用のごみ箱設置） ○ブルトップと古切手回収箱設置 ○節水、節電、夏場のプールの水再利用（打ち水、植物へまぐ） ○緑のカーテン（ゴーヤ）で西日を遮断 ○牛乳パックやペットボトル、裏紙等の再利用 ○「もったいない」の意識を伝える ○行事を利用して保護者へのエコ啓発（ごみ分別・再利用）

4. 環境への取組状況

つくしんぼ 保育園	○ごみ分別の徹底（極力資源になるよ様に分別）○リサイクル使用 ○園庭内の畑で植物の栽培、さつま芋は茎も収穫し副菜として試食 ○土に触れ、成長を観察する ○朝顔栽培では家庭へ持ち帰り継続して栽培をする ○緑の募金をお願いすると共に年長児が届けに行く ○ごみゼロマンのイベントや製作で廃材を利用しリサイクルの意識を育てる ○チューリップの栽培では咲く時期に園児が鉢を玄関前に移動し近所の方々に見ていただいている ○太陽光発電を取り入れている
とよだ保育園	○自然を身近に感じて遊ぶ（園庭、公園、浅川土手） ○土に触れ、種や苗から野菜を栽培し、収穫の喜びを味わう ○わかりやすい表示でごみの分別を促す ○リサイクル品を製作活動や日常生活に活用する ○グリーンカーテンで室温上昇を防ぐ ○節電、節水、紙の節約に努める ○自然物を利用した制作をする（落ち葉、木の実）
日野駅前かわせみ 保育園	○保育園で給食で仕入れている牛乳の牛乳パックをそのままごみとして出さずに、幼児用の工作材料として使用する ○使用していない保育室や廊下の電気をこまめに消して節電を心がけている
日野保育園	○ペットボトルのキャップ回収 ○ゴーヤ栽培 ○プールの水で園庭水まき
日野第二保育園	○太陽光発電 ○節水・節電 ○自家発電による井戸水（飲料水） ○野菜の栽培（プランター） ○グリーンカーテン作り ○地元での収穫祭（タマネギ、ジャガイモ、ダイコン） ○にわとり、小動物の飼育 ○身近な自然物を使った造形遊び ○ごみの分別（ごみゼロマン来園）
日野わかば 保育園	○太陽光発電（20kW+10kW） ○蓄熱冷房 ○ごみ分別 ○動植物の飼育栽培 ○リサイクル活動（ペットボトルキャップの回収等） ○野菜の栽培・調理 ○節水・節電 ○紙の節約（B5版をなるべく使用） ○園庭芝生化
ひよこハウス 多摩平	○ごみの分別 ○リサイクル品を活用した製作（牛乳パック、ダンボール、ペットボトル） ○食育の取り組み、夏野菜（きゅうり、ミニトマト、二十日大根、枝豆）の栽培と収穫そして皆で食べる ○自然を大切に、身の回りの植物や生きものに関心を持たせる ○ブルーベリーつみ、トマト狩り、さつまいもの苗植え、草取り、収穫、さつまいも料理を皆で食べる ○農家の方々、漁業の方々への感謝の気持ちを育む ○綿の栽培をして作品をつくる
ひよこハウス 豊田	○自然に親しみ、自然を大切にする ○自然物（木の実、枝、落葉等）を使った制作 ○畑で野菜を栽培し、収穫の体験。食育への取り組み ○ごみ分別 ○牛乳パック ペットボトル 空容器などを利用した制作 ○水、電気の大切さを教える ○ベルマークで教材購入
ひらやま保育園	○園児に不燃・可燃ごみの分別について知らせる ○保育の中で自然への興味・関心を高める ○節水・節電に努める ○じゃが芋やさつま芋、夏野菜の栽培・収穫を食育体験に取り組み ○ゴーヤ、あさがお、へちまを利用した“みどりのカーテン”を設置する ○リサイクル品を利用した制作活動に取り組み ○日々の保育活動報告や園便りにて、保護者に環境への取り組みを知らせる ○園児に、ごみゼロマンによるイベントや、環境に関する本の読み聞かせを行なう ○すだれやよしずを使って、日よけを設置する ○必要でない箇所での照明を消して、節電する
万願寺保育園	○「ナイス！エコ」の声掛けを通したエコ教育 ○ハンカチ使用を促す（紙ペーパーの使用を減らす） ○ごみの分別 ○ごみの減量（生ごみ処理機使用）（腐葉土作り） ○ベルマーク参加、リサイクル活動（牛乳パック、インクカートリッジ、キャップ、切手、ダンボール） ○節電、節水（雨水の再利用） ○花、野菜、米栽培、収穫による食育活動 ○小動物の飼育 ○散歩等から環境にある物、変化を知る
みさわ保育園	○グリーンカーテン作り（ゴーヤ・朝顔・フウセンカズラ）で節電対策 ○雨水やプールの水で花の水やり（節水対策） ○給食室の生ごみの再利用⇒土の再生化（土づくり）⇒栽培活動 ○ごみゼロマン・エコクマ&エコアラによる環境学習（ごみの分別・物の大切さの意識づけ） ○うがい・歯磨き・手洗い時の水の出し方で節水を心がける ○牛乳パックやペットボトル・ダンボール箱の再利用 ○行事（保護者参加行事）で環境にやさしい生活の知恵を発信する内容を工夫・企画する ○絵本や紙芝居などで環境学習を働きかける
みなみだい 保育園	○つる状植物を育てて、グリーンカーテンをつくる ○職員の手作り教材を用いた環境学習を通じて子どもたちの意識を高める ○牛乳パックやペットボトルを使った製作物や行事等で使うダンボールの共有や再度リサイクルして使う ○職員、子ども一緒に節電・節水に取り組む
むこうじま保育園	○可燃物と不燃物の分別 ○コピー用紙の裏紙利用 ○生ごみ処理機利用 ○野菜の栽培 ○地元での収穫祭 ○子どもたちへのごみ分別を伝えている（ごみゼロマン来園） ○節水・節電 ○リサイクル製作 ○LED電球一部設置 ○散歩や園庭での動植物の観察 ○食育活動 ○伝統行事 ○老人施設への訪問
もぐさ台保育園	○牛乳パックやペットボトルなどを用いての製作活動 ○ごみの分別や減量について、自主製作のパワーポイントを用いての説明やごみゼロマンによる環境学習 ○給食から出る野菜くずや落ち葉などを利用しての堆肥作り ○グリーンカーテン作りや野菜作りと収穫の体験 ○節水・節電 ○散歩を通じて自然に親しみ、自然を利用して学ぶ ○紙芝居や、絵本を通して、子ども達へ啓発

(4) 大学による環境への取組状況

実践女子大学の環境への取組

〒191-8510 日野市大坂上 4-1-1 (042-585-8817) URL <http://www.jissen.ac.jp>

実践女子大学は、平成 26 年 4 月に文学部、人間社会学部及び短期大学部が渋谷校地に移転しましたので、現在、日野大坂上校地では、生活科学部のみが教育を行っています。学生数が 3 分の 1 になりましたので、本来、消費電力は大幅に削減されるのですが、移転に引き続き既存校舎の改修、除却工事を実施するとともに、この 3 月から新講義棟の建設を開始しましたので、残念ながら、消費電力の削減はまだ十分ではありません。現時点で、契約電力については工事の関係から、これまでの 1200kW から下げることができておりません。なお、改修及び新築する施設・設備については、省エネ機器の導入を図っていますので、最終的に 1000kW 程度の契約電力とする予定です。

日野市神明校地にあった短期大学校舎については、旧耐震基準で建築された昭和 50 年代の旧校舎を全面的に解体・除却しました。現在、短期大学部グラウンドとしての整備をほぼ完了し、電力の消費は、街灯及び警備等に係る電力のみとなりました。神明校地のこれまでの契約電力 460kW から、ほぼ 90%以上の電力が削減されました。

日野駅前にあった生涯学習センターも大坂上校舎に移転しましたので、現時点で日野市内の実践女子大学の電力消費は、平成 25 年度までより、ほぼ 50%近い削減されています。

日野市大坂上校地に平成 26 年 4 月に開設した生活科学部現代生活学科では、「環境教育」も柱の一つとなっており、農業を中心として日野市内の団体と連携した活動を推進し、特に、平成 27 年度 4 月からは農水省の支援を得てさらなる活動の拡充を目指しています。

首都大学東京日野キャンパスの環境への取組

〒191-0065 日野市旭が丘 6-6 (042-585-8610) URL <http://www.sd.tmu.ac.jp/>

公立大学法人 首都大学東京 日野キャンパスでは、教員、職員、学生だけでなく、生協や清掃事業者などの関係者を含むこれらすべての人々が、立場を超え同じキャンパスに生活する一員として、自然環境と人間環境の両立に配慮したエコキャンパスの整備と未来を志向したエコライフスタイルの実践に、ともに取り組んでいます。

教職員や警備事業者などの関係者は、夏季における節電対策のライフスタイルの実践として暑さをしのぎやすい服装での執務を行う「夏のライフスタイル」を行っています。

また、首都大学東京全体で、環境に配慮又はそれに寄与するための研究活動の推進、高い環境意識を持った学生を社会へ輩出する活動として「エコキャンパス・グリーンキャンパス」を推進しており、日野キャンパスにおいても推進部会を置いて、具体的な取り組みを検討及び実施しています。

平成 26 年度は、学生主体の環境保全活動を進めるため、一部の研究室で学生をエコリーダーとする取り組みを試行的に実施しました。

平成 26 年度の省エネルギー施策（抜粋）

- ・空調機器の利用制限や温度設定により電気ガス使用量を削減
- ・エネルギーの「見える化」の一環としてエネルギー使用量をホームページに掲載
- ・ポスターによる節電等の啓発強化
- ・学内で不用となった物品の斡旋（リユース）
- ・一般財団法人省エネルギーセンターの省エネ診断受診

4. 環境への取組状況

明星大学の環境への取組

〒191-8506 日野市程久保 2-1-1 (042-591-5111)

URL <http://www.hino.meisei-u.ac.jp/>

明星大学は、2010 年度に日野市、明星大学、東京都の間で「東京グリーン・キャンパス・プログラム」の協定を結んで以来、日野東光寺緑地保全地域を活動フィールドとした授業及び学生のサークル活動を行って来ました。2010 年 12 月に発足した明星大学緑地環境ボランティアサークルクローバーの部員も当初の 3 名から 20 名以上に増え、月に 1 回の緑地管理ボランティアの会の活動に、学生ボランティアとして参加しています。定例活動では、竹や樹木の伐採を行なう他、季節の行事として筍掘り等も実施しています。

10 月 19 に環境・生態学系 1 年生の 45 名が授業の一環として緑地保全活動を行いました。活動は 5 名～6 名で 8 班に分かれ、各班にはクローバーの 2～3 年生が T A として 1 名配属され、緑地管理ボランティアの会の方に先生になっていただいてモウソウチクの伐採や下草刈りを班ごとに行いました。林床部が一面モウソウチクに覆われ生物の多様性が失われていたため、本活動により、絶滅が危惧されている希少種の生育環境が整備されました。

1 年生の授業で緑地保全を経験した学生の中から毎年数名、クローバーへの入部希望者が出てきます。特に環境・生態系の学生の縦の繋がりが継続されていることは学生にとっても魅力的なことです。

緑と清流の町、日野市での緑保全の取り組みの経験を活かし、緑関連のコンサルタントや市役所に就職して活躍している学生も増えてきました。クローバーの部員は毎年 3 名程度、日野市環境情報センター主催の雑木林ボランティア講座を受講しており、修了証をいただいています。日野市民の方々と交流しながら、市内に残存する貴重な緑を守る活動に参加した経験は、社会人になっても活かしています。

(5) 事業者による環境への取り組み状況

日野市環境基本計画ではその主体を市民、民間団体、事業者、市の四者としています。2002 年度に国内でも先進的な取り組みとして、事業者自らがその事業内容を地域に積極的に公開する「リスクコミュニケーション」を始めたことをきっかけに、白書でも市内の事業者の環境への取り組みを掲載しています。

(株)いなげや 環境への取組

〒190-8517 東京都立川市栄町 6-1-1(本社) (042-537-5111)

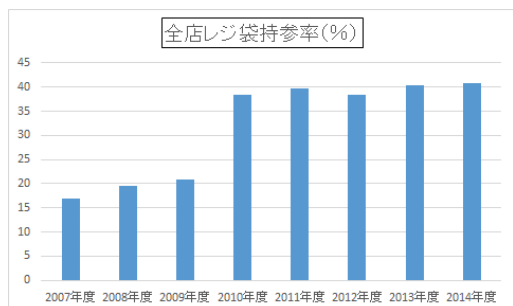
URL <http://www.inageya.co.jp/>

いなげやの環境問題への取り組み

レジ袋有料化の取り組み

日野市・杉並区の店舗におきまして各行政と地域のお客様のご協力のもと“レジ袋無料配布中止”を実施しております。

マイバックをお持ちでないお客様には繰り返し使えるレジ袋を 1 枚 5 円で販売しており、販売でえられました益金金額で、近隣の小学校に環境教材を寄贈致しております。



日野3店舗のいなげやのレジ袋持参率
2015年3月度実績は
84.8%

店別削減実績データ(累計)				(15'3月時点)
	レジ袋削減枚数(枚)	CO2削減量(kg)	石油換算量(%)	杉1本換算(本)
日野駅前	2,226,373	138,035	40,743	9,860
日野栄町	2,484,041	154,631	45,641	11,045
日野万寿寺	4,622,277	286,581	84,588	20,470

アイバスケットの推進

アイバスケットは精算後詰め替える手間もなく、そのままお持ち帰りできる便利なものです。



アイバスケットをもっていざげやに



アイバスケットを店内のかごと重ねてお買い物



レジ精算でアイバスケットに商品を移します。
支払い済みのしるしをつけてそのままお持ち帰り

食品リサイクルへの取り組み

H. 27 年 5 月現在、94 店舗で食品残渣のリサイクルを実施しています。
店舗より野菜屑やパンなどを分別回収し、飼料（豚の餌）、たい肥、屋上緑化用の人工土壌に再利用しています。
もちろん日野市にある 3 店舗も実施しております。

作業場での分別回収を実施



野菜屑やパン等から豚の餌に



従業員への啓蒙活動



マイバッグ持参活動

マイはし運動

今日は歩こう

ノーカーデー

環境にやさしいバイオマスパックを使った商品



食卓応援セレクト味い赤たまご

「味い赤たまご」には、バイオマス（植物等）から作るバイオマスプラスチック“ポリ乳酸”でできたパックを使用しています。バイオマスの炭素は、もともと大気中の二酸化炭素を植物が光合成により吸収（固定）したもので、燃焼等により二酸化炭素が発生しても、実質的に大気中の二酸化炭素を増加させません。そのため、バイオマスプラスチックの利用は、化石資源の節約や地球温暖化防止に役立ちます。

グリーンプラ包装商品の販売

自然界に豊富に存在する微生物などの働きによって、分解し最終的には二酸化炭素と水にまで変化する性質を持つプラスチックです。



バイオマスとは

再生可能な、生物由来の有機性エネルギーや資源（化石燃料は除く）をいうことが多い

すこやけくの森



東京都青梅市に開設した「すこやけくの森」は、弊社経営理念「お客様の健康で豊かな、暖かい日常生活と、より健全な社会の実現に貢献する」を具現化すべく、10 年にわたり整備費を負担し、森林の整備活動として毎年 2 回、春と秋に「下刈り会」を実施。グループ新入社員を中心に、毎回約 100 名が参加し、森の育成を見守っています。

4. 環境への取組状況

コニカミノルタ東京サイト 環境への取組

〒191-8511 日野市さくら町1番地 (042-660-9426)

URL <http://konicaminolta.jp>

コニカミノルタグループの取り組み

コニカミノルタグループは、持続可能な地球・社会の実現に貢献し、グローバル企業としての責任を果たすために、2050年までに実現すべき姿を示した長期環境ビジョン「エコビジョン2050」を策定しました。

「エコビジョン2050」の実現に向けたマイルストーンとして「中期環境計画2015」を策定し、さまざまな施策を推進してきました。「2015年度目標」については、2013年度時点で半数以上の項目が目標を達成し、残りの項目についても目標達成の見込みが立っています。そこで、2014年度からは新たに、2016年度をターゲットとする「中期環境計画2016」を策定し、取り組みを進めています。2016年度には製品ライフサイクルにおけるCO₂排出量を40%削減することを総合目標として目指します。

東京サイトの取り組み

～東京サイト日野「救いの泉」から水供給など、地域の災害対応を支援～

東京サイト日野は、地下約150mの深度に到達する井戸を13本保有し、汲み上げた地下水を主に生活用水（飲料水、手洗いなど）として利用しています。当地は、多摩川と浅川に挟まれ、富士山系の豊かで清浄な深層地下水資源に恵まれた立地条件にあります。

東京サイト日野では、「救いの泉」として、1本の井戸について停電下でも揚水井戸やろ過・殺菌装置を稼働できるように構内の自家発電装置を増強し、日野市及び日野市立病院と、災害時協力協定を締結しました。この協定のもと、地震などの災害時に以下の協力を行います。

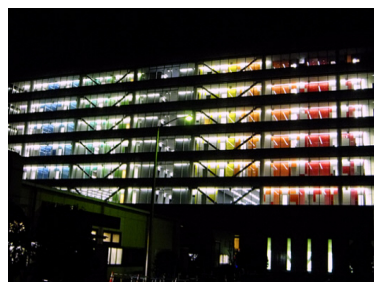
1. 日野市立病院に対する、東京サイト日野「救いの泉」の井戸水の提供
2. 近隣住民に対する飲料水、生活用水の提供
3. 日野市または日野市立病院に対して、避難場所として敷地内のグラウンドと体育館の提供

～東京サイト八王子「八王子研究開発新棟」オープン～

5月にオープンした八王子研究開発新棟は、省エネルギー型研究開発オフィスとして、太陽光パネル設置による電力負荷低減、屋上緑化による空調電力削減、井戸水や雨水の空調・トイレへの活用等、様々な工夫により自然環境にやさしい建物になっています。



開発新棟



開発新棟(夜)

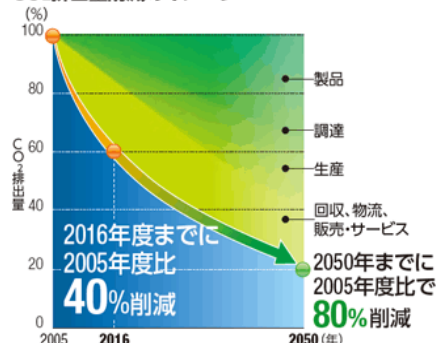
エコビジョン2050

1. 製品ライフサイクルにおけるCO₂排出量を、2050年までに2005年度比で80%削減する。

2. 限りある地球資源の有効活用の最大化と資源循環を図る。

3. 生物多様性の修復と保全に取り組む。

CO₂排出量削減のイメージ



「救いの泉」給水施設

供給可能量：飲料水 約700トン／日
生活用水 約3,000トン／日

GEヘルスケア・ジャパン(株) 日野本社・工場 環境への取組

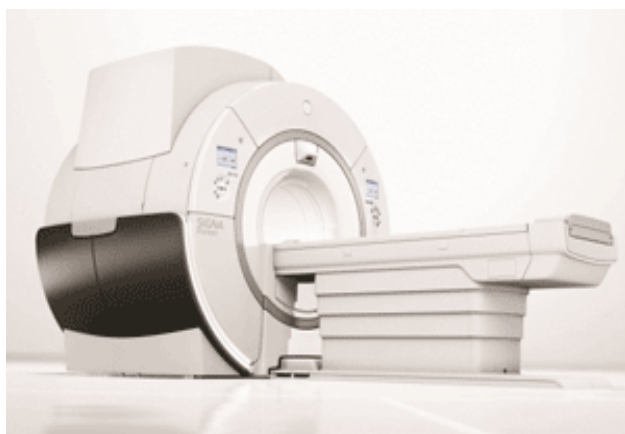
〒191-8503 日野市旭が丘 4-7-127 (042-585-5111) URL www.gehealthcare.co.jp

1. 地球温暖化ガス削減プロジェクト

GEヘルスケア・ジャパン日野工場は、築 25 年の本社工場を継続的にリニューアルしています。2014 年に 3 階フロアを全面リニューアルし、環境的にはLED照明化、全館空調から個別空調への変更を行いました。廊下の一部は人感センサー式LED照明を導入し、エコロジーでありながら、従業員が快適に業務遂行できる職場環境を構築しました。全従業員一丸となった環境改善活動と施設のリニューアルが功を奏し、2014 年には地球温暖化ガスの排出を 35%削減することができました。(対 2005 年比)

2. 環境配慮型 MRI (磁気共鳴断層撮影装置) SIGNA Pioneer

日本の技術と経験を結集した、新型MRI を発売しました。
環境的には、消費電力を約 50%削減(*当社比較)、スリープモードを搭載して、無駄な電力消費を削減可能にしました。さらに電気系コンポーネントの総重量を 32%削減(自社従来品比)し、製品輸送等への環境配慮を図っています。



3. 太陽光発電システムの設置

日野工場の屋上に 58kW の太陽光発電システムを設置し、2014 年 11 月より発電を開始しています。

58kW は、およそ一般家庭 18 軒分の電力を賄うことが可能な発電システムです。

その特徴は、東京都がリードしている「屋根から」を利用し、コスト 0 円で設置したことです。多摩電力(多摩市)と提携し、電気の地産地消を進め地球温暖化ガス低減に邁進しています。



GEヘルスケア・ジャパンは、今後も、環境に対する取り組みを推進してまいります。

4. 環境への取組状況

(株) スーパーアルプス 環境への取組

〒192-0011 八王子市滝山町 2-351 (本社) (042-692-2739) URL <http://www.superalps.co.jp>

当社では、環境への取り組みとして、大きく分けておもに、次に挙げる2つの面で推進しております。

1. 省エネルギー、省資源の取り組み

2. 廃棄物の削減、リサイクルの推進

まず、ひとつめの省エネルギー、省資源についての中心となるのが節電対策です。既存店舗の改装においては、①LED照明への切り替えによる節電。②省エネルギー型の冷蔵ケース導入による節電。③空調設備の更新。この3点を柱に店舗の省エネルギー化を推進しています。店舗によりですが、改装前と比較して消費電力で概ね30%の削減を目指して導入を進めています。他、一部店舗におきましては、太陽光発電パネルを設置しております。こちらは、設置場所の制約もあり、大幅な発電効果を生み出す設備ではありませんが、自己消費として活用し、いくらかの節電効果に貢献しています。また、店舗改装を伴わない店舗においても、照明のLED化を、少しずつですが推進しています。他、店内のエアコンについては、夏の高稼働時期を前に、専門業者による内部洗浄を行い、効率化に努めています。

次に、ふたつめの、廃棄物の削減、リサイクルの推進についてです。現在、分別・再生を行っているものとして、食品残渣、プラスチック、ペットボトル、ペットボトルキャップ、食品トレイ、たまご容器、牛乳パック、空き缶、段ボール、紙類、発泡スチロールがあります。従業員への啓蒙活動をさらに進めて店舗内でのリサイクル率向上に努めていきたいと考えております。また、店舗への納品形態について、定期的に繰り返し取引のある業者様につきましては、可能な範囲で、コンテナによる納品を推進していただいております。他、エコバック・マイバック持参によるレジ袋辞退に対して、2ポイント（2円相当）のポイント付与を継続して実施し、レジ袋の削減に努めています。

セイコーエプソン(株)日野事業所 環境への取組

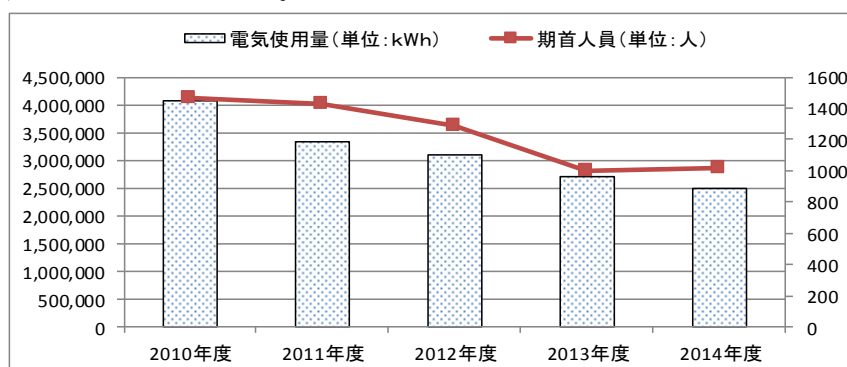
〒191-8501 日野市日野 421-8 (042-586-6226) URL <http://www.epson.jp/SR/environment/>

セイコーエプソングループでは、『省・小・精の技術を基盤として、商品・サービス、生産、販売すべてを通じ、環境への負荷低減をお客様にとっての価値として提供する』を中期方針とし、年度毎に計画される『全社環境総合施策』に基づき、各事業体・各社が環境活動の推進に取り組んでいます。

当事業所はセイコーエプソンと非製造系のグループ会社2社で構成されており、各社の専門分野における環境活動は各社それぞれの業務の中で推進し、当事業所全体での環境活動は各社共通課題の「省エネ」、「省資源・再資源化」、「地域社会貢献」を3本柱として、連携・協力して推進しています。

1. 省エネ活動

東日本大震災の影響による電力供給不足を契機にスタートした『緊急省エネ活動』を現在もグループ全体で継続中です。当事業所においてはグループ3社の連携・協力のもと、業務体制の見直しによるスペース集約、基礎設備の稼働制限・一部更新、空調管理の徹底（夏期28℃、冬期20℃設定）、定時退社日の徹底等による節電対策およびこまめな照明消灯等による職場における全従業員参加の節電活動を展開し、2014年度は電気使用量を2010年度比で39%削減することができました。



2. 省資源・再資源化

事業所から排出される廃棄物の約 6 割が紙類で、そのほとんどを再資源化しています。また、印刷環境の見直しと最適化の推進により、排出量の減量化にも努めています。一方、再資源化できない可燃ごみ（不衛生なごみ）については、1 人 1 日あたりの排出量の目標値を 14.5 g 以下と定めて排出量の抑制に取り組み、2014 年度は年間平均値で 14.2 g という成果をあげることができました。

3. 社会貢献活動

春・秋 2 回の日野市内一斉清掃への参加、地域公共団体での役員活動、エコキャップ活動、特別支援学校、中学校の職場体験実習受入、フットサル大会への協賛および地域自治会との交流等、地域との共存に重点を置いた社会貢献活動への取り組みを推進しています。

また 2012 年度からは、ベルマーク運動への支援拡大を図るため、使用済みとなった当社製インクカートリッジとトナーカートリッジの回収を当事業所内でもはじめました。当事業所に勤務する従業員のみならず近隣住民の方やお客様のご協力もあり、2014 年度は 19,065 ポイントをベルマーク財団経由で寄贈し、資源の有効活用と廃棄物の減少による地球環境保全を図りながら、教育支援という社会貢献活動への参画を実現しております。



東京ガス株式会社 環境への取組

〒192-0071 立川市曙町 3-6-13 (042-526-6125) URL <http://www.tokyo-gas.co.jp>

東京ガスは事業活動における CO₂排出の抑制、および、お客さまのエネルギー利用における環境負荷の低減に努めています。お客さまのエネルギー利用に伴う CO₂排出の抑制対策として、環境性に優れた天然ガスの利用促進や高効率機器の開発・普及に積極的に取り組んでおり、天然ガスコージェネレーションシステムによる分散型エネルギーシステムの普及拡大、太陽光・太陽熱・バイオマスを始めとする再生可能エネルギーの利用促進、潜熱回収型給湯器「エコジョーズ」等の省エネ機器の普及促進により、環境負荷低減に貢献しています。また、地域全体の効率化としてスマートエネルギーネットワークの構築に取り組むと共に、次世代へのエネルギー環境教育にも力を入れ、低炭素社会の実現に貢献してまいります。

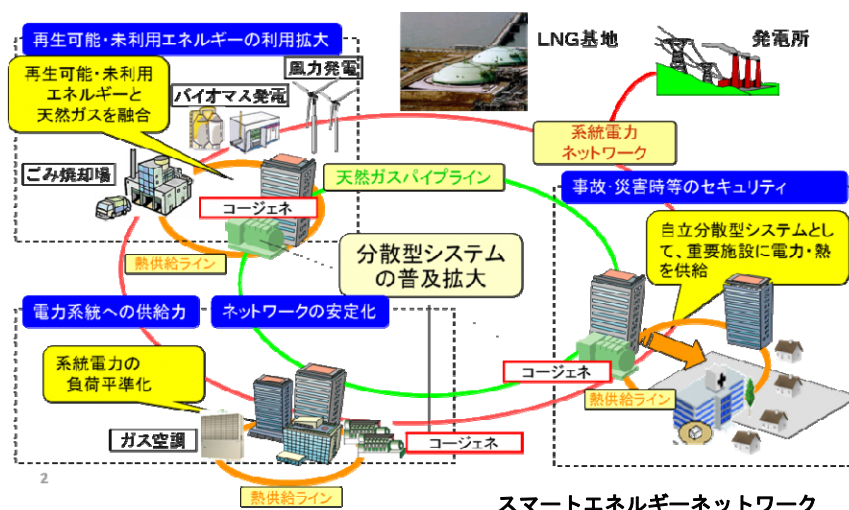
1. 家庭での取り組み 「エネファーム・エコジョーズなど省エネ機器の普及促進」

都市ガスから取り出した水素と空気中の酸素との化学反応で発電する、家庭用燃料電池「エネファーム」。発電時の廃熱を利用し、お湯を作るガスを削減できるため、エネルギーを効率的に利用でき温暖化対策の切り札として期待されています。給湯器では、熱効率が95%まで向上した「エコジョーズ」が省エネ・CO₂削減に貢献しています。また、身近にできる省エネのコツや省エネ機器の選び方などの情報提供を行ないお客さまの省エネ活動を推進しています。

2. 地域全体の効率化の取り組み 「スマートエネルギーネットワークの構築」

スマートエネルギーネットワークは、既存の都市ガス・電気のネットワークと、高効率コージェネレーションなどの分散型エネルギーシステム、太陽光・太陽熱などの再生可能エネルギー、廃熱などの未利用エネルギーを組み合わせ、ICT（情報通信技術）を使って建物単位、地域で面的に最適利用し、省エネ・省CO₂を図り、事故・災害時等のセキュリティ向上を可能とする次世代のエネルギーシステムです。この実現に向け、さまざまな技術が研究・開発され、複数の地域や街で導入を開始しています。

4. 環境への取組状況



3. 市民への環境情報等の提供や小・中学校での出張授業の実践

東京ガスは日野市の環境イベントへの参加やエコ・クッキングの講座開催、小中学校への出張授業、企業館での校外学習等を通じてエコライフや省エネの生活提案を行っています。これからも人と環境に優しい活動を実践・支援してまいります。

日野自動車㈱ 環境への取組

〒191-8660 日野市日野台 3 丁目 1 番地 1 (042-586-5563)

URL <http://www.hino.co.jp>



写真:左から、大型観光バス「日野セレガ ハイブリッド」、大型路線バス「日野ブルーリボンシティ ハイブリッド」、中型トラック「日野レンジャー ハイブリッド」、小型トラック「日野デュトロ ハイブリッド」

日野自動車は、「豊かで住みよい地球をめざし、新たな価値を創造し続ける」という企業理念のもと、環境保全を経営における重要課題と位置付け、積極的な活動を推進してきました。地球規模で進む地球温暖化や環境汚染を低減していくことは人類共通の課題です。

そのようななかで日野自動車も事業活動のグローバル化を進め、果たすべき社会的責任も大きくなっています。「社会・地球の持続可能な発展」のためにも、全員参加で継続的に社会貢献や環境保全に取り組んでいます。

1. 製品開発における環境への取組

日野自動車は1991年、世界で初めてハイブリッドバスを商品化・販売して以来、常に業界をリードしてきました。

2013年10月には、日野が長年にわたって培ってきたノウハウを結集しプラグインハイブリッドバスを開発しました。

今後も、日野自動車が持つ技術力を活かし、燃費を飛躍的に向上させた商品を世界に提供することにより、環境保全に貢献できると考えます。

2. 生産活動における環境への取り組み

生産活動においても日野自動車はCO₂削減、資源の有効利用 など環境に積極的に取り組んでいます。

その一例として工場やラインの新設時には、企画・設計段階から「順法」「環境リスクの未然防止」「環境パフォーマンス向上」を追及したエコファクトリー活動を通じて環境に配慮した工場設計を行っています。

また、5カ年毎に環境取り組みプランを作成し、グループ会社と一体となって、CO₂、排出物、化学物質等、それぞれの削減シナリオに基づいた改善活動を推進しています。

現在は2011年より2015年までの取り組み計画として『第5次環境取り組みプラン（2015年プラン）』を推進中です。

3. 地域社会との交流による環境への取り組み

日野自動車は、工場の操業について周辺住民の皆様のご理解を得るため、日野工場をはじめ、地域社会との情報交換会や地域行事へ参加したり、懇親会を定期的を開催してコミュニケーションを積極的に行っています。

富士電機（株） 東京工場 環境への取組

〒191-8502 東京都日野市富士町1番地 (042-583-6115) URL <http://www.fujielectric.co.jp>

富士電機では全社の環境方針として「環境ビジョン2020」で

- 1) 地球温暖化防止：事業活動と製品でのCO₂排出量削減。
- 2) 循環型社会形成：事業所のゼロエミッション、環境への貢献製品の拡大。
- 3) 企業の社会的責任：自然保護活動、環境教育を通じた環境意識の向上。

の3点を重点テーマとして掲げ、事業活動、製品、地域の皆様との関りに於いて環境活動を進めています。

東京工場地区は、「電力、公共、産業および環境分野向け装置・システム製品の開発、設計、技術、製造、検査、サービスおよび研究開発」が主力事業です。我々が取り組んでいる環境活動の一例をご紹介します。

■ 地球温暖化防止：製品でのCO₂排出量削減

コンピュータを使う部屋の空調設備ではモジュール型データセンター(図1)にすることで従来型に比べ年間約156tのCO₂排出量削減を実現し、地球温暖化防止に貢献しています。

■ 循環型社会形成に貢献する事例

事業所のゼロエミッション：廃棄物について埋立量/総排出量の比を当社全体の目標値0.5%以下に対し実績0.04%と大幅に達成しました。

環境への貢献製品：東京工場地区では大気中に浮遊する微細な粒子（エアロゾル）として、近年注目されているPM2.5（直径2.5μm以下）に含まれるブラックカーボン、硝酸塩、硫酸塩の質量濃度を測定する分析装置を開発中です。（写真1）従来のPM2.5自動計測器では、質量濃度を計測するだけでしたが、本装置では、PM2.5を捕集分離し、ブラックカーボン、硝酸塩、硫酸塩の質量濃度を15分周期で自動定量分析を可能としています。成分分析を短時間で実施することによりPM2.5の発生メカニズムや発生源推定の重要なデータとして利用されることが期待されています。

■ 環境活動の事例

地球温暖化防止活動の一環として、東京都環境確保条例のCO₂総排出量6%削減に対し実績9%削減となり第1計画期間の目標を大幅に達成しました。CSR活動では、裏高尾の森の再生活動として「高尾の森づくりの会」（写真2）に長年関わり、広葉樹の苗木を植え

4. 環境への取組状況

生物多様性や浅川の水源かん養に貢献しています。また、地域の皆様との関わりでは地域清掃活動として年2回の日野市一斉清掃及び独自に豊田駅周辺の清掃活動を行っております。

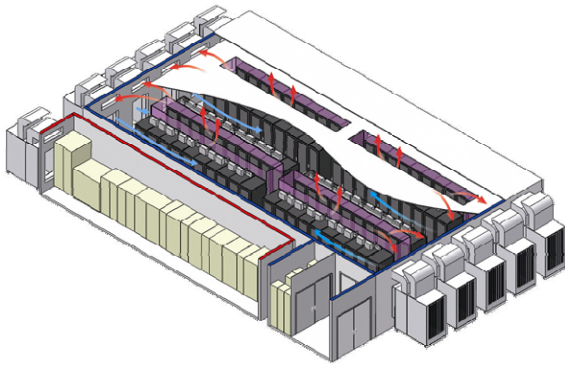


図1 モジュール型データセンター



写真1 エアロゾル成分分析計



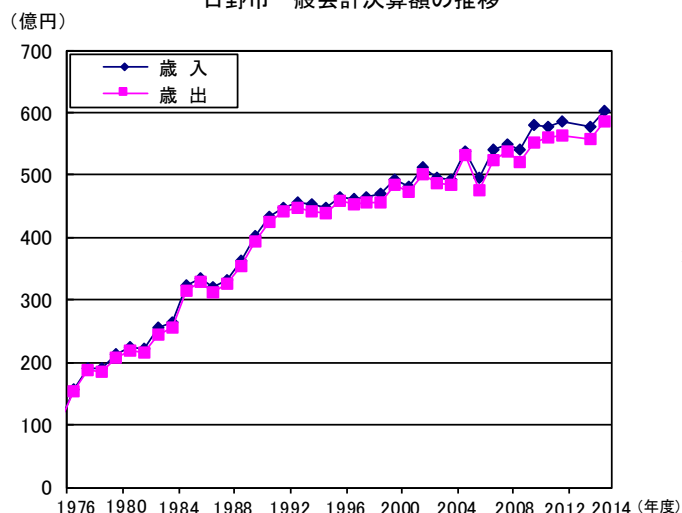
写真2 高尾森づくりの会植樹祭

5. 環境関連決算額（2014 年度）

関連分野／項目	2014 年度
環境緑化基金積み立て	53,000
農業体験等推進事業	51
農業改善	229
振興対策	6,793
市民農園育成	7,509
援農制度育成	517
都市農業シンポジウム	154
ブルーベリー加工支援	0
認定農業者支援	1,036
援農ボランティアコーディネート事業	70
日野産ブランド支援事業経費	207
学校給食用地元野菜等供給支援	5,022
農業・農地を活かしたまちづくり事業	0
まちづくり計画	15,621
開発指導・地区計画関連	190
公園管理	99,434
公園整備	316,063
緑化推進事業	24,385
緑の保全事業	12,209
校庭芝生化整備経費	36,659
七生丘陵の自然と歴史調査事業	164
中央公民館成人事業経費	224
し尿処理施設経費	9,227
し尿収集	32,777
し尿処理施設整備	90,420
水辺管理	412
普通河川管理	663
清流啓発事業	2,294
雨水浸透施設設置	633
河川維持管理	143,002
河川新設改良	2,024
下水道事業繰出金	1,947,140

関連分野／項目	2014 年度
ごみゼロ・リサイクル推進	21,644
クリーンセンター維持経費	72,602
ごみゼロ施策推進事業	122,000
資源回収奨励事業	15,333
資源物回収事業経費	376,525
容り法関連事業経費	35,567
資源有効利用促進法関連事業	98
生ごみリサイクル事業	2,319
広域処分組合	439,205
ごみ処理施設維持	132,298
ごみ処理施設整備	76,290
ごみ焼却施設延命化対策	209,790
可燃ごみ収集	347,179
粗大ごみ収集	54,789
不燃ごみ収集	178,939
動物死体収集	2,074
ごみ焼却施設運転管理	123,660
ごみ処理施設排出物調査経費	2,173
ごみ処理施設周辺環境整備経費	0
ごみ処理施設建設準備経費	167,801
(仮称)発達支援センター新築工事	0
ふだん着で行う CO ₂ 削減事業	9,722
自転車対策	55,328
交通網整備支援	94,127
生き物共生事業	2,396
喫煙マナーアップ経費	363
空き地環境保全経費	16
市内一斉清掃事業	1,601
公害対策費(人件費除く)	5,248
環境審議会事務経費	142
環境保全推進経費	520
環境情報センター経費(人件費除く)	2,453
合 計	5,360,331

日野市一般会計決算額の推移



日野市一般会計決算額の推移

2014 年度一般会計決算額

歳入 60,354,028,961 円

歳出 58,472,415,429 円

日野市一般会計決算額は(歳出)4.6%増。

環境関係決算額は6.3%増。

<主な増加予算>

増加 ・ ごみ処理施設建設準備経費

新規 ・ 落川緑地整備事業経費

<主な減少予算>

・ (仮称) 発達支援センター新築工事

6. 市役所の環境配慮の状況

(1) 日野市環境マネジメントシステム

－ 日野市の事務事業における環境負荷の低減と環境保全への積極的な貢献を行う仕組みを確立し、運用することを目的とし、導入しています。 －

<これまでの経過>

2000 年度	日野市環境方針制定、マネジメントシステム運用開始、ISO14001 認証登録
2003 年度～ 2007 年度	生活・保健センター、防災情報センター、水道事務所、建築指導課、環境情報センター、郷土資料館、中央公民館、高幡台分館、図書館（全館）を適用範囲に加えた。
2011 年度	クリーンセンター事務所を加えた。
2012 年度	認証期間の満了に合わせて ISO14001 自己適合宣言に移行（12/6）※
2013 年度	2014 年度導入予定の独自 EMS の構築に向けて準備
2014 年度	日野市独自の環境マネジメントシステム「ひのエコ」に移行

※自己適合宣言とは、外部機関からの認証ではなく、自らがシステムに適合していることを宣言するもの

<環境マネジメントシステムでの取組>

毎年度、各部署の事務事業がどれくらい環境に影響を与えるかを調査し、その結果を基に具体的な目標・目的を設定して各部署が取り組むプログラムを作り実行します（2014 年度は 62 プログラムを実施）。そして、各プログラムの達成状況を四半期ごとに評価し、進捗状況に応じて取り組み方法を見直すなどの改善を行い、目標の達成に向けて行動しています。

<取組のチェック及び評価制度>

1 年に一度、環境監査を実施しています。これは、環境監査員に任命された職員が各職場に入り、各課の取組（プログラム）状況や、決められた手順に従い実施しているかをチェックするものです（2014 年度は 7 月 9 日、10 日実施）。2014 年 4 月に日野市独自の「ひのエコ」に移行しました。これは、環境方針に基づくシステムに関する事項を定め、日野市一丸となった環境改善と管理、維持を行っていくもので、外部機関の検査が無いことから、自己チェックが大変重要となります。



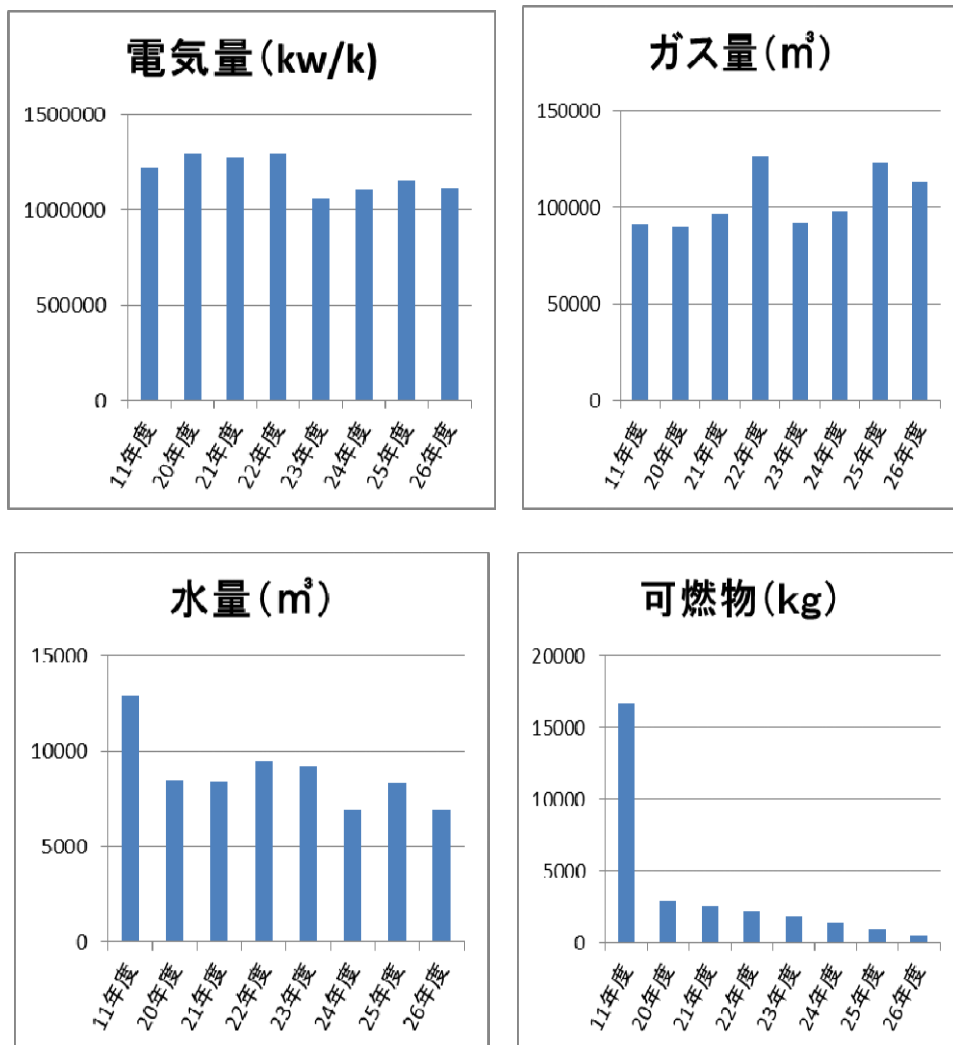
そこで、環境監査の充実を目的に調布市、府中市、昭島市と 2014 年 9 月に環境マネジメントシステムに係る相互環境監査に関する覚書を交換し、4 市での相互監査を行っています。ルールに従い各課が取り組んでいるのかを確認するほか、環境監査としてしっかり機能しているかについても 4 市でお互いにチェックします。

〔クローズアップ優秀部署表彰の取組事例〕

年度	該当部署	取組事例
2014	企画部	【エコドライブを推進し、庁用車の燃費向上を図る】 企画部が管理している庁用車の車検証バッグに燃費計測及びエコドライブを周知するチラシを添付している。
	保育課	【保育園の行事に環境をテーマにしたものを取り入れている】 保育園の運動会でごみ分類の競争を取り入れている。園児が楽しみながらごみ分別のルールを学ぶことができる。（あさひがおか保育園にて実施）

〔環境負荷低減の実績～本庁舎～〕

職員 1 人ひとりの省エネ・省資源の意識と取組が確実に実践してきた結果が下記のグラフに表れています。(グラフ参照)。ISO14001 導入により、本庁舎内にあった冷蔵庫や電気ポット、コーヒーメーカーなどをほぼ撤去するなど、エネルギーの使用削減に向けた徹底した取り組みがスタートしました。その後、土曜開庁や 1 人 1 台パソコンの導入など、エネルギー消費増につながる施策もありましたが、職員は地道な環境配慮行動を実践してきました。東日本大震災の影響による電力の安定供給が危ぶまれた 2011 年の大規模な節電対策に対しても、混乱することなく粛々と取組めたのはこの 12 年間の経験があったからだと思われます。「ひのエコ」に移行した本年は、昨年度より環境負荷を低減させることができました。



※このグラフは、本庁舎におけるエネルギー使用量及び可燃物排出量の推移を表しています。
(ISO14001 認証取得は当初、本庁舎のみ適用のため)

7. 環境基本計画の推進体制

（１）環境基本計画の推進

第2次環境基本計画策定から3年が経過しました。確実かつ継続的に計画に取り組むためには、推進体制の確立が非常に重要です。第1次計画の策定時にも推進体制を整備しましたが、役割分担が明確でなかったこともあり、効果的に進めることができませんでした。その課題を踏まえ、第2次計画では市・市民・事業者の役割を明確にしたうえで、市が進めるべき施策はその主管課が中心となり、市民の皆さんと定期的に検討して進めていく仕組みを整備しました。

現在、みどり分野、水分野、ごみ分野、CO₂分野の4つの分野に分かれ、それぞれの主管課と定期的な会議を開催しています。

先人から受け継いだ豊かな自然を次の世代に引き継ぐために、多くの市民の皆さんと共に取り組んでいきたいと思えます。日野市の自然に関心のある方は、ぜひ各分野の会議に参加してください。

各分野の会議に参加し、計画を推進している市民の皆さんから、これまでの取組状況や課題などを報告します。

【みどりグループ】

重点施策である、緑地の施策「みどり・生き物マップづくり」「残したいみどりの選定」を中心に進めています。農地の施策については別途「市民による都市農業研究会」によって取り組まれています。

緑地の施策「残したいみどり」の活動が「マップづくり」にもつながり、さらに「市民・事業者への情報提供・PR」という施策に展開できることがわかってきました。「残したいみどり」「マップづくり」などの活動について、2015年3月にこれまでの活動の進捗を報告にまとめました。

今後、この成果をもとに、緑地の施策において本質的な課題となることを追求し、活動を継続していきます。

【水グループ】

第2次環境基本計画水分野の推進管理。4項目ある重要項目の一つである「用水の価値の保全・創出」を主として行うこととしました。その他の項目は「水循環に寄与する方策の検討」、「流域連携による活動の推進」、「水辺に親しむ活動の推進」があり、それぞれについて目標を掲げて担当部署が活動しています。これらについても、グループ会合で進捗状況などの検討を行っています。

市の緑と清流課水路係と「用水カルテ策定会議」（水路改修整備保全計画づくり）を立ち上げ、具体的な環境保全のための改修場所や改修内容の検討を図り、施工を進めることを行っています。

合わせて、将来に向けて基本となるべき水の関わる問題点の検討も行っています。

【ごみグループ】

ごみグループとしては、レジ袋削減を中心に、ごみ全般の減量・資源化に取り組んでいる「ごみ減量推進市民会議」と、生ごみリサイクルに取り組んでいる「ひの・まちの生ごみを考える会」が

あります。それぞれごみゼロ推進課と毎月 1 回定例会議を持っています。

前者は、現在、スーパー、市民団体、行政の 3 者で「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を定期的に開催し、5 月と 10 月のマイバッグ持参強化月間には各スーパーの店頭でマイバッグ持参率の出口調査を実施しています。

後者は、その下部組織の「生ごみリサイクルサポーター連絡会」がダンボールコンポストの普及に取り組み、一方、新井の「せせらぎ農園」では生ごみで野菜作りをしています。

【CO₂グループ】

CO₂ グループは現在、市民、事業者、環境保全課と環境情報センターのメンバーを加えて、月 1 回の定例会を開催しています。情報を共有し、施策を具体的に進めることで成果を出そうと努力しています。

日野市環境基本計画の「低炭素社会を築くまち」を目標に、施策を実施・管理する役割を担っています。施策の実施は行政が中心となり、グループも協力する形で、ほぼ計画通り進めています。夏・冬 2 回のエコキングは継続して実施してきました。

新しい試みとして、小水力発電に取り組んでいます。情報収集から始めて、今は手作りの小さな発電機を使って、環境セミナーや展示会でデモンストレーションを行い、市民の皆さんの関心と呼ぼうと努めています。これからは活用方法を探りながら、更なる性能向上を目指します。

(2) 日野市環境情報センターの活動状況

2014 年度の環境情報センターの活動状況は次のとおりです。

① 環境に関する情報の収集・発信

2014 年度までに収集した文献などは右の表のとおりで市民の閲覧に供しています。

館内には市内の川や用水に生息する淡水魚の水槽展示、昆虫の標本や珍しい「モズのハヤニエ」の標本、オオスズメバチなど 4 種類のスズメバチの個体標本や大きなスズメバチの巣の実物展示、樹齢 131 年のサワラの年輪標本（日野市関連年表を表示）、手作りの小水力発電機などを展示しています。

<文献の種類>	累積点数
日野市関係	379
国関係	344
東京都関係	577
都区内・都市町村関係	491
他道府県関係	142
民間企業・大学関係	601
自治体会議・協会・諸団体出版物関係	486
単行本	802
ビデオテープ・CD-ROM・DVD	126
合計	3,948

そのほか環境関連の市民団体が発行するニュースやパンフレット、小学生を対象としたいろいろな図鑑や、専門的な研究に役立つ文献、動植物の生態に関するビデオ・DVD や植物の写真データの画像資料などを常設展示しています。

② 日野市環境白書の刊行

市を取り巻く各種環境問題や定期的に行われている調査結果をはじめ、行政、事業者、市民団体、市内の学校（幼、小、中、高、大学）などの環境保全に対する取組状況について年次報告書としてまとめました。日野市環境白書は毎年 12 月に発行しています。

③ 環境情報センター年報の刊行

環境白書には紙数の関係で掲載できなかった情報の詳しい内容や分析、センターで実施した「環境セミナー」の内容などを年報としてまとめ発行します。

④ かわせみ館フェアの開催

かわせみ館フェアは市内で様々な環境保全活動をしている市民団体の取り組みや環境情報センターの活動内容を市民に知ってもらうことを目的に、2013 年度からスタートしました。毎年春に開催する予定です。

⑤ 環境学習会等の開催

a. 子ども対象

市内の小・中学校の総合学習（低学年は生活科）などへの出張授業は学校授業支援を目的とする市民団体「ひのどんぐりクラブ」との協働で、実施対象生徒数が年度合計 7,501 名（前年比 111%）でした。活動の詳細は 65 ページをご覧ください。

b. 成人対象（みんなの環境セミナー他）

第 6 期市民環境大学（20 回開催）や、「みんなの環境セミナー」（12 回開催）など、成人対象に 37 回開催、参加者は計 666 名で前年比 83%でした。

実施日	テーマ	講師、会場、参加団体など	参加者
5月8日～12月11日	第 6 期市民環境大学 全 20 回	講師：小倉紀雄氏 地球環境問題の連続講座	353
5月11日	(み)東光寺緑地の管理と植物観察	講師：小太刀智明氏、東光寺緑地	19
6月15日	(み)クレマチスの仲間たち	講師：三池田修氏、市役所 301 会議室	17
7月3日	(み)谷仲山の水と緑を見る・知る・探る<大>	講師：小倉紀雄氏、谷仲山	33
7月20日	(み)昆虫を観察し、標本を作ってみよう1	講師：森川正昭氏、 高幡台団地第 2 緑地・郷土資料館	13
8月3日	(み)昆虫を観察し、標本を作ってみよう2	講師：森川正昭氏、郷土資料館	11
8月2日	(み)水車っておもしろい！	講師：日野の水車活用プロジェクトスタッフ、 向島用水親水路水車小屋	100
8月30日	(み)太陽熱でサバイバル	講師：高野達男氏、生活・保健センター	12
9月13日	(み)里山づくり<ボ>	講師：倉本宣氏、市役所 505 会議室・中央公園	28
10月12日	(み)失われゆく緑、残された緑	講師：緑グループスタッフ、高幡周辺	23
10月18日	(み)虫や風を利用する花たち<ボ>	講師：田中肇氏、 鳥と緑の国際センター・南平丘陵公園	46
11月30日	(み)ネイチャーゲーム	講師：井上満氏、日野中央公園	15
12月4日	(み)向島用水を見る・知る・探る<大>	講師：小倉紀雄氏、向島用水親水路	23
12月10日～21日	秋の葉っぱの標本展	環境情報センター	32
5月～11月	中央大学との連携事業4回	エコライフ見学、環境フェア、産業まつりなど	20
2014年度合計	実施 37回 （前年比88%）	延べ 666 名(前年比 83 %)	

* (み)は「みんなの環境セミナー」を示す。<大>は市民環境大学公開講座、<ボ>は雑木林ボランティア講座の公開講座

* 合計人数は市民環境大学、雑木林ボランティア講座の受講生で環境セミナーに参加した人数（79 名）を除く

c. その他

●市内小学校の教員向け観察研修会

「日野市学校教員向け自然観察研修」や「学校周辺の自然観察研修」など、小学校の教員向けの環境学習や自然観察についての研修要請や「エコ・アクション」にも協力しています。

●センターニュースの発行

環境情報センターの活動を中心に、環境行政に関するトピックス、環境保全に取り組む市民団体の紹介など、年4回（4月、7月、10月、1月）「かわせみ館ニュース」（A4・4ページ）として発行しています。

⑥ 環境相談

市民からのヘビやハチの巣、巣から落ちた野鳥の対処、小学生からのカブトムシやバッタの飼育、夏休みの自由研究など、さまざまな相談を受け、環境情報センターで応じられるものは対応し、応じられないものは専門の研究者や処理業者の紹介を行っています。

⑦ 環境関連市民団体・大学等との連携・支援

実施日	テーマ	目的・内容
2014年11月8日、9日	第48回 日野市産業まつり	環境保全課ブースで「ひの緑のトラスト」活動の啓発と募金活動の支援

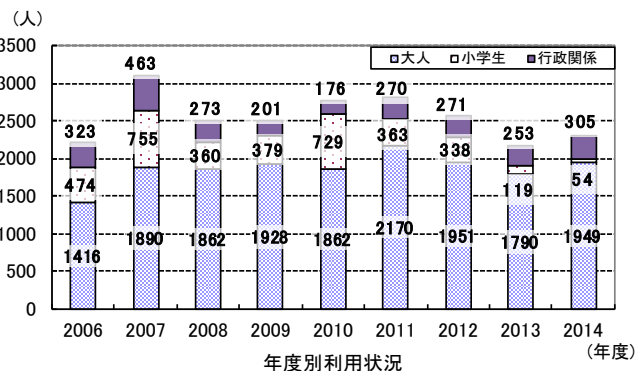
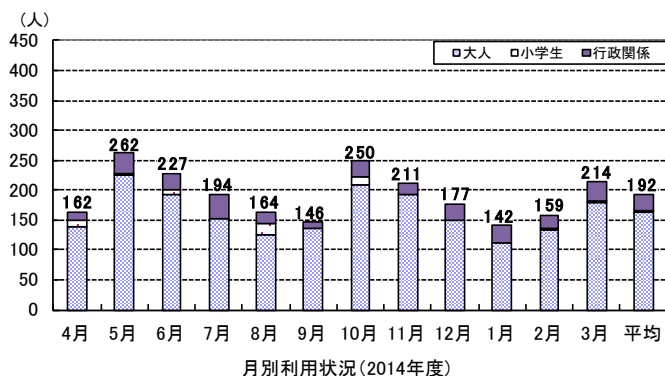
上記の他に、日野市環境基本計画推進会議で活動中の水グループ、みどりグループ、CO₂グループ、ごみグループ、及び浅川潤徳水辺の楽校、雑木林ボランティア講座、南丘雑木林を愛する会、真堂が谷戸蛸の会、都市農業研究会、ひのどんぐりクラブ、日野団塊世代広場などの活動拠点となり支援しています。また、ひの緑のトラストの事務局として、緑地保全活動の支援をしています。

⑧ 施設の利用状況

日野市環境情報センターでは市民向けに情報発信しているほかに、市民団体の会合・会議などの場として、1階の談話コーナー（約8名）、2階の会議室（約20名）を提供しています。

2014年度の当センターの年間利用状況は下図のとおりです。年度合計の来館者は2,308名（前年比107%）でした。その内訳は、小学生54名、市民成人（中学生以上）1,949名、行政関係者305名です。

談話コーナー、会議室の利用回数は177回、1,399名（前年比110%）の利用がありました。



8. 環境審議会の意見等

(1) 審議会の意見

前回発行の白書(2013年度版)では下記のとりの意見を日野市環境審議会からいただきました。

平成26年10月7日

日 野 市 長

大坪 冬彦 様

日野市環境審議会会長

千賀 裕太郎

日野市環境審議会の意見について

日野市環境基本条例（平成7年条例第18号）第18条に基づき、本環境白書案について、平成26年10月7日に開催された日野市環境審議会で審議しました。意見は下記のとおりです。今後市行政においてこれらの事項に十分に対応するとともに、次年度における白書作成時にその成果を検討するようお願いいたします。

記

1. 雨水の地下浸透について

雨水の地下浸透について、雨水浸透枳以外に市がとっている対策、例えば道路を浸透性にしたなどについても記載された方が望ましい。

8. 環境審議会の意見等

前回の白書についてご審議いただいたのは平成 26 年度の日野市環境審議会の委員です。

平成 26 年度 日野市環境審議会 委員（※敬称略）

公募市民：稲場 正、森下 良英、野田 実、岡村 和夫

学識経験者：瀬川 爾朗、千賀 裕太郎、永原 弘一、武貞 建男、宮沢 清子

事業者：榎田 光仁（日野市商工会）、大塚 政雄（日野市商工会）、

若林 昌也（日野自動車（株）環境部長）、

環境保全関係行政機関、関係団体：内川 武（日野の自然を守る会）、

清水 栄一（日野市用水組合連合会）、渡邊 昇（東京都多摩環境事務所廃棄物対策課長）

（2）日野市環境審議会（平成 26 年 10 月 7 日）意見への対応について

1. 透水性舗装の整備状況

透水性舗装の整備状況については、「2.-2（1）雨水浸透・貯留施設の設置促進」に明記いたします。

（道路課）

9. 省エネ法に関する措置

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」（以下、省エネ法という。）は、エネルギー消費量が大幅に増加している業務部門と家庭部門におけるエネルギーの使用の合理化をより一層推進することを目的に、平成20年5月に改正されました。

日野市では、市長部局と教育委員会がそれぞれ個別の事業者として、所管する施設について国に対してエネルギー使用量の報告を行っています。2013年度分のエネルギー使用量は次のとおりです。

	エネルギー使用量(原油換算)	対前年度比
市長部局	4,852k1	96.5%
教育委員会	2,425k1	97.5%

付表 指標・参考データ出典一覧

指標・参考データ	ページ	出典
指標 1 緑の構成比	11	東京都土地利用現況調査（都市計画課）
指標 2 耕地面積	12	農林水産省作物統計（産業振興課）
指標 3 生産緑地面積		都市計画課
指標 4 一人当たり都市公園面積	13	日野市公園調書（緑と清流課）
(参考) 多摩地区の一人当たり都市公園面積		東京都建設局公園調書
指標 5 市が寄付や買収等で取得した樹林地面積	15	緑と清流課
指標 6 緑地信託面積		緑のトラスト受付簿(環境保全課)
指標 7 緑のトラストへの寄付件数	16	緑と清流課
指標 8 雑木林ボランティア講座修了者数		
指標 9 市民農園の面積	17	産業振興課
指標 10 援農人数		
指標 11 2013 年度に実施した「市」の開催日数		
指標 12 学校給食における地元野菜等利用率		
指標 13 給食野菜納品農業者数	18	緑と清流課
指標 14 生垣の助成件数	19	国土交通省京浜河川事務所
指標 15 浅川の平均河川水量・水位	20	湧水量および地下水位計測調査業務委託・調査報告書(緑と清流課)
指標 16 月別雨量と調査地点の総湧水量	20・21	河川及び水路の水質等分析調査報告書(緑と清流課)
(参考) 湧水地点の状況	21	環境保全課
指標 17 各用水路の水質分析結果	22-24	地下水揚水量一覧(環境保全課)
(参考) 水生生物による水質の生物学的判定	25	緑と清流課
指標 18 地下水揚水量	26	道路課
指標 19 雨水浸透ます設置個数		下水道課
(参考) 第二次日野市交通バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況	27	緑と清流課
指標 20 下水道普及率	28	
指標 21 水辺イベントの開催数		
(参考) 「ピオトーブづくり」の取組件数	30	多摩地域ごみ実態調査(公益財団法人 東京都市町村)
指標 22 「用水守」の登録団体数	31	日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
指標 23 ごみ・資源排出原単位	32	
(参考) ごみの行方	33	大手スーパーでの出口調査(ごみ減量推進市民会議)
指標 24 資源化率	34	日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
(参考) ごみ量内訳		
指標 25 マイバック持参率・レジ袋辞退率	35	ごみゼロ推進課
指標 26 ベットボトル、発泡トレイの行政回収量	36	日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
指標 27 可燃ごみの組成		
(参考) 可燃ごみの組成	37	
指標 28 生ごみ処理器補助の件数	39	オール東京 62 市区町村共同事業「多摩地域の温室効果ガス排出量」報告書
指標 29 生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数		都市計画課
指標 30 環境学習出前講座の実施回数	40	環境保全課
指標 31 ごみ相談窓口への相談件数		
指標 32 クリーンセンター見学者数	41	都市計画課
指標 33 新聞紙の行政回収量	42	環境保全課
指標 34 二酸化炭素排出量		
(参考) エネルギー消費量	43	
指標 35 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率	44	都市計画課
指標 36 バス路線の整備状況:市内連絡バス(ミニバス)年間利用者数		
指標 37 ワットチェッカー等貸出状況	45	環境保全課
指標 38 省エネ診断の参加事業者数		
指標 39 太陽光発電等の導入補助件数	46	環境保全課
指標 40 公共施設の新エネルギー導入状況		
指標 41 都市計画道路の整備率	47	東京都環境局
指標 42 苦情受付件数	48	窒素酸化物調査報告書(環境保全課)
指標 43 マナーアップのための啓発活動状況		酸性雨市民モニターによる計測
指標 44 浮遊粒子物質(SPM)年平均	49	東京都環境局・成蹊学園気象観測所
指標 45 二酸化窒素の年平均濃度		日野市環境情報センター
指標 46 二酸化窒素 24 時間測定結果	50	環境保全課
指標 47 雨の酸性度		
(参考) 富士山ウォッチング(富士山が見えた日数)		
指標 48 道路交通騒音		
指標 49 横田飛行場に係る航空機騒音		

エコクマ、エコアラ

地球温暖化で棲んでいるところを追われ、東京都日野市にやってきたエコクマ。日野市の多摩動物園で生まれたエコアラ。地球温暖化に心を痛め、エコ活動を始めたよ。

2人で力を合わせてがんばるぞ。応援よろしくね！



エコアラ、エコクマ

2014 年度（平成 26 年度）

日野市環境白書

日野市環境基本条例第 18 条に基づく年次報告書

発行：2015 年(平成 27 年)12 月 日野市

編集：日野市環境情報センター かわせみ館

〒191-0011 東京都日野市日野本町 1-6-3

TEL 042-581-1164

URL <http://www1.hinocatv.ne.jp/kankyo/>

身近な生き物と共棲できる環境を次世代につなごう！